

山梨県北巨摩郡白州町

古御所東遺跡

県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1999

白州町教育委員会
峡北土地改良事務所

山梨県北巨摩郡白州町

古御所東遺跡

県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1999

白州町教育委員会
峡北土地改良事務所

序

この報告書は、平成4年度県営圃場整備事業に伴い、発掘調査された古御所東遺跡の調査結果をまとめたものであります。

白州町には、縄文時代から古代、中世までの各時代にわたり、人々の生活の跡を語る埋蔵文化財包蔵地が数多く分布し、各遺跡からは、それぞれの時代の土器類等が発見されています。特に、白須・鳥原・横手地区等の広い段丘面には、大規模な遺跡の存在が知られています。

全町を対象とした水田の圃場整備事業は、昭和58年度から開始され、その間には昭和59年の根古屋遺跡の発掘をはじめ、数カ所の発掘調査が行われました。

古御所東遺跡は、釜無川右岸の高位段丘面上、白州町横手字古御所地内に所在し、約6,800m²の範囲にわたり発掘調査が行われました。

その結果、平安時代の住居址42軒、古墳時代の住居址2軒、縄文時代の住居址1軒の他、中世の上坑群や地下式坑等が発見されました。最後に、この事業にご協力を賜りました県北土地改良事務所・山梨県教育庁学術文化財課等関係機関の皆様をはじめ、直接にご協力をいただきました横手区の皆様方に厚くお礼申し上げます。

平成11年3月

白州町教育委員会

教育長 渡辺哲郎

例　　言

- 1 本書は、平成4年度県営圃場整備事業に伴って発掘調査した、山梨県北巨摩郡白州町横手字古御所に所在する古御所東（ふるごしょひがし）遺跡の調査報告書である。
- 2 発掘調査は、岐北土地改良事務所との負担協定による委託と文化庁・山梨県から補助金を受けて白州町教育委員会が実施した。
- 3 遺物の拓本・実測は、込山、中山（陽）、豊浦が行い、写真撮影は杉本が行った。
- 4 本文の執筆及び編集は、杉本が行った。
- 5 本調査の出土品・諸記録は、白州町教育委員会が保管している。
- 6 本調査にあたり、岐北土地改良事務所・山梨県教育委員会学術文化財課・北巨摩市町村文化財担当者会並びに、地元の横手区の皆様にご指導とご協力をいただいた。心から謝意を表する次第です。

調査組織

調査主体　白州町教育委員会　教育長　道村初大（現地調査時）
〃　渡辺哲郎（整理調査時）

事務局　教育課長　有賀祥司

調査担当者　武藤雄六、杉本　充

調査参加者　川崎東洋雄、込山裕代、中山恵子、込山貞砂子、大久保鶴子、赤羽一枝、
桜井船子、山本静枝、中沢忠三、山田初子、小池登喜子、横田和男、
武藤　寅、鈴木弥栄子、宮川喜美代、中山陽子、豊浦和子

目 次

序

例 口・調査組織

目 次・凡 例

I章 調査状況	1
1節 調査に至る経緯	1
2節 調査経過	1
II章 遺跡の位置と概観	2
1節 位 置	2
2節 概 観	3
III章 遺構と遺物	4
1節 繩文時代の遺構と遺物	4
2節 古墳時代の遺構と遺物	4
3節 平安時代の遺構と遺物	4
4節 挖立柱建物址	10
5節 穴状遺構	10
6節 土 坑	11
7節 地下式坑	11
8節 溝状遺構	12
9節 その他の遺構	12
IV章 ま と め	33
図 版	

凡 例

1. 黒色処理された壺と陶器断面、また遺構中焼土にはスクリーントーンをかけてある。
2. 出土遺物一覧表の法量の単位は、センチメートルである。
3. 図版の遺物については、一覧表の番号と一致する。

I 章 調査状況

1 節 調査に至る経緯

平成4年度着工予定の山梨県北巨摩郡白州町横手地区県営圃場整備事業に伴い、平成3年10月に実施した埋蔵文化財確認調査により、古御所東遺跡が新たに発見された。

確認調査は、県営圃場整備事業予定期間3haを対象として、幅2m・長さ10m程の試掘坑を任意に設定し、重機により耕作土及び水田底土を排土した後、人力により地山まで掘り下げ、遺構・遺物の有無を確認する方法で行った。

その結果、平安時代の竪穴住居址や土師器などが検出され、面積5,000m²程の平安時代の集落址であろうと推定され、町教育委員会が主体となり平成4年度に本調査を行った。

その後、平成10年度に白州町地内の県営圃場整備事業の終了に伴い、事業主体である県北土地改良事務所と町とで整理調査の負担協定を締結し、本報告書刊行の運びとなった。

2 節 調査経過

発掘調査は、平成4年6月16日から開始し、同年9月4日に現地調査を終了した。その後、報告書までの整理作業が完了したのは、平成11年3月であった。

調査方法は、遺物包含層がみられなかったため重機で遺構検出面まで掘り下げた。遺構検出面は、「ローム」層である。その結果、縄文時代中期前半の竪穴住居址1軒、古墳時代の竪穴住居址2軒、平安時代の竪穴住居址42軒、掘立柱建物址1軒及びピット群、中世に属すると思われる土坑123基・溝状遺構5条・竪穴状遺構4基・地下式坑2基が発見された。

調査区は、試掘調査により約6,800m²の範囲（第3図）とし、グリッドは、10m四方で地籍図により設定した。遺跡全体図は測量会社に委託し、遺構完掘後に航空写真測量により作成した。標高については、前年度の上北田遺跡の調査にも利用した県営圃場整備事業のベンチマークを使用したが、隣接した用水路改修工事用のものと50cmの誤差がみられた。

II章 遺跡の位置と概観

1 節 位 置

古御所東遺跡は、山梨県北巨摩郡白州町横手字古御所2,061番地他に所在する。(第1図) 本遺跡の存する横手地区は、明石山脈の北部、甲斐駒ヶ岳(2,966m)の前山群を構成する上摩山地の一つ黒戸山(2,254m)の東麓に位置し、中山(887m)に隔てられるが3km程東側に流れる釜無川が形成した河岸段丘高位面を基盤に立地している。また、釜無川の支流である尾白川と大武川に南北を挟まれている(第3図)。

この横手地区には、黒戸山から3本の尾根筋がのびており、その延長上に3つの遺跡群を形成している(第2図)。3つの遺跡群は、南北に500~600m離れて分布し、縄文時代(前・中期)・平安時代・中世を主体としている。町内の他の地区と比較して、縄文時代前期の遺跡が多く分布している。

北の遺跡群は、尾白川の川沿いから中山の南東斜面にかけて分布するもので、西から縄文時代中期から後期の集落跡と見られる宮沢遺跡(第2図-2)、縄文前期後半・弥生・平安・中世の西之久保遺跡(2-3)、縄文前期後半・平安・中世の木村耕地1遺跡(2-4)、平安・中世の木村耕地2遺跡(2-5)、中世の大之田遺跡(2-6)がある。

本址を含む中の遺跡群は、西から縄文中期・平安の駒ヶ岳神社境内遺跡(2-7)、縄文前期後半の上北田2遺跡(2-8)、縄文前期から中期・平安・中世の集落跡である上北田3遺跡(2-9)、縄文時代前期・平安時代・中世の集落跡である新居道上遺跡(2-10)と上北田遺跡(2-11)、縄文時代中期の古御所遺跡(2-12)、平安・中世の新居遺跡(2-13)がある。

平成2~7年度において県営圃場整備事業に伴い、上記の内本址を含む6遺跡の発掘調査が行われている。西之久保遺跡では2,400m²の調査区に、縄文時代前期後半と弥生時代の竪穴住居址各1軒・平安時代の竪穴住居址3軒・地下式坑1基・土坑53基・溝状遺構等が検出されている。木村耕地1遺跡では2,400m²の調査区に、地下式坑22基・土坑56基・竪穴状遺構等が検出されている。上北田3遺跡では5,119m²の調査区に平安時代の竪穴住居址3軒・中世の掘立柱建物址2棟・竪穴状遺構1基・土坑107基・配石遺構4基が検出され、試掘調査により縄文時代前期末葉の集落跡の存在が推定される北側5,000m²が盛土保存となっている。新居道上遺跡では6,027m²の調査区に、縄文時代前期前半の竪穴住居址1軒・平安時代の竪穴住居址7軒・掘立柱建物址8棟・土坑189基等が検出されている。上北田遺跡では9,500m²の調査区に、縄文時代前期前半の竪穴住居址22軒・平安時代の竪穴住居址3軒・掘立柱建物址2棟・土坑230基・溝状遺構1条等が検出されている。

南の遺跡群は、南側を低位段丘面との比高差10~15m段丘崖に接する部分に分布するもので、

縄文時代中期・平安時代の中原1遺跡（2-14）、縄文時代中期・中世の中原2遺跡（2-15）がある。

2 節 概 観

本調査では、平安時代の堅穴住居址42軒、縄文時代中期前半の堅穴住居址1軒、古墳時代の堅穴住居址2軒、掘立柱建物址1軒、地下式坑2基、土坑123基、堅穴状遺構4基、溝状遺構5条が検出された。

42軒の平安時代の堅穴住居址は、西に22軒と東に20軒の二つの村に別れて検出されている。縄文時代中期前半の1軒は、西に隣接する古御所遺跡の集落の一部と考えられる。古御所遺跡は、西側の一部が県道・テニスコート・共同墓地等により破壊されているが、該期の土器片が採集されている。古墳時代の住居址については、土器等を含め町内において初めての発見である。

遺構外遺物として平安時代の住居址覆土等から、縄文時代草創期の尖頭器、早期の押形文土器が検出されている。

III章 遺構と遺物

1節 縄文時代の遺構と遺物

遺構は、中期前半の竪穴住居址1軒のみである。遺構外遺物として、平安時代の34号住居址のカマド袖部から草創期の尖頭器1点（第47図-1）と9号住居址東側壁面から早期の押形文土器（47-2～6）と水晶製のスクレイバー（47-7）が出上している。

18号住居址（第5・48図）

調査区西側、I、J-7区に位置する。検出面では平安時代の遺物が多く、東側のテラス状部分が該期の住居址の一部であり、一辺が4.2mの隅丸方形または隅丸長方形を呈するものと思われる。楕円形1点（481.0g）が出上している。縄文時代の住居址については、南側1/3が試掘トレチにより削平されているが円形を呈し、径4.8mを測る。中央やや北側に埋甕炉を持つ、炉体土器（第48図-1）の直上と北側に礫が有り、石間の一部であったと思われる。

2節 古墳時代の遺構と遺物

竪穴住居址2軒が検出された。

21号住居址（第6・49図）

調査区北端、C、D-9、10区に位置する。2号溝状遺構に北と東側壁面の一部が切られていが隅丸方形を呈し、7.3×6.6mを測る。中央北側に埋甕炉を持ち、周囲の1×0.8mを測る精円形に焼土がみられた。

22号住居址（第7・50図）

調査区北側、E-12区に位置する。西壁が36号土坑に切られているが隅丸方形を呈し、3.3×3mを測る。周溝が全周する。北側中央に埋甕炉を持ち、周囲の径60cmの範囲に焼土がみられた。炉体土器以外に遺物は出上していない。

3節 平安時代の遺構と遺物

竪穴住居址42軒が検出された。調査区の東西に別れて集中している。

1号住居址（第8図）

調査区西端、J-2区に位置する。北西1/4程が調査区外になるが隅丸方形を呈し、(6.6)×5.9mを測る。カマドは南西隅に礫と粘土で構築されていた。

図示できる遺物の出土はなかった。

2号住居址（第9・51図）

調査区西側、J-3区に位置する。隅丸長方形を呈し、5.8×3.8mを測る。1号土坑に切られるが、床面中央部に硬化面が認められた。カマドは構築材と思われる礫が散布していることから南西隅にあったと考えられる。床面の数カ所に焼土がみられた。鉛滓が2点（78.1g）出土している。

3号住居址（第10・52図）

調査区西側、H、I-4区に位置する。隅丸長方形を呈し、4.4×3.7mを測る。カマドは東辺中央南寄りに位置し、主に粘土で構築されていた。

4号住居址（第11・53・54図）

調査区西側、J-4区に位置する。隅丸方形を呈し、5.8×5.2mを測る。5・43号住居址を切る。カマドは東南隅に礫を中心に構築されていた。

5号住居址（第11・55図）

調査区西側、J-4区に位置する。隅丸方形を呈し、5.2×5.0mを測る。43号住居址を切り、4号住居址に切られる。カマドは東南隅に礫を中心に構築されていた。鉛滓が1点（16.0g）出土している。

43号住居址（第11図）

調査区西側、J-4区に位置する。4・5号住居址に切られる。隅丸方形か長方形を呈するものと思われ、4.8×(1.5)mを測る。

6号住居址（第12・56図）

調査区西側、J-4、5区に位置する。隅丸長方形を呈し、5.2×3.9mを測る。南西隅を3号竪穴状遺構に切られる。カマドは東南隅に礫を中心に構築されていた。西辺に周溝がみられた。

7号住居址（第12・57図）

調査区西側、I、J-4、5区に位置する。南側が削平されているが隅丸長方形を呈し、(5.0)×

(4.4) mを測る。中央部に炉が造られ、礫と羽釜の破片が見られた。

8号住居址（第13・58図）

調査区西側、K-3区に位置する。隅丸方形を呈し、 5.2×4.8 mを測る。カマドは北辺中央東寄で、粘土を中心に構築されていた。カマド部分を除き周溝が掘られている。覆土中から弥生時代の摩製石蹴が出土している。

9号住居址（第14・59図）

調査区西側、I-5区に位置する。5・6号土坑に切られている。44号住居址を切る。隅丸方形を呈し、 6.0×5.8 mを測る。カマドは西辺中央南寄に、礫を中心に構築されていた。
東側壁面から縄文時代早期の土器片が出土している。

44号住居址（第14・59図）

調査区西側、I-4区に位置する。9号住居址に1/2程を切られる。隅丸方形か長方形を呈し、 $3.4 \times (1.8\text{m})$ を測る。カマドの位置等は不明である。

10号住居址（第15・60図）

調査区西側、I-6区に位置する。7・8号土坑に切られる。隅丸方形を呈し、 3.8×3.8 mを測る。カマドは東辺中央やや南側で粘土を中心に構築されていた。

11号住居址（第16・61図）

調査区西側、J-5、6区に位置する。隅丸方形を呈し、 4.6×4.4 mを測る。カマドは、焼土・灰のみられる東辺中央北寄に構築されていたと推定される。鉛滓が3点（70.4g）出土している。

12号住居址（第17・62図）

調査区西側、K-6区に位置する。南辺を水路により切られているが、隅丸長方形を呈し、 5.6×3.6 mを測る。カマドの位置等は不明である。鉛滓が2点（78.1g）出土している。他に、覆土中から古銭9枚が出土している。内1枚は小片のため詳細は不明である。

13号住居址（第18・63図）

調査区西側、II-7区に位置する。床面と思われる若干硬化した跡だけであるが、隅丸方形を呈し、 5.3×4.5 mを測る。鉛滓が2点（52.5g）出土している。

14号住居址（第19・64図）

調査区西側、I-7区に位置する。隅丸長方形を呈し、 $4.1 \times 2.4\text{m}$ を測る。カマドは焼土の堆積していた南東隅に構築されていたと推定される。1号掘立柱建物址に切られている。

15号住居址（第20・65図）

調査区西側、J-6区に位置する。隅丸方形を呈し、 $4.8 \times 4.8\text{m}$ を測る。北側の1/3程が1・2号竪穴状造構に切られている。北東隅を除き幅40~50cmの周溝が掘られている。

16号住居址（第21・66図）

調査区西側、J-7区に位置する。中央南側を19号土坑に切られる。隅丸長方形を呈し、 $4.0 \times 3.6\text{m}$ を測る。炭化材が多くみられたことから焼失住居と推定される。カマドは東辺南側に粘土を中心構築されていた。

17号住居址（第22・67図）

調査区西側、J-7区に位置する。隅丸方形を呈し、 $6.1 \times 5.8\text{m}$ を測る。カマドは東辺南側に礫を中心構築されていた。西側半分に周溝が掘られている。鉱滓が十数点（715.1g）出土している。

18号住居址（第23・68図）

調査区西側、I、J-8区に位置する。隅丸方形を呈し、 $4.9 \times 4.6\text{m}$ を測る。1号溝状造構に切られる。カマドの痕跡はみられないが、1号溝に破壊されたとすると北辺西側か南辺西側に存在したと考えられる。

20号住居址（第24・69図）

調査区西側、K-6、7区に位置する。隅丸長方形を呈する2軒が重複している。新旧関係は不明である。 $6.2 \times 4.4\text{m}$ と $5.2 \times 3.6\text{m}$ を測る。18号土坑に切られる。カマドは東南隅に礫を中心構築されていた。鉱滓が2点（63.4g）出土している。

23号住居址（第25・70図）

調査区東側、G-9、10区に位置する。隅丸長方形を呈し、 $3.2 \times 2.6\text{m}$ を測る。北西隅を20号土坑に切られる。カマドは東辺中央部で礫を中心構築されていた。梳型滓が1点（414.1g）出土している。

24号住居址（第26・71図）

調査区東側、E-13区に位置する。南側半分程を2号溝状遺構に切られるが隅丸方形を呈し、 $3.6 \times (2.5)$ mを測る。カマドは北辺東側で粘土を中心に構築されていた。カマド部分を除き周溝が掘られている。

25号住居址（第27・72図）

調査区東側、G-13区に位置する。隅丸方形を呈し、 5.1×5.1 mを測る。南西隅を36号土坑に切られる。カマドは東辺南側に粘土を中心に構築されていた。カマド部分を除き崖溝が掘られている。鉛錆が1点（8.2g）出土している。

26号住居址（第28図）

調査区東側、K-10区に位置する。南辺が水路と道路により破壊されていたが、隅丸方形か長方形を呈するものと考えられ、 $2.8 \times (2.3)$ mを測る。カマドの位置等は不明である。

遺物は、土師器の小片数個と須恵器の壺口縁部1点のみで図示出来なかった。

27号住居址（第29・73図）

調査区東側、H、I-11区に位置する。隅丸方形を呈し、 3.8×3.6 mを測る。カマドは東辺南側に礫を中心に構築されていた。南辺が幅1m深さ18cm程掘り込まれている。北辺と西辺に周溝が掘られている。

28号住居址（第30・74・75図）

調査区東側、I、J-11区に位置する。隅丸方形を呈し、 3.6×3.2 mを測る。カマドは東辺中央部で礫を中心に構築されていた。北東隅を65-1、-2土坑に切られるが、東辺を除き周溝が掘られている。住居址廃絶後、中央に上臼2枚が重ねて埋められていた。また北辺中央にピットが掘られ、礫・炭化材・焼土と共に2枚の上臼の内の下側（75-2）の一部が埋められていた。

29号住居址（第31・76・77図）

調査区東側、H-12区に位置する。隅丸方形を呈し、 5.5×4.8 mを測る。カマドは東辺南側で礫を中心に構築されていた。鉛錆が1点（3.1g）出土している。

30号住居址（第32・78図）

調査区東側、H-13区に位置する。隅丸方形を呈し、 3.5×3.4 mを測る。東辺中央を66号土坑に切られる。カマドは東辺南側で礫を中心に構築されていた。西辺と東南隅に周溝が掘られている。

31号住居址（第33・79図）

調査区東側、I-13区に位置する。隅丸長方形を呈し、3.7×2.7mを測る。中央部分を68号土坑に切られ、北西隅を67号土坑に切られる。カマドの位置等は不明である。鉛洋が4点(69.7g)出土している。

32号住居址（第34・80・81図）

調査区東側、II-14区に位置する。31号住居址と69・70・71号土坑に切られる。隅丸長方形を呈し、5.8×4.5mを測る。カマドは東辺南側で礫を中心構築されていた。柱穴は検出されなかった。

42号住居址（第34・82図）

調査区東側、II-14区に位置する。32号住居址を切り、南辺を69号土坑に切られる。隅丸方形を呈し、3.6×3.2mを測る。カマドは東辺南側で粘土を中心構築されていた。

33号住居址（第35・83・84図）

調査区東側、I-14区に位置する。隅丸方形を呈し、4.2×3.6mを測る。カマドは東辺中央部で礫を中心構築されていた。カマド部分を除き周溝が掘られている。

34号住居址（第36・85～88図）

調査区東側、II-15区に位置する。隅丸方形を呈し、4.7×4.4mを測る。カマドは2ヵ所あり東辺南側と西辺南側で礫を中心構築されていた。北辺に周溝が掘られている。

35号住居址（第37・89図）

調査区東側、I-16区に位置する。中央部を72号土坑に切られ、西側を2号溝状遺構に切られる。隅丸方形か長方形を呈し、3.4×(2.3)mを測る。カマドは東辺南側に粘土を中心構築されていた。カマド部分を除き周溝が掘られている。

36号住居址（第38・90図）

調査区東側、J-15、16区に位置する。北東隅を2・5号溝状遺構に切られる。隅丸方形を呈し、6.4×6.0mを測る。南東隅と南西隅に石があり、礫石とも考えられる。

37号住居址（第39・91図）

調査区東側、J-14区に位置する。南西1/4程が38号住居址に切られる。隅丸長方形を呈し、4.8×

4.1mを測る。カマドは北辺東側で礫を中心に構築されていた。鉱滓が1点(96.6g)出土している。

38号住居址（第39・92図）

調査区東側、J-14区に位置する。37号住居址を切る。隅丸方形を呈し、4.2×4.0mを測る。カマドは南西隅で粘土を中心に構築されていた。

39号住居址（第40・93図）

調査区東側、K-13区に位置する。73号土坑に切られる。隅丸方形を呈し、4.4×4.0mを測る。カマドは北辺中央で粘土を中心に構築されていた。東辺を除き周溝が掘られている。

40号住居址（第41・94図）

調査区東側、K-13区に位置する。75号土坑に切られる。隅丸方形を呈し、4.2×3.7mを測る。カマドは東辺南側で粘土を中心に構築されていた。南辺を除き周溝が掘られている。鉱滓が1点(120.7g)出土している。

41号住居址（第42・95図）

調査区東側、L-13区に位置する。77-78-79-80号土坑に切られる。隅丸長方形を呈し、5.1×4.0mを測る。カマドは南辺西側で粘土を中心に構築されていた。南辺を除き周溝が掘られていた。

4節 挖立柱建物址

確認できたのは1軒のみであるが、ピット群は平安時代の堅穴住居址同様に東西2地点に分かれて集中していた。ピットのほとんどが径・深さ共に20~30cm程度であった。

1号掘立柱建物址（第43図）

調査区西側、I-7区に位置する。東西に長く梁行2間、桁行3間の總柱の建物である。南北溝の1本は確認されなかったが、柱穴の中心を基準とすると、東西5.5m、南北3.6mの長方形を呈する。柱間寸法はおよそ1.8mである。

5節 堅穴状造構

4基検出された。

1号竪穴状遺構（第44図）

調査区西側、J-6区に位置する。南西隅がやや突出しているが隅丸方形を呈し、 $2.4 \times 2.1\text{m}$ を測る。平安時代の15号住居址を切る。

2号竪穴状遺構（第44図）

調査区西側、J-6区に位置する。隅丸方形を呈し、 $2.6 \times 2.4\text{m}$ を測る。平安時代の15号住居址を切る。

3号竪穴状遺構（第12・96図）

調査区西側、J-4区に位置する。隅丸長方形を呈し、 $4.7 \times 2.5\text{m}$ を測る。3・4号土坑に切られ、平安時代の6号住居址を切る。

4号竪穴状遺構

調査区中央東側、L-14区に位置する。尖測図紛失のため詳細不明であるが、隅丸長方形を呈し、約 $2.8 \times 1.9\text{m}$ を測る。81・82号土坑に切られる。

6節 土 坑

123基が検出された。特に調査区東側に多く分布している。ほとんどが「円形土坑」であり、時期は中世に属すると思われる。「円形土坑」は平面形がほぼ正円形を呈し、径 $100\sim 130\text{cm}$ のものが大半を占め一定の規格があったことが推定される。断面形はフ拉斯コ状ないしは円筒状を呈する。深さについては $10\sim 110\text{cm}$ の範囲に際だった集中部分もなく規格性は認められない。壁面には、明瞭な工具痕（幅 $5\sim 6\text{cm}$ ）が残っている。覆土が細かなロームブロックが均一に混ざっていることから、掘られた直後に埋め戻されたと推定される。遺物はほとんど発見されない。

「円形土坑」は町内の発掘調査により800基以上がこれまでに検出されているが、その用途等は遺物の出土もなく不明である。人為的に埋め戻されていることから、「円形土坑」を墓坑と仮定して平成6年度から覆土のリン酸分析等を試みている。

7節 地下式坑

2基が検出された。大きさにかなり違いがある2基は、特殊な形態を持つ。竪坑が、室部の床面と半分ほど重なり、また室部の竪坑側の両隅に抉りがあるため「柱」の様な部分が作られている。北に500m離れた本村耕地1遺跡の平成7年度調査においても、検出された22基中11基が同様

の形態を持っていた。

1号地下式坑（第45図）

調査区東側、G-12区に位置する。豊坑開口部は不整な楕円形を呈し、 $2.7 \times 2.4\text{m}$ を測る。室部は豊坑側が抉られているため丸みを帯びた凹状を呈し、主軸方向に短く $2.2 \sim 2.4 \times 2.7\text{m}$ を測る。検出面から床面までの深さは、 2.3m である。豊坑上部は人頭大の礫で閉塞されていた。

2号地下式坑（第46・97図）

調査区東側、G-13区に位置する。豊坑開口部は円形を呈し、径 1.1m を測る。室部は豊坑側が抉られているため丸みを帯びた凹状を呈し、主軸方向に短く $0.8 \sim 1.6 \times 2.3\text{m}$ を測る。検出面から床面までの深さは、 2.5m である。床面に厚さ 30cm の淡黄色を呈する粘土が貼られていた。

8節 溝状遺構

5条検出された。覆土中の土師質土器片から中世以降のものと考えられる。1号溝状遺構のみ底部に砂の堆積がみられた。

9節 その他の遺構

1-6区古銭出土ビット（第43・98図）

1号掘立柱建物址の西側に検出された径 20cm 、深さ 5cm の円形を呈するビットである。検出面において古銭が確認され、13枚出土している。この13枚は紐を通して痕跡がみられた。内1枚は磨耗のため詳細不明である。

第1表 縄文時代草創期早期の出土遺物一覧表（第47図）

番号	種類	器種	法量	胎土	色調	調整・その他
1	石器	尖頭器	長(5.8) 幅2.2 厚(0.9)			枯板岩 草創期 11.7g
2	縄文 上器	深鉢	口 —— 底 —— 高 ——	密 砂・赤色粒子 雲母含む	明赤褐色 (5YR5/8)	横凹押型文 早期 9住
3	縄文 土器	深鉢	口 —— 底 —— 高 ——	密 砂・赤色粒子 雲母含む	明赤褐色 (5YR5/6)	横凹押型文 早期
4	縄文 上器	深鉢	口 —— 底 —— 高 ——	やや密 白色粒子含む	浅黄橙色 (10YR8/4)	横凹押型文 早期 9住
5	縄文 土器	深鉢	口 —— 底 —— 高 ——	密 砂・赤色粒子 雲母含む	にふい橙色 (5YR6/4)	山形押型文 早期 9住
6	縄文 上器	深鉢	口 —— 底 —— 高 ——	密 雲母含む	橙色 (5YR6/6)	山形押型文 早期
7	石器	削器	長6.1 幅(2.9) 厚 1.6			水晶 早期? 32.8g

第2表 18号住居址出土遺物一覧表（第48図）

番号	種類	器種	法量	胎土	色調	調整・その他
1	縄文 上器	深鉢	口 24.4 底 —— 高 (29.5)	やや密 砂粒 白色粒子含む	橙色 (5YR7/6)	炉体上器 把手・底部欠 中期前半
2	縄文 土器	深鉢	口 —— 底 —— 高 ——	やや密 小石粒 雲母含む	にふい橙色 (5YR6/4)	中期前半
3	縄文 土器	土偶	長(7.8) 幅(5.8) 高(4.9)	やや密 雲母・小石粒 赤色粒子含む	橙色 (5YR7/6)	右足部分のみ
4	縄文 土器	深鉢	口 —— 底 —— 高 ——	やや密 小石粒 赤色粒子含む	橙色 (5YR6/6)	中期前半
5	上器	壺	口 (12.6) 底 4.0 高 4.5	やや密 赤色粒子 白色粒子含む	橙色 (5YR6/6)	外 ロクロなで下半ヘラ削り 内 ロクロなで 底 ヘラ削り回転糸切り
6	土師器	壺	口 —— 底 —— 高 ——	やや密 赤・白色粒子 雲母含む	橙色 (7.5YR7/6)	外 ロクロなで墨青 内 ロクロなで墨色処理
7	土器	皿	口 12.8 底 4.5 高 2.5	密 赤・白色粒子 雲母含む	橙色 (5YR6/6)	外 ロクロなで下半ヘラ削り 内 ロクロなで 底 回転糸切り
8	土師器	甕	口 —— 底 —— 高 ——	小石粒 雲母含む	橙色 (7.5YR7/6)	外 繊刷毛目 内 橫刷毛目

第3表 21号住居址出土遺物一覧表（第49図）

番号	種類	器種	法量	胎土	色調	調整・その他
1	上師器	甕	口(20.4) 底— 高—	やや密 小石粒 赤色粒子含む	橙色 (5YR7/6)	外 刷毛目 内 刷毛目 が体土器
2	土師器	甕	口(18.0) 底— 高—	密 赤色粒子含む	淡橙色 (5YR8/4)	外 刷毛目 S字状口縁
3	上師器	甕	口(13.0) 底— 高—	密 小石粒 赤色粒子含む	浅黄色 (7.5YR8/3)	外 刷毛目 内 刷毛目
4	土師器	甕	口— 底10.0 高—	やや密 赤・白色粒子 砂粒含む	黄橙色 (7.5YR7/8)	外 なで 内 刷毛目
5	上師器	高杯	口— 底(10.3) 高—	密 赤・白色粒子 砂粒含む	浅黄色 (7.5YR8/3)	高台部のみ
6	土師器	高台付甕	口— 底(7.1) 高—	密 赤・白色粒子 砂粒含む	淡橙色 (5YR8/4)	高台部のみ 外 刷毛目 内 刷毛目
7	上師器	甕	口— 底10.0 高—	やや密 小石粒 赤色粒子含む	橙色 (5YR7/6)	外 なで 内 刷毛目 被熱し内外の器面が剥落

第4表 22号住居址出土遺物一覧表（第50図）

番号	種類	器種	法量	胎土	色調	調整・その他
1	上師器	甕	口— 底— 高—	密 小石粒 赤色粒子含む	橙色 (2.5YR6/8)	外 刷毛目 内 刷毛目 が体土器

第5表 2号住居址出土遺物一覧表（第51図）

番号	種類	器種	法量	胎土	色調	調整・その他
1	土師器	环	口— 底— 高—	密 赤色粒子含む	橙色 (2.5YR6/6)	外 ロクロなで刻書
2	土師器	羽釜	口(35.0) 底— 高—	密 小石 赤色粒子含む	明赤褐色 (2.5YR5/6)	
3						
4						

第6表 3号住居址出土遺物一覧表（第52図）

番号	種類	器種	法量	胎土	色調	調整・その他
1	上師器	环	口(12.7) 底(5.7) 高5.6	密 白色粒子含む	浅黄色 (7.5YR8/6)	内底 墨書き
2	土師器	环	口(10.7) 底(5.5) 高4.95	密 白色粒子含む	浅黄色 (7.5YR8/4)	外 ロクロなで 内 黒色処理
3	土師器	甕	口(17.8) 底(4.2) 高—	密 白・赤色粒子 含む	橙色 (5YR7/8)	外 墨書き 内 放射状暗文

第7表 4号住居址出土遺物一覧表（第53・54図）

番号	種類	器種	法量	胎土	色調	調整・その他
1	土師器	小皿	口 8.9 底 4.3 高 2.4	密 雪母含む	橙色 (5 YR6/6)	外 ロクロなで 内 ロクロなで 底 回転糸切り
2	土師器	小皿	口 8.7 底 4.8 高 3.2	やや密 赤・白色粒子 小石含む	にふい赤褐色 (5 YR4/3)	外 ロクロなで 内 ロクロなで 底 回転糸切り
3	土師器	小皿	口 (8.2) 底 (4.2) 高 2.5	密 雪母含む	にふい橙色 (5 YR6/4)	外 ロクロなで 内 ロクロなで 底 回転糸切り
4	土師器	壺	口 (13.0) 底 (6.6) 高 4.1	密 赤・白色粒子 含む	淡橙色 (5 YR8/4)	外 ロクロなで 内 黑色処理、暗文 底 回転糸切り
5	土師器	壺	口 (14.2) 底 (5.6) 高 4.7	密 赤・白色粒子 含む	にふい橙色 (5 YR6/4)	外 ロクロなで 内 ロクロなで
6	土師器	壺	口 (12.4) 底 —— 高 ——	密 赤・白色粒子 含む	浅黄橙色 (7.5YR8/4)	外 ロクロなで 内 黑色処理
7	土師器	皿	口 12.8 底 6.7 高 2.8	密 小石含む	にふい橙色 (7.5YR7/4)	内 黑色処理 付高台
8	土師器	羽釜	口 —— 底 —— 高 ——	やや密 小石粒含む	明赤褐色 (2.5YR5/6)	
9	土師器	羽釜	口 —— 底 —— 高 ——	やや密 小石粒含む	にふい橙色 (2.5YR6/4)	
10	土師器	羽釜	口 —— 底 —— 高 ——	やや密 小石粒含む	浅黄橙色 (7.5YR8/4)	
11	土師器	小型甕	口 (16.3) 底 —— 高 ——	密 小石粒 雪母含む	橙色 (5 YR7/6)	外 ロクロなで
12	須恵器	——	口 —— 底 —— 高 ——	密	灰色 (7.5Y6/1)	
13	灰釉	壺	口 (17.1) 底 (8.1) 高 (5.8)	密 白色粒子含む	明紫灰色 (5 P7/1)	
14	須恵器	鉢	口 —— 底 —— 高 ——	密 小石粒含む	明青灰色 (5 PB7/1)	
15	須恵器	甕	口 —— 底 —— 高 ——	密 小石粒 赤色粒子含む	灰色 (7.5Y6/1)	外 印日 内 印日
16	鉄製品	劫錐車	口 4.8 厚 0.3 長 (5.0)		13.8 g	

第8表 5号住居址出土遺物一覧表(第55図)

番号	種類	器種	法量	胎土	色調	調整・その他
1	土師器	环	口 14.0 底 5.0 高 5.3	やや密 白色粒子小石 含む	橙色 (5 YR7/6)	外 下半ヘラ削り 刻書 内 黒色・放射状暗文
2	土師器	环	口 (13.0) 底 —— 高 (4.2)	やや密 白色粒子小石 含む	浅黄橙色 (7.5YR8/6)	
3	土師器	环	口 —— 底 —— 高 ——	密 赤色粒子含む	橙色 (7.5YR7/6)	外 ヘラ削り 内 なで 底 回転糸切り
4	土師器	环	口 —— 底 —— 高 ——	密 白色粒子含む	橙色 (7.5YR7/6)	外 下半ヘラ削り 墨書き 内 黒色・放射状暗文
5	土師器	皿	口 (12.2) 底 6.2 高 2.9	密 赤・白色粒子 含む	浅黄橙色 (7.5YR8/4)	外 ロクロなで 内 黒色処理 底 付高台
6	灰釉	环	口 (17.3) 底 8.1 高 6.1	密 赤・白色粒子 含む	灰白色 (7.5YR8/1)	
7	土師器	羽釜	口 —— 底 —— 高 ——	やや粗 小石粒含む	にじい赤褐色 (5 YR5/4)	
9						

第9表 6号住居址出土遺物一覧表(第56図)

番号	種類	器種	法量	胎土	色調	調整・その他
1	灰釉	环	口 —— 底 (8.4) 高 2.4	密	灰白色 (5 YR8/1)	底 回転糸切り・付高台
2	灰釉	鉢	口 —— 底 (16.6) 高 ——	密	灰白色 (7.5YR8/1)	底 付高台
3	灰釉	——	口 —— 底 (10.2) 高 ——	密 小石粒含む	灰白色 (5 YR8/1)	
4	土師器	片口鉢	口 —— 底 —— 高 (10.7)	密 赤・白色粒子 含む	橙色 (7.5YR7/6)	片口内に指痕
5	土師器	羽釜	口 —— 底 —— 高 ——	やや粗 小石粒 含む	橙色 (7.5YR6/8)	内 刷毛目
6	石製品	砥石	長(3.5) 幅(1.9) 高 1.3			18.3g 泥岩

第10表 7号住居址出土遺物一覧表（第57図）

番号	種類	器種	法量	胎土	色調	調整・その他
1	土師器	羽釜	口 (28.8) 底 高 —	密 白色粒子 砂粒含む	橙色 (7.5YR7/6)	外 刷毛目 内 横刷毛目
2	灰釉 壺		口 — 底 (7.5) 高 —	密 白色粒子含む	灰白色 (7.5Y8/1)	底 付高台
3	鉄製品	鍔鋸車	口 4.9 厚 0.3 長 —			16.8g

第11表 8号住居址出土遺物一覧表（第58図）

番号	種類	器種	法量	胎土	色調	調整・その他
1	土師器	壺	口12.8 底 6.0 高 4.4	やや粗 赤色粒子 小石粒含む	浅黃橙色 (10YR8/4)	内 黒色・放射状暗文 底 回転糸切り
2	鉄製品	刀子	長(19.2)	幅 1.7 厚 0.3		28.2g
3	石器	磨製石旗	長(3.6)	幅(2.4) 厚 0.3		粘板岩 3.6g

第12表 9・44号住居址出土遺物一覧表（第59図、8のみ44往）

番号	種類	器種	法量	胎土	色調	調整・その他
1	土師器	壺	口11.7 底 4.5 高 4.2	やや密 赤色粒子含む	橙色 (5 YR6/6)	外 下半ヘラ削り 内 放射状暗文 底 墨書き
2	土師器	壺	口 (10.7) 底 5.6 高 4.3	密 赤色粒子 雲母含む	橙色 (7.5YR7/6)	外 下半ヘラ削り 底 回転糸切後ヘラ削り刻書
3	土師器	壺	口 (13.6) 底 (6.4) 高 3.5	やや粗 小石粒 赤色粒子含む	にぼい橙色 (7.5YR7/4)	内 黒色処理 底 回転糸切り
4	土師器	壺 ?	口 — 底 — 高 —	密 赤・白色粒子 含む	橙色 (5 YR7/6)	底内 暗文 底外 ヘラ削り・墨書き
5	土師器	甕	口 (28.0) 底 — 高 —	やや密 雲母 小石粒含む	にぼい橙色 (5 YR7/4)	外 縦刷毛目 内 横刷毛目
6	土師器	甕	口 (31.0) 底 — 高 —	やや密 小石粒 雲母含む	明赤褐色 (2.5YR5/6)	外 縦刷毛目 内 横刷毛目
7	土師器	甕	口 — 底 6.8 高 —	やや密 小石粒 雲母含む	橙色 (2.5YR6/8)	底 木葉痕
8 44往	土師質	小皿	口 (8.6) 底 (4.1) 高 2.5	やや密 小石粒 雲母含む	にぼい橙色 (5 YR7/4)	外 ロクロなで 底 回転糸切り

第13表 10号住居址出土遺物一覧表（第60図）

番号	種類	器種	法量	胎土	色調	調整・その他
1	土師器	甕	口 —— 底 —— 高 ——	やや密 小石粒雲母 赤色粒子含む	橙色 (7.5YR7/6)	外 縦刷毛目 内 橫刷毛目
2	土師器	甕	口 —— 底 —— 高 ——	やや密 小石粒雲母 赤色粒子含む	にぶい橙色 (7.5YR7/3)	外 縦刷毛目

第14表 11号住居址出土遺物一覧表（第61図）

番号	種類	器種	法量	胎土	色調	調整・その他
1	土師器	壺	口 —— 底 5.2 高 ——	密 赤色粒子 白色粒子含む	橙色 (2.5YR6/8)	外 下半ヘラ削り 内 放射状暗文 底 系切後ヘラ・切書
2	土師器	甕	口 (25.2) 底 —— 高 ——	やや密 雲母赤色粒子 小石粒含む	橙色 (5YR6/6)	外 縦刷毛目 内 橫刷毛目
3	土師器	甕	口 (24.2) 底 —— 高 ——	やや密 雲母赤色粒子 小石粒含む	橙色 (2.5YR6/6)	外 縦刷毛目 内 橫刷毛目
4	土師器	甕	口 —— 底 —— 高 ——	密 赤・白色粒子 小石粒含む	橙色 (7.5YR7/6)	外 縦刷毛目・被熱剥落 内 橫刷毛目
5	土師器	甕	口 —— 底 (8.0) 高 ——	やや密 雲母赤色粒子 小石粒含む	橙色 (5YR7/6)	外 縦刷毛目 内 橫刷毛目 底 木葉灰
6	土師器	甕	口 (13.6) 底 —— 高 ——	やや密 白・赤色粒子 小石粒含む	橙色 (5YR7/6)	外 ロクロなで
7	土師器	甕	口 —— 底 (5.2) 高 ——	やや密 白・赤色粒子 小石粒含む	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	

第15表 12号住居址出土遺物一覧表（第62図）

番号	種類	器種	法量	胎土	色調	調整・その他
1	土師器	片口鉢	口 —— 底 —— 高 ——	やや密 赤・白色粒子 雲母小石含む	橙色 (5YR7/8)	外 なで 内 橫刷毛目
2	須恵器	甕	口 —— 底 —— 高 ——	やや密 小石粒含む	褐色 (7.5YR4/3)	外 印き目
3	古銭	北宋銭	径2.52 孔0.69 厚0.12	政和通寶(初鋤1111年)	2.7g 対読	
4	古銭	北宋銭	径2.49 孔0.6 厚0.13	祥符元寶(初鋤1008年)	3.4g 順読	
5	古銭	唐銭	径2.43 孔0.67 厚0.12	開元通寶(初鋤621年)	3.4g 対読	
6	古銭	北宋銭	径2.45 孔0.65 厚0.12	元祐通寶(初鋤1093年)	3.8g 順読	
7	古銭	北宋銭	径2.45 孔0.66 厚0.13	元祐通寶(初鋤1093年)	3.1g 順読	
8	古銭	北宋銭	径2.45 孔0.69 厚0.11	皇宋元寶(初鋤1039年)	3.2g 対読	
9	古銭	北宋銭	径2.42 孔0.7 厚0.1	皇宋元寶(初鋤1039年)	3.2g 対読	
10	古銭	北宋銭	径2.44 孔0.69 厚0.1	元符元寶(初鋤1098年)	3.1g 順読	

第16表 13号住居址出土遺物一覧表（第63図）

番号	種類	器種	法量	胎土	色調	調整・その他
1	土師器	环	口 —— 底 —— 高 ——	密 赤・白色粒子 小石粒含む	浅黄橙色 (10YR8/4)	外 黒書 内 黒色処理

第17表 14号住居址出土遺物一覧表（第64図）

番号	種類	器種	法量	胎土	色調	調整・その他
1	土師器	环	口 (12.4) 底 —— 高 ——	密 白色粒子 赤色粒子含む	橙色 (7.5YR7/6)	外 ロクロなで媒付着 内 ロクロなで赤彩
2	土師器	环	口 —— 底 5.3 高 ——	密 白色粒子 赤色粒子含む	橙色 (7.5YR7/6)	外 ロクロなで 内 ロクロなで 回転糸切り
3	土師器	羽 瓶	口 —— 底 —— 高 ——	やや密 赤色粒子 小石粒含む	橙色 (5YR7/6)	外 縦刷毛目 内 横刷毛目
4	灰 粉	甕	口 —— 底 (14.2) 高 ——	やや密 小石粒含む	灰色 (7.5Y8/1)	

第18表 15号住居址出土遺物一覧表（第65図）

番号	種類	器種	法量	胎土	色調	調整・その他
1	土師器	环	口 —— 底 5.2 高 ——	密 赤・白色粒子 雲母含む	橙色 (5YR7/6)	底 糸切り後ヘラ・刻書

第19表 16号住居址出土遺物一覧表（第66図）

番号	種類	器種	法量	胎土	色調	調整・その他
1	土師器	环	口 (13.0) 底 5.5 高 5.1	やや密 赤・白色粒子 小石粒含む	浅黄橙色 (7.5YR8/4)	外 ロクロなで墨青 内 ロクロなで黑色処理 底 回転糸切り
2	土師器	环	口 12.0 底 5.2 高 4.7	密 白・赤色粒子 含む	橙色 (5YR7/6)	外 ロクロなで 内 ロクロなで 回転糸切り
3	土師器	甕	口 —— 底 —— 高 ——	やや密 赤色粒子雲母 小石粒含む	橙色 (7.5YR7/6)	外 縦刷毛目 内 横刷毛目
4	土師器	甕	口 —— 底 —— 高 ——	密 白・赤色粒子 小石雲母含む	にじい橙色 (5YR7/4)	外 縦刷毛目 内 横刷毛目
5	須恵器	凸帯瓶	口 —— 底 —— 高 ——	密 白・赤色粒子 小石含む	灰白色 (5Y8/2)	外 印き目
6	灰 粉	甕	口 —— 底 —— 高 ——	密	灰白色 (5Y8/2)	外 ロクロなで
7	鉄製品	紡錘車	口 6.7 厚 0.7 長 (20.5)			96.7g

第20表 17号住居址出土遺物一覧表（第67回）

番号	種類	器種	法量	胎土	色調	調整・その他
1	土師器	环	口 (13.2) 底 (6.2) 高 4.3	やや密 赤・白色粒子 含む	浅黄橙色 (7.5YR8/6)	内 外 底 ロクロなで ロクロなで下半へラ ヘラ削り
2	土師器	环	口 12.0 底 —— 高 ——	やや密 白色粒子 赤色粒子含む	橙色 (5 YR6/6)	外 内 ロクロなで下半へラ削り ロクロなで
3	土師器	环	口 13.0 底 5.6 高 4.9	密 雲母・小石 赤色粒子含む	浅黄橙 (7.5YR8/6)	外 内 底 ロクロなで 墨書 黑色処理 回転糸引き
4	土師器	环	口 12.2 底 5.4 高 4.3	密 小石粒赤色粒 雲母含む	浅黄色 (7.5YR8/4)	外 内 底 ロクロなで 黒青 黒色処理放射状暗文 同歯糸引き
5	土師器	环	口 —— 底 —— 高 ——	密 赤・白色粒子	明赤褐 (2.5YR5/8)	外 内 ロクロなで 墨書 ロクロなで
6	土師器	环	口 —— 底 —— 高 ——	密 白色粒子小石 砂粒含む	黄橙色 (7.5YR7/8)	外 内 ロクロなで 黑青 ロクロなで
7	土師器	环	口 —— 底 —— 高 ——	密 赤・白色粒子	橙色 (7.5YR7/6)	外 内 ロクロなで 墨書 ロクロなで黒色処理
8	土師器	环	口 —— 底 —— 高 ——	密 赤・白色粒子	浅黄色 (7.5YR8/4)	外 内 ロクロなで 墨書 ロクロなで黒色処理
9	土師器	环	口 —— 底 —— 高 ——	やや密 赤・白色粒子 雲母含む	浅黄橙色 (7.5YR8/4)	外 内 ロクロなで 黑青 ロクロなで黒色処理
10	土師器	环	口 (12.8) 底 (5.2) 高 4.1	やや密 赤・白色粒子 小石粒含む	浅黄橙色 (7.5YR8/4)	外 内 底 ロクロなで ロクロなで黒色処理 回転糸引き
11	土師器	环	口 (17.8) 底 —— 高 ——	密 赤・白色粒子 雲母含む	橙色 (5 YR7/6)	外 内 底 ロクロなで 黑色処理 付高台
12	土師器	环	口 —— 底 6.6 高 ——	密 赤・白色粒子 小石含む	浅黄橙色 (7.5YR8/3)	外 内 底 ロクロなで ロクロなで黒色処理 回転糸切り 付高台
13	土師器	皿	口 12.2 底 3.2 高 2.7	やや密 粗赤色・白色 金色雲母含む	橙色 (2.5YR6/8)	外 内 底 ロクロなで下半へラ削り墨書 ロクロなで ヘラ削り
14	土師器	皿	口 (13.2) 底 —— 高 2.8	密 赤・白色粒子 小石含む	浅黄橙色 (7.5YR8/3)	外 内 ロクロなで 墨書 ロクロなで黒色処理暗文
15	土師器	皿	口 —— 底 6.15 高 ——	密 赤・白色粒子 雲母小石含む	浅黄橙色 (10YR8/4)	外 内 底 ロクロなで 刻書 ロクロなで黒色処理 付高台
16	土師器	皿	口 —— 底 5.0 高 ——	密 赤・白色粒子 含む	淡橙色 (5 YR8/4)	外 内 底 ロクロなで ロクロなで黒色処理 回転糸切
17	土師器	皿	口 —— 底 —— 高 ——	密 赤・白色粒子 含む	にふい橙色 (10YR7/4)	外 内 底 ロクロなで下半へラ削り ロクロなで刻書 付高台

番号	種類	器種	法量	胎土	色調	調整・その他
18	土師器	甕	口 —— 底 —— 高 ——	やや密 赤色粒子雲母 小石粒含む	淡赤橙色 (2.5YR7/4)	外 縦刷毛目 内 橫刷毛目
19	土師器	甕	口 (16.4) 底 —— 高 ——	やや密 雲母 小石粒含む	棕色 (5 YR6/6)	外 縦刷毛目 内 橫刷毛目口縁煤付着
20	土師器	甕	口 (14.0) 底 —— 高 ——	やや密 雲母 小石粒含む	棕色 (5 YR6/6)	外 縦刷毛目 内 橫刷毛目口縁煤付着
21	灰釉	長頸甕	口 9.7 底 —— 高 ——	密 白色粒子含む	灰白色 (10Y8/1)	
22	灰釉		口 —— 底 —— 高 ——	密 小石粒含む	灰白色 (10Y8/1)	内 ロクロなで 底 付高台

第21表 19号住居址出土遺物一覧表(第68図)

番号	種類	器種	法量	胎土	色調	調整・その他
1	土師器	甕	口 —— 底 —— 高 ——	密 雲母小石粒含む	浅黄橙色 (10YR8/3)	外 縦刷毛目 内 橫刷毛目

第22表 20号住居址出土遺物一覧表(第69図)

番号	種類	器種	法量	胎土	色調	調整・その他
1	土師器	甕	口 14.2 底 5.1 高 5.3	やや密 粗い赤色粒子 白色粒子含む	棕色 (2.5YR6/6)	外 ロクロなで下半ヘラ削り・刻書 底 回転糸切りヘラ削り
2	土師器	甕	口 3.9 底 —— 高 ——	やや密 赤・白色粒子 含む	淡赤橙色 (2.5YR7/4)	外 下半ヘラ削り 内底 刻書 底 回転糸切りヘラ削り・刻書
3	土師器	皿	口 —— 底 —— 高 ——	やや密 赤・白色粒子 小石粒含む	棕色 (5 YR6/6)	外 ロクロなで 墨書き 内 ロクロなで
4	土師器	甕	口 —— 底 —— 高 ——	やや密 赤・白色粒子 含む	淡橙色 (5 YR8/3)	外 ロクロなで 墨書き 内 ロクロなで
5	土師器	甕	口 —— 底 —— 高 ——	やや密 赤色粒子含む	棕色 (2.5YR8/6)	外 ロクロなで 墨書き 内 ロクロなで
6	土師器	甕	口 —— 底 —— 高 ——	やや密 赤・白色粒子 含む	棕色 (5 YR7/6)	外 ロクロなで 墨書き 内 ロクロなで 放射状暗文墨書き
7	土師器	皿	口 (13.1) 底 4.0 高 2.5	やや密 赤色粒子含む	棕色 (5 YR7/6)	外 ロクロなで下部ヘラ削り 内 墨書き 底 ロクロなで 刻書 回転糸切りヘラ削り
8	土師器	甕	口 (16.4) 底 —— 高 ——	やや密 雲母・小石粒 含む	明赤褐色 (5 YR5/8)	外 縦刷毛目 内 橫刷毛目
9	土師器	甕	口 —— 底 —— 高 7.8	密 雲母赤色粒子 小石粒含む	にぼい褐色 (7.5YR7/3)	底 木葉痕

番号	種類	器種	法量	胎土	色調	調整・その他
10	土師器	甕	口 —— 底 —— 高 ——	密 雲母 小石粒含む	にじい褐色 (5YR7/3)	外 縦刷毛目 内 横刷毛目
11	土師器	甕	口 —— 底 —— 高 ——	やや密 雲母砂粒 赤色粒子含む	にじい褐色 (7.5YR7/3)	外 縦刷毛目 内 横刷毛目
12	灰釉	坏	口 (14.9) 底 7.1 高 5.1	密 小石粒含む	灰白色 (2.5YR8/2)	外 ロクロなで 内 ロクロなで 底 付高台
13	石製品	砾石	長(6.9) 幅 5.2 高 1.3			176.7g 硬灰岩

第23表 23号住居址出土遺物一覧表 (第70回)

番号	種類	器種	法量	胎土	色調	調整・その他
1	土師器	坏	口 (13.2) 底 (4.6) 高 4.0	やや密 赤色粒子含む	橙色 (5YR7/6)	外 下半ヘラ削り 内 ロクロなで 底 ヘラ削り
2	土師器	坏	口 (13.2) 底 (6.2) 高 3.5	やや密 赤色粒子含む	橙色 (2.5YR7/6)	外 ロクロなで 内 ロクロなで 底 回転糸切り
3	土師器	坏	口 —— 底 6.8 高 ——	やや密 赤色粒子含む	にじい褐色 (7.5YR7/3)	外 ロクロなで 内 黒色処理 噌文 底 回転糸切り
4	土師器	坏	口 —— 底 5.2 高 ——	密 赤色粒子含む	橙色 (2.5YR7/6)	外 ロクロなで 内 ロクロなで 底 回転糸切り
5	土師器	坏	口 (16.2) 底 —— 高 ——	密 赤色粒子含む	橙色 (5YR7/6)	外 ロクロなで 内 ロクロなで
6	土師器	坏	口 —— 底 6.2 高 ——	密 赤色粒子含む	橙色 (5YR7/6)	外 ロクロなで 内 ロクロなで 底 回転糸切り
7	灰釉	坏	口 (18.7) 底 —— 高 ——	密	灰白色 (7.5Y8/1)	外 ロクロなで 内 ロクロなで
8	須恵器	凸带甕	口 —— 底 —— 高 ——	やや密 赤色粒子 小石粒含む	灰白色 (7.5Y7/1)	外 ロクロなで 明目 内 ロクロなで 明目

第24表 24号住居址出土遺物一覧表 (第71回)

番号	種類	器種	法量	胎土	色調	調整・その他
1	土師器	甕	口 —— 底 —— 高 ——	やや密 雲母 赤色粒子含む	橙色 (5YR6/6)	外 縦刷毛目 内 横刷毛目
2	土師器	甕	口 —— 底 (9.3) 高 ——	やや密 雲母小石粒含む	赤橙色 (10R6/6)	外 縦刷毛目 内 横刷毛目 底 木葉痕
3	土師器	甕	口 —— 底 (8.8) 高 ——	やや密 赤色粒子砂粒 含む	橙色 (2.5Y6/6)	外 縦刷毛目 内 横刷毛目 底 木葉痕
4	土師器	甕	口 —— 底 (8.3) 高 ——	やや密 赤色粒子砂粒 雲母含む	橙色 (2.5YR6/6)	外 縦刷毛目 内 横刷毛目 底 木葉痕

第25表 25号住居址出土遺物一覧表（第72図）

番号	種類	器種	法量	胎土	色調	調整・その他
1	土師器	环	口 11 (15.3) 底 (7.2) 高 6.1	密 赤・白色粒子 含む	橙色 (5 YR7/6)	外 下半ヘラ削り 内 放射状暗文 底 刷りだし高台
2	土師器	环	口 11.8 底 4.0 高 4.4	密 赤・白色粒子 含む	橙色 (5 YR7/6)	外 下半ヘラ削り 墨書 底 墨書
3	土師器	环	口 —— 底 (5.3) 高 ——	密 赤・白色粒子 含む	淡赤橙色 (2.5 YR7/4)	外 下半ヘラ削り 内 黒色処理 底 ヘラ削り 墨書
4	土師器	皿	口 —— 底 —— 高 ——	密 赤色粒子含む	赤橙色 (10 R6/8)	外 なで 内 なで 底 墨書
5	土師器	环	口 —— 底 —— 高 ——	密 白色粒子含む	橙色 (5 YR6/8)	外 下半ヘラ削り 刻書 内 放射状暗文
6	土師器	甕	口 (18.6) 底 (9.2) 高 15.6	やや密 小石粒 雲母含む	橙色 (5 YR6/8)	外 橫刷毛目 内 縦刷毛目 底 木葉痕
7	土師器	甕	口 (27.0) 底 —— 高 ——	やや密 雲母小石粒含む	明赤褐色 (5 YR5/8)	外 橫刷毛目 内 縦刷毛目
8	土師器	甕	口 (28.3) 底 —— 高 ——	やや密 雲母小石粒含む	橙色 (5 YR6/6)	外 刷毛目 内 刷毛目

第26表 27号住居址出土遺物一覧表（第73図）

番号	種類	器種	法量	胎土	色調	調整・その他
1	土師器	环	口 —— 底 4.7 高 ——	密 赤・白色粒子 含む	浅黄橙色 (7.5 YR8/4)	外 ロクロなで下半ヘラ削り 内 ロクロなで放射状暗文 底 ヘラ削り
2	土師器	环	口 —— 底 (7.2) 高 ——	やや密 赤・白色粒子 含む	浅黄橙色 (7.5 YR8/4)	外 ロクロなで 内 ロクロなで黒色処理 底 付高台
3	土師器	环	口 —— 底 6.2 高 ——	やや密 赤・白色粒子 含む	橙色 (7.5 YR7/6)	外 ロクロなで 内 ロクロなで黒色処理 底 付高台 木葉痕
4	土師器	皿	口 12.7 底 4.6 高 2.8	やや粗 赤・白色粒子 砂粒含む	明赤褐色 (2.5 YR5/8)	外 ロクロなで下半ヘラ削り 内 ロクロなで 底 ヘラ削り
5	土師器	甕	口 —— 底 —— 高 ——	やや密 白色粒子含む	橙色 (2.5 YR6/6)	外 縦刷毛目 内 橫刷毛目
6	土師器	甕	口 —— 底 (9.6) 高 ——	やや密 赤色粒子雲母 小石粒含む	明赤褐色 (5 YR5/8)	外 縦刷毛目 内 橫刷毛目 底 木葉痕
7	土師器	甕	口 —— 底 —— 高 ——	やや密 赤色粒子小石 粒含む	橙色 (7.5 YR7.6)	外 縦刷毛目 内 橫刷毛目 底 木葉痕

第27表 28号住居址出土遺物一覧表（第74・75図）

番号	種類	器種	法量	胎土	色調	調整・その他
1	土師器	壺	口(14.4) 底(5.0) 高5.1	やや密 粗赤色粒子含む	橙色 (7.5YR7/6)	外 下半ヘラ削り墨書き
2	土師器	壺	口12.15 底4.8 高4.8	密 赤色粒子含む	浅黄橙色 (7.5YR8/6)	外 ロクロなで下半ヘラ削り 内 ロクロなで 底 ヘラ削り
3	土師器	壺	口—— 底—— 高——	やや密 赤色粒子含む	にふい橙色 (7.5YR7/3)	外 墨書き 内 黒色処理
4	土師器	皿	口(12.3) 底—— 高——	密 赤色粒子含む	橙色 (5YR6/6)	外 ロクロなで 内 ロクロなで
5	土師器	甕	口—— 底(12.2) 高——	やや密 小石粒含む	にふい橙色 (7.5YR7/4)	外 緩刷毛目 底 木葉痕
6	土師器	甕	口(17.0) 底—— 高——	やや密 莢母 小石粒 含む	橙色 (7.5YR7/6)	外 緩刷毛目 内 横刷毛目口縁煤付着
7	土師器	甕	口—— 底—— 高——	やや密 砂粒莢母含む	にふい橙色 (7.5YR7/4)	外 緩刷毛目 内 横刷毛目
8	土師器	甕	口—— 底—— 高(18.7)	やや密 赤色粒子小石 雲母含む	橙色 (5YR7/6)	内 横刷毛目
9	須恵器	——	口—— 底(11.6) 高——	密 小石含む	赤灰色 (7.5R6/1)	外 明日 内 明日
10	石製品	石臼	口36.6 高11.4	上臼	13.44kg	
11	石製品	石臼	口39.8 高16.5	上臼	12.39kg	

第28表 29号住居址出土遺物一覧表（第76・77図）

番号	種類	器種	法量	胎土	色調	調整・その他
1	土師器	壺	口13.4 底6.4 高4.2	やや密 赤色粒子含む	浅黄橙色 (7.5YR8/4)	外 ロクロなで 墨書き 内 黒色処理 暗文 底 ヘラ削り
2	土師器	壺	口14.4 底6.5 高5.0	密 赤・白色粒子 含む	黄橙色 (7.5YR7/8)	外 下半ヘラ削り 墨書き 内 黒色処理放射状暗文 底 ヘラ削り
3	土師器	壺	口(11.7) 底(5.9) 高4.35	密 赤色粒子含む	浅黄橙色 (7.5YR8/6)	外 下半ヘラ削り 内 ロクロなで 底 ヘラ削り
4	土師器	壺	口—— 底5.8 高——	やや密 赤・白色粒子 含む	にふい黄橙色 (10YR7/4)	外 下半ヘラ削り 内 黑色処理 暗文 底 ヘラ削り回転糸切り
5	土師器	壺	口(13.0) 底(6.3) 高5.05	密 赤色粒子含む	にふい橙色 (5YR7/4)	外 ロクロなで 内 ロクロなで 底 削りだし高台

番号	種類	器種	法量	胎土	色調	調整・その他
6	土師器	环	口 —— 底 5.7 高 ——	やや密 白・赤色粒子 含む	赤橙色 (10R6/8)	外 ロクロなで 内 ロクロなで 底 回転糸切り
7	土師器	环	口 —— 底 4.6 高 ——	密 白・赤色粒子 含む	橙色 (5YR7/6)	外 下半ヘラ削り 内 ロクロなで 底 ヘラ削り 刻畫
8	土師器	皿	口 —— 底 —— 高 ——	密 赤・白色粒子 含む	橙色 (5YR7/6)	外 ヘラ削り 底 ヘラ削り 刻畫
9	土師器	甕	口 —— 底 —— 高 ——	やや粗い 赤色粒子小石 含む	橙色 (2.5YR7/8)	外 ロクロなで 内 ロクロなで 底 回転糸切り
10	土師器	甕	口 (26.8) 底 (9.0) 高 33.5	やや密 雲母赤色粒子 砂粒含む	にぶい橙色 (5YR6/4)	外 縦刷毛目 内 橫刷毛目 底 木葉痕
11	土師器	甕	口 —— 底 —— 高 ——	やや密 砂粒 赤色粒子含む	浅黄橙色 (7.5YR8/3)	外 縦刷毛目 内 橫刷毛目
12	土師器	甕	口 (9.2) 底 —— 高 ——	やや密 雲母砂粒含む	浅橙色 (5YR8/4)	外 縦刷毛目 内 橫刷毛目
13	土師器	甕	口 (17.8) 底 —— 高 ——	やや密 雲母含む	橙色 (5YR6/6)	外 縦刷毛目 内 橫刷毛目
14	土師器	甕	口 (18.3) 底 —— 高 ——	密 砂粒 赤色粒子含む	にぶい橙色 (5YR7/4)	外 縦刷毛目 内 橫刷毛目
15	土師器	甕	口 (17.5) 底 —— 高 ——	やや密 砂粒 赤色粒子含む	浅黄橙色 (7.5YR8/3)	外 ロクロなで 内 ロクロなで
16	土師器	甕	口 —— 底 (7.8) 高 ——	やや密 砂粒 赤色粒子含む	浅黄橙色 (7.5YR8/4)	外 縦刷毛目 内 橫刷毛目 底 木葉痕
17	石製品	砥石	長(5.7) 幅(3.0) 高 1.25			27.0 g 堆積岩?

第29表 30号住居址出土遺物一覧表(第78図)

番号	種類	器種	法量	胎土	色調	調整・その他
1	土師器	环	口 (10.8) 底 (5.4) 高 4.2	密 赤色粒子含む	赤橙色 (10R6/8)	外 ロクロなで下半ヘラ削り 内 刻畫 底 ロクロなで放射状略文 ヘラ削り回転糸切り
2	土師器	环	口 (12.4) 底 (6.4) 高 4.85	やや密 赤・白色粒子 含む	浅黄橙色 (7.5YR8/4)	外 ロクロなで下半ヘラ削り 内 ロクロなで黒色處理
3	土師器	甕	口 (16.9) 底 —— 高 ——	やや密 砂粒 白色 赤色粒子含む	橙色 (2.5YR7/8)	外 ロクロなで 内 ロクロなで

第30表 31号住居址出土遺物一覧表（第79図）

番号	種類	器種	法量	胎土	色調	調整・その他
1	土師器	环	口(14.1) 底5.8 高3.55	密 赤色粒子含む	橙色 (2.5YR7/6)	外 内 底 ロクロなで ロクロなで 回転糸切り
2	灰釉	环	口(13.7) 底(7.1) 高4.15	密	灰白色 (7.5Y8/1)	外 内 底 ロクロなで ロクロなで 付け高台
3	土師器	甕	口— 底(7.6) 高—	やや密 小石粒 雲母 含む	明赤褐色 (2.5YR5/6)	外 内 底 縦刷毛目 横刷毛目 木葉模
4	須恵器	甕	口— 底— 高—	やや密 赤色粒子含む	青灰色 (5PB6/1)	外 印目
5	鉄製品	—	長9.5	幅5.0	厚0.4	30.7g
6	鉄製品	釘	長(3.5)	幅(0.4)	厚0.4	2.9g
7	鉄製品	—	長3.2	幅1.7	厚0.2	4.7g

第31表 32号住居址出土遺物一覧表（第80・81図）

番号	種類	器種	法量	胎土	色調	調整・その他
1	土師器	环	口(13.2) 底(6.4) 高3.15	やや密 赤・白色粒子 雲母含む	にぶい橙色 (7.5YR7/4)	外 内 底 ロクロなで ロクロなで 回転糸切り
2	灰釉	环	口— 底(8.0) 高—	密	灰白色 (7.5Y8/1)	外 内 底 ロクロなで ロクロなで 回転糸切り
3	灰釉	环	口(17.0) 底(9.7) 高6.85	やや密 赤色粒子含む	灰白色 (5Y8/1)	外 内 底 ロクロなで ロクロなで 付け高台
4	灰釉	皿	口13.95 底7.8 転用硯 高2.6	やや密	灰白色 (7.5Y8/1)	外 内 底 ロクロなで ロクロなで 墨付着 付け高台回転糸切り
5	灰釉	皿	口12.2 底6.8 転用硯 高2.25	密	灰白色 (7.5Y8/1)	外 内 底 ロクロなで ロクロなで 墨付着 付け高台回転糸切り
6	灰釉	皿	口12.0 底7.0 転用硯 高2.05	やや密	灰白色 (10Y8/1)	外 内 底 ロクロなで ロクロなで 墨付着 付け高台
7	土師器	—	口(32.2) 底— 高—	密 赤色粒子雲母 含む	にぶい橙色 (7.5Y7/4)	外 内 なで なで 縦刷毛目 42住と接合
8	石製品	砥石	長(4.5)	幅2.9	高1.35	24.4g アップライト實花磨片

第32表 42号住居址出土遺物一覧表（第82図）

番号	種類	器種	法量	胎土	色調	調整・その他
1	土師器	环	口(12.1) 底6.0 高4.4	やや密 白色粒子含む	浅黃橙色 (7.5YR8/4)	外 内 底 ロクロなで ロクロなで 黒色処理 回転糸切り
2	須恵器	甕	口— 転用硯 高—	密	外 灰白色 (10Y7/1)	外 印目

第33表 33号住居址出土遺物一覧表（第83・84図）

番号	種類	器種	法量	胎土	色調	調整・その他
1	土師器	壺	口 11.1 底 5.0 高 4.35	密 赤・白色粒子 含む	橙色 (2.5YR7/6)	外 ロクロなで下半ヘラ削り 内 ロクロなで 底 回転糸切り
2	土師器	壺	口 (10.0) 底 (4.4) 高 3.4	密 赤・白色粒子 含む	橙色 (5YR7/6)	外 ロクロなで下半ヘラ削り 内 ロクロなで 底 ヘラ削り
3	土師器	壺	口 12.6 底 7.2 高 5.1	やや密 赤・白色粒子 含む	浅黃橙色 (7.5YR8/4)	外 ロクロなで 内 ロクロなで
4	土師器	壺	口 (11.2) 底 5.4 高 3.8	密 赤色粒子含む	浅黃橙色 (10YR8/3)	外 ロクロなで 内 ロクロなで 底 回転糸切り
5	土師器	壺	口 (12.7) 底 6.5 高 4.9	やや密 赤・白色粒子 含む	浅黃橙色 (7.5YR8/4)	外 ロクロなで 内 ロクロなで黒色処理
6	土師器	皿	口 (15.2) 底 6.6 高 2.2	密 赤・白色粒子 含む	橙色 (2.5YR7/8)	外 ロクロなで下半回転ヘラ 削り 内 ロクロなで 底 ヘラ削り
7	土師器	甕	口 (21.2) 底 — 高 —	やや粗い 雲母小石含む	橙色 (7.5YR7/6)	外 脊部ヘラ削り
8	土師器	甕	口 (23.6) 底 — 高 —	やや密 雲母砂粒含む	にぶい橙色 (5YR7/4)	外 縦刷毛目 内 橫刷毛目
9	土師器	甕	口 (26.7) 底 — 高 —	やや粗い 雲母小石含む	明赤褐色 (2.5YR5/6)	外 縦刷毛目 内 橫刷毛目 10と同一固体
10	土師器	甕	口 — 底 (8.3) 高 —	やや粗い 雲母小石含む	橙色 (2.5YR6/6)	外 縦刷毛目 内 橫刷毛目 木葉痕
11	土師器	甕	口 (13.6) 底 — 高 —	やや密 雲母砂粒含む	にぶい橙色 (5YR6/4)	外 縦刷毛目 内 橫刷毛目 12と同一固体
12	土師器	甕	口 — 底 (7.6) 高 —	やや密 雲母砂粒含む	にぶい橙色 (5YR6/4)	外 縦刷毛目 内 橫刷毛目 木葉痕
13	土師器	甕	口 (14.3) 底 8.9 高 15.25	やや粗い 小石含む	橙色 (2.5YR6/6)	外 ロクロなで 内 ロクロなで 底 回転糸切り

第34表 34号住居址出土遺物一覧表（第85～88図）

番号	種類	器種	法量	胎土	色調	調整・その他
1	土師器	壺	口 (14.3) 底 (5.9) 高 4.2	密 赤色粒子 白色粒子含む	橙色 (7.5YR7/6)	外 ロクロなで 内 ロクロなで 底 回転糸切
2	土師器	壺	口 15.8 底 7.7 高 5.5	やや密 赤・白色粒子 雲母含む	橙色 (2.5YR7/8)	外 ロクロなで 内 ロクロなで 底 付高台 回転糸切り

番号	種類	器種	法量	胎土	色調	調整・その他
3	土師器	环	口 (13.0) 底 5.6 高 3.75	やや密 赤色粒子 小石粒含む	橙色 (5YR7/6)	外 ロクロなで 内 ロクロなで 底 回転糸切
4	土師器	环	口 (16.6) 底 —— 高 ——	やや密 赤・白色粒子 含む	浅黄橙色 (7.5YR8/4)	外 ロクロなで 墨書 内 ロクロなで黒色処理暗文
5	土師器	环	口 (14.2) 底 —— 高 ——	密 赤・白色粒子 含む	橙色 (7.5YR7/6)	外 ロクロなで 墨書 内 ロクロなで
6	土師器	环	口 (14.8) 底 (7.0) 高 3.7	密 白・赤色粒子 含む	橙色 (5YR6/6)	外 ロクロなで 墨書 内 ロクロなで 底 回転糸切
7	土師器	环	口 —— 底 6.2 高 ——	密 白・赤色粒子 砂粒含む	橙色 (5YR7/6)	外 ロクロなで 内 ロクロなで 底 回転糸切
8	土師器	环	口 (13.0) 底 —— 高 ——	密 赤・白色粒子 雲母含む	浅黄橙色 (7.5YR8/4)	外 ロクロなで 墨書 内 ロクロなで
9	土師器	环	口 —— 底 —— 高 ——	密 赤・白色粒子 含む	橙色 (5YR6/6)	外 ロクロなで 墨書 内 ロクロなで
10	土師器	皿	口 (12.0) 底 —— 高 ——	やや密 赤・白色粒子 含む	橙色 (5YR7/6)	外 ロクロなで 墨書 内 ロクロなで放射状暗文
11	土師器	环	口 —— 底 —— 高 ——	やや密 赤・白色粒子 雲母含む	にじい褐色 (5YR7/4)	外 ロクロなで 墨書 内 ロクロなで
12	土師器	环	口 —— 底 —— 高 ——	やや密 赤・白色粒子 雲母含む	橙色 (5YR6/6)	外 ロクロなで 内 研磨 暗文墨書 底 付高台
13	土師器	—	口 —— 底 —— 高 ——	やや密 赤・白色粒子 含む	浅黄橙色 (7.5YR8/4)	外 下へラ削り墨書 内 ロクロなで 煤付着
14	土師器	甕	口 —— 底 7.6 高 ——	やや粗い 赤色粒子 小石粒含む	橙色 (5YR7/6)	外 ロクロなで 内 ロクロなで 底 回転糸切
15	土師器	甕	口 28.05 底 —— 高 ——	やや密 雲母含む	橙色 (5YR6/6)	外 緩刷毛目 横刷毛目 16と同一周体
16	土師器	甕	口 —— 底 8.5 高 ——	やや密 雲母含む	橙色 (5YR6/6)	外 緩刷毛目 横刷毛目 木葉模
17	土師器	甕	口 —— 底 9.6 高 ——	やや密 雲母含む	明赤褐色 (2.5YR5/6)	外 緩刷毛目 横刷毛目 木葉模
18	土師器	甕	口 (28.2) 底 —— 高 ——	密 赤色粒子 小石粒含む	橙色 (7.5YR7/6)	外 ヘラなで 内 ヘラなで
19	土師器	甕	口 (30.0) 底 —— 高 ——	やや密 赤色粒子砂粒 含む	橙色 (2.5YR6/6)	外 緩刷毛目 内 横刷毛目

番号	種類	器種	法量	胎土	色調	調整・その他
20	土師器	甕	口 (25.4) 底 —— 高 ——	やや粗い 赤・白色粒子 小石粒含む	浅黄橙色 (7.5YR8/4)	外 縦刷毛目 内 橫刷毛目
21	土師器	甕	口 (17.0) 底 —— 高 ——	やや密 雲母砂粒含む	淡赤橙色 (2.5YR7/4)	外 縦刷毛目 内 橫刷毛目
22	土師器	甕	口 (17.0) 底 —— 高 ——	やや密 砂粒赤色粒子 含む	橙色 (5YR6/6)	外 縦刷毛目 内 橫刷毛目
23	土師器	甕	口 (17.6) 底 —— 高 ——	密 赤・白色粒子 小石粒含む	橙色 (7.5YR7/6)	外 縦刷毛目へラなで 内 橫刷毛目口縁煤付着
24	土師器	甕	口 (13.0) 底 —— 高 ——	やや密 白色粒子含む	橙色 (2.5YR7/6)	外 ロクロなで横刷毛目 内 ロクロなで口縁横刷毛目
25	土師器	甕	口 —— 底 —— 高 ——	密 赤・白色粒子 含む	にぶい橙色 (5YR7/4)	外 縦刷毛目 内 橫刷毛目
26	灰釉	壺	口 (15.8) 底 —— 高 ——	密	灰白色 (7.5Y8/1)	外 ロクロなで 内 ロクロなで
27	須恵器	甕	口 —— 底 —— 高 ——	やや密 赤色粒子含む	灰白色 (10Y7/1)	外 ロクロなで 印目 内 ロクロなで 指痕

第35表 35号住居址出土遺物一覧表（第89図）

番号	種類	器種	法量	胎土	色調	調整・その他
1	土師器	甕	口 (21.2) 底 —— 高 ——	やや密 赤・白色粒子 雲母含む	橙色 (7.5YR7/6)	外 ロクロなでヘラ削り 内 ロクロなで
2	土師器	甕	口 (24.8) 底 —— 高 ——	やや密 雲母砂粒含む	橙色 (5YR6/6)	外 縦刷毛目 内 橫刷毛目
3	土師器	甕	口 —— 底 —— 高 ——	やや密 雲母含む	明赤褐色 (5YR5/8)	外 縦刷毛目 内 橫刷毛目
4	土師器	甕	口 (9.6) 底 —— 高 ——	やや密 赤色粒子 雲母含む	にぶい橙色 (7.5YR7/4)	外 ロクロなでヘラ削り 内 ロクロなで
5	須恵器	盞	口 —— 底 —— 高 ——	やや密	灰色 (5Y6/1)	外 ロクロなで 内 ロクロなで

第36表 36号住居址出土遺物一覧表（第90図）

番号	種類	器種	法量	胎土	色調	調整・その他
1	土師質 土器	台付皿	口 —— 底 5.15 高 ——	やや密 白色粒子含む	棕色 (2.5YR7/6)	外 ロクロなで 底 同底糸切り
2	灰釉	——	口 —— 底 (8.6) 高 ——	密	灰白色 (7.5Y8/1)	外 ロクロなで 内 ロクロなで 底 付高台

番号	種類	器種	法量	胎土	色調	調整・その他
3	灰釉	——	口 底 高	密 赤・白色粒子 含む	灰白色 (7.5YR7/1)	外 内 底 ロクロなで ロクロなで 付高台
4	鉄製品	紡錘車	径 4.4	厚 長	——	23.3g

第37表 37号住居址出土遺物一覧表(第91図)

番号	種類	器種	法量	胎土	色調	調整・その他	
1	土師器	环	口 底 高	(11.8) 5.25 5.15	密 赤・白色粒子 含む	橙色 (7.5YR7/6)	外 内 底 ロクロなで下半ヘラ削 ロクロなで放射状暗文 回転糸切り
2	土師器	环	口 底 高	(11.0) 6.0 4.25	密 赤・白色粒子 含む	浅黄橙色 (7.5YR8/3)	外 内 底 ロクロなで ロクロなで 回転糸切り
3	土師器	小型甕	口 底 高	8.2 5.5 7.9	やや密 赤・白色粒子 雲母含む	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	外 内 底 なで ヘラ削り なで ヘラ削り
4	土師器	甕	口 底 高	(26.4) — —	やや密 雲母含む	にぶい橙色 (5YR6/4)	外 内 横刷毛目 横刷毛目
5	土師器	甕	口 底 高	— (9.1) —	やや密 雲母含む	明赤褐色 (5YR5/8)	外 内 底 横刷毛目 横刷毛目 木葉模
6	土師器	甕	口 底 高	— 4.6 —	やや密 赤色粒子 小石粒含む	橙色 (7.5YR7/6)	外 内 底 ロクロなでヘラ削り ロクロなで ヘラ削り
7	土師器	甕	口 底 高	— 6.1 —	やや密 白・赤色粒子 雲母含む	浅黄橙色 (7.5YR8/3)	外 内 底 ロクロなで ロクロなで 回転糸引き
8	土師器	甕	口 底 高	— 7.9 —	やや密 雲母 小石粒含む	にぶい橙色 (5YR6/4)	外 内 底 横刷毛目 一部横刷毛目 木葉模
9	須恵器	長颈甕	口 底 高	— — —	やや密 赤色粒子 砂粒含む	褐灰色 (10YR6/1)	—

第38表 38号住居址出土遺物一覧表(第92図)

番号	種類	器種	法量	胎土	色調	調整・その他	
1	土師質 土器	皿	口 底 高	9.0 5.0 3.1	やや密 赤色粒子 小石粒含む	橙色 (5YR6/6)	外 内 底 ロクロなで ロクロなで 回転糸引き
2	土師器	釜	口 底 高	(24.6) — —	やや密 白色粒子小石 赤色粒子含む	橙色 (7.5YR7/6)	外 内 ロクロなで ロクロなで
3	土師器	釜	口 底 高	(34.4) — —	やや密 赤色粒子 小石粒含む	明赤褐色 (2.5YR5/6)	外 内 ロクロなで ロクロなで
4	土師器	——	口 底 高	— 6.0 —	やや密 赤色粒子 小石粒含む	橙色 (5YR6/6)	外 内 ロクロなで ロクロなで

番号	種類	器種	法量	胎土	色調	調整・その他
5	土師器	——	径 5.1 底 3.1 高 ——	やや密 雲母赤・白色 粒子小石粒含む	に近い橙色 (5YR7/4)	外 なで

第39表 39号住居址出土遺物一覧表(第93図)

番号	種類	器種	法量	胎土	色調	調整・その他
1	土師器	甕	口 (14.2) 底 —— 高 ——	やや密 赤・白色粒子 雲母砂粒含む	橙色 (7.5YR7/6)	外 ヘラ削り 内 ロクロなで 底 2と同一固体
2	土師器	甕	口 (6.6) 底 (6.0) 高 ——	やや密 雲母赤色粒子 砂粒含む	に近い橙色 (7.5YR7/4)	外 ヘラ削り 内 ロクロなで 底 ヘラ削り
3	土師器	甕	口 —— 底 (8.0) 高 ——	やや密 雲母 小石粒含む	橙色 (7.5YR6/6)	外 橫刷毛目 内 橫刷毛目 底 木葉柄
4	土師器	甕	口 —— 底 —— 高 ——	密 赤・白色粒子 含む	橙色 (5YR6/6)	外 ロクロなで横刷毛目 内 口縁横刷毛目 5と同一固体
5	土師器	甕	口 —— 底 —— 高 ——	密 赤・白色粒子 含む	橙色 (5YR6/6)	外 ロクロなで横刷毛目 内 ロクロなで

第40表 40号住居址出土遺物一覧表(第94図)

番号	種類	器種	法量	胎土	色調	調整・その他
1	土師器	壺	口 —— 底 —— 高 ——	密 赤色粒子含む	橙色 (7.5YR7/6)	外 下半ヘラ削り 刻書 内 刻書
2	土師器	壺	口 —— 底 —— 高 ——	密 赤色粒子含む	橙色 (7.5YR7/6)	外 下半ヘラ削り 刻書 内 刻書
3	土師器	壺	口 —— 底 —— 高 ——	密 赤色粒子含む	橙色 (7.5YR7/6)	外 下半ヘラ削り 内 刻書
4	土師器	壺	口 —— 底 —— 高 ——	密 赤色粒子含む	橙色 (7.5YR7/6)	外 下半ヘラ削り 刻書
5	土師器	甕	口 (10.0) 底 —— 高 ——	密 雲母砂粒含む	に近い橙色 (7.5YR6/4)	口縁 煤付着
6	土師器	甕	口 —— 底 —— 高 ——	やや密 赤色粒子 砂粒含む	橙色 (5YR6/6)	外 橫刷毛目 内 橫刷毛目
7	土師器	甕	口 (25.0) 底 (9.4) 高 32.5	やや密 赤色粒子雲母 砂粒含む	橙色 (5YR6/6)	外 橫刷毛目 内 橫刷毛目 底 木葉柄
8	土師器	羽蓋	口 21.4 底 —— 高 ——	やや密 雲母含む	橙色 (5YR6/6)	外 ロクロなで 内 ロクロなで
9	灰釉	長頸壺	口 —— 底 —— 高 ——	やや密	灰白色 (7.5Y8/1)	外 ロクロなで 内 ロクロなで

番号	種類	器種	法量	胎土	色調	調整・その他		
10	灰釉	——	口 底 高	12.8 —— ——	やや密 —— ——	灰白色 (7.5Y8/1) —— ——	外 内 底 付高台	ロクロなで ロクロなで ロクロなで 付高台
11	鉄製品	刀子	長 (8.6)	幅 1.4	厚 0.3	9.4 g		
12	鉄製品	鉄鎌	長 (15.0)	幅 (3.3)	厚 0.4	32.8 g		

第41表 41号住居址出土遺物一覧表（第95図）

番号	種類	器種	法量	胎土	色調	調整・その他
1	土師器	皿	口 9.3 底 5.1 高 3.0	やや密 —— 砂粒含む	にふい黄褐色 (10YR7/4)	外 内 底 ロクロなで ロクロなで 回転糸切り

第42表 3号竪穴状遺構出土遺物一覧表（第96図）

番号	種類	器種	法量	胎土	色調	調整・その他
1	土師器	壺	口 (12.2) 底 (6.2) 高 3.1	やや密 赤色粒子 白色粒子含む	浅黄褐色 (10YR8/3)	外 内 なで なで
2	鉄製品	轆	径 5.6	高 1.5	厚 0.3	43.2 g
3	鉄製品	釘	長 (5.0)	幅 0.3	厚 0.3	1.2 g
4	鉄製品	長	8.0	幅 0.8	厚 0.6	16.3 g

第43表 2号地下式坑出土遺物一覧表（第97図）

番号	種類	器種	法量	調整・その他
1	石製品	斧	口 (21.7) 厚 (12.8)	2200 g 上臼
2	石造物	石塔	径 (9.2) 長 (9.1)	593.5 g 相輪のみ
3	古銭	北宋銭	径 2.31 孔 0.7 厚 0.1	元祐通寶(初鑄1093年) 1.3 g 順読

第44表 1 - 6区ピット内出土遺物一覧表（第98図）

番号	種類	器種	法量	調整・その他
1	古銭	唐銭	径 2.5 孔 0.7 厚 0.11	開元通寶(初鑄 621年) 1.7 g 対読
2	古銭	唐銭	径 2.4 孔 0.68 厚 0.12	開元通寶(初鑄 621年) 2.5 g 対読
3	古銭	北宋銭	径 2.55 孔 0.62 厚 0.11	元豐通寶(初鑄1078年) 3.4 g 順・逆
4	古銭	北宋銭	径 2.37 孔 0.66 厚 0.12	元祐通寶(初鑄1098年) 2.6 g 順読
5	古銭	北宋銭	径 2.4 孔 0.68 厚 0.14	元祐通寶(初鑄1093年) 3.6 g 順読
6	古銭	北宋銭	径 2.45 孔 0.67 厚 0.14	元祐通寶(初鑄1093年) 3.3 g 順読
7	古銭	北宋銭	径 2.36 孔 0.7 厚 0.1	政和通寶(初鑄1111年) 3.6 g 対読
8	古銭	北宋銭	径 2.4 孔 0.68 厚 0.13	熙寧元寶(初鑄1068年) 3.1 g 順読
9	古銭	北宋銭	径 —— 孔 0.67 厚 0.12	熙寧元寶(初鑄1068年) 3.8 g 順読
10	古銭	北宋銭	径 2.38 孔 0.62 厚 0.11	紹聖元宝(初鑄1094年) 3.1 g 順読
11	古銭	北宋銭	径 2.44 孔 0.74 厚 0.13	崇祐通寶(初鑄1049年) 3.3 g 対読
12	古銭	北宋銭	径 2.36 孔 0.69 厚 0.12	皇祐通寶(初鑄1049年) 2.5 g 対読

IV章 まとめ

本調査がおこなわれた尾根上ではこれまでに、短期間・低予算のなか約3万m²が発掘調査されている。その結果、縄文時代の竪穴住居址29軒、弥生時代1軒、古墳時代2軒、平安時代55軒、掘立柱建物址は13軒、土坑が700基以上調査された。この尾根上には、県道・テニスコート・共同墓地等が造られているがそれらの工事の際に大量の縄文（中期前半）土器が出土しているそうである。現在残りのはほとんどが廻場整備が行われ造成されてしまったが、本調査区北側にあたる尾根先端部分のみは、山林のため手つかずにはなっている。今後の開発等には十分注意していただきたい。

本調査において、紡錘車等の鉄製品の出土が目立つ、2点の範型を含め鉛弾も多く出土している、数軒の住居址においては鍛冶が行われていたと思われるが、輪の羽口は出土していない。

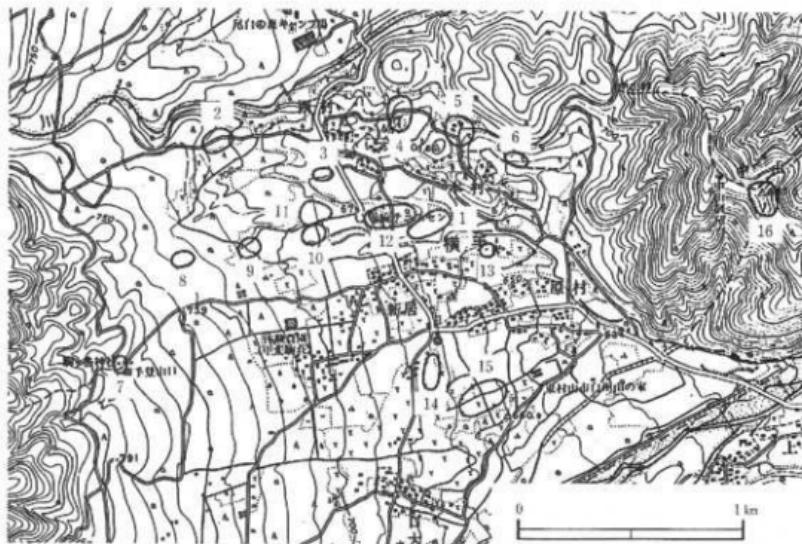
本址の所在する横手地区は、中世において武田氏家臣であった横手氏の領邑とされ、現在の集落の中心にあたる「新居」に館跡の推定地があるが、本調査区のある「古御所」と西側の「御殿」も推定地のひとつである。本調査において掘立柱建物址・竪穴状造構・地下式坑等の中世に属する造構も検出されてはいるが、館跡を特定するようなものは発見されなかった。

参考文献

- 折井 敦 1991 「上北田3遺跡・新居道上遺跡」 白州町教育委員会
杉本 充 1993 「上北田遺跡」 白州町教育委員会
杉本 充 1998 「西之久保遺跡」 白州町教育委員会



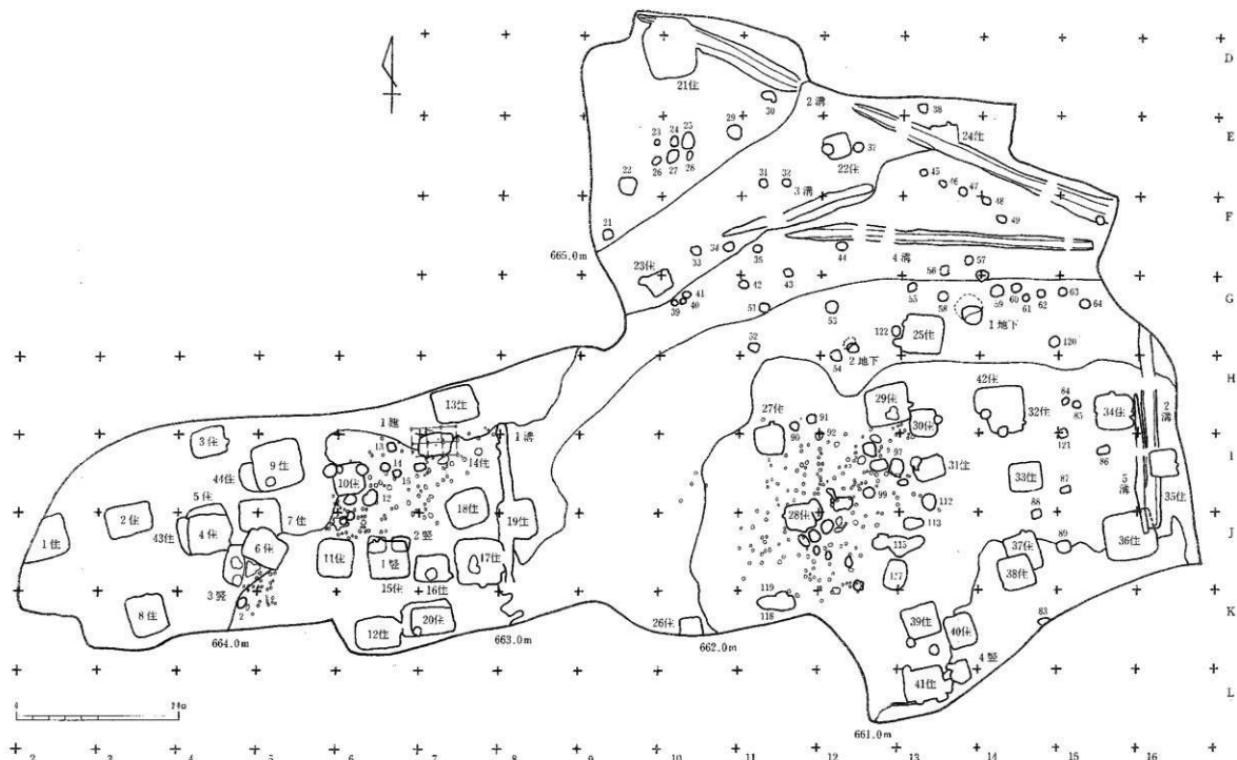
第1図 遺跡位置図 (1/50,000)



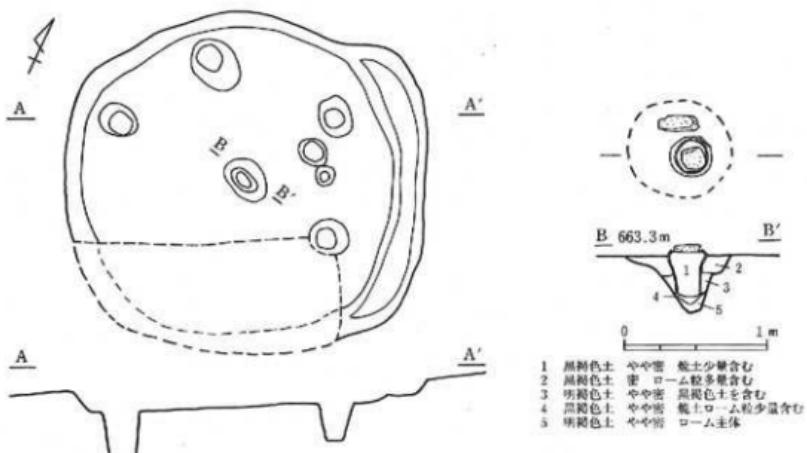
第2図 周辺の遺跡 (1/25,000)



第3図 調査区位置図 (1/10,000)

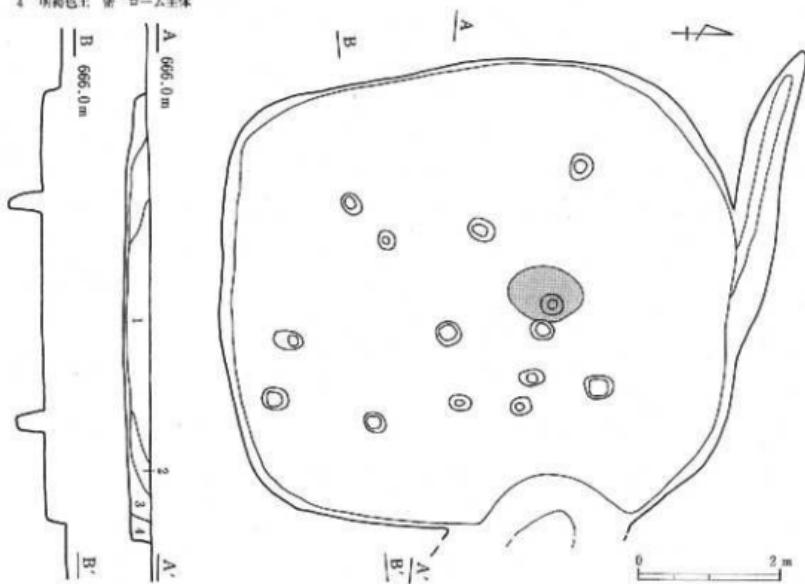


第4図 調査区全体図 (1/500) *番号のみは土坑

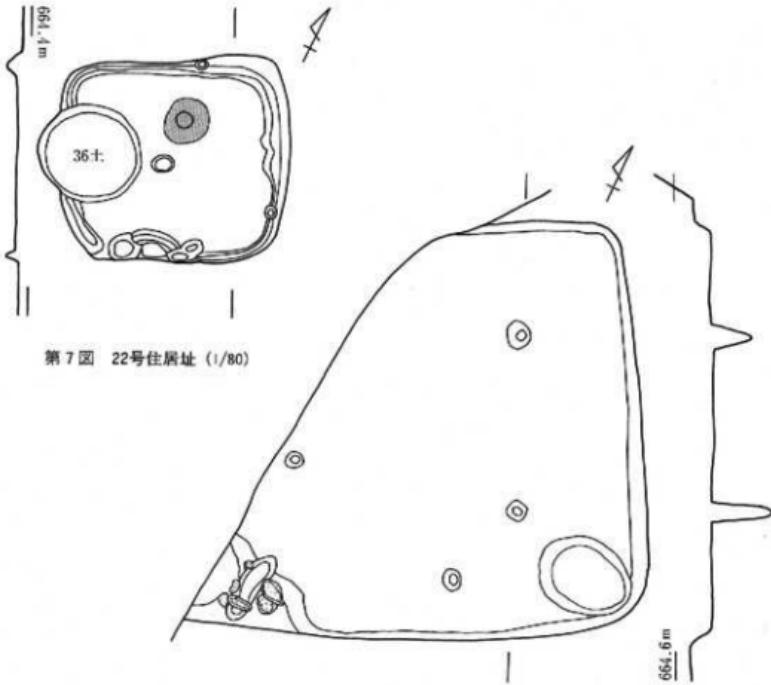


第5図 18号住居址 (1/80・1/40)

- 1 黒褐色土 密 ローム粒微量含む
 2 黒褐色土 密 ローム粒少量含む
 3 褐色土 密 ローム粒多量含む
 4 明褐色土 やや密 ローム主体



第6図 21号住居址 (1/80)

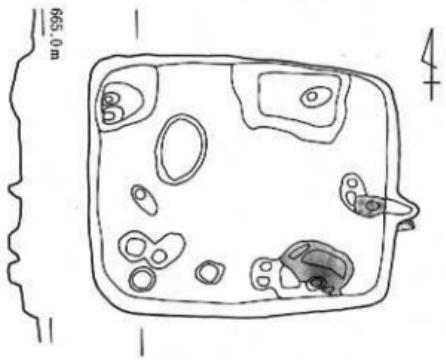


第7図 22号住居址 (1/80)

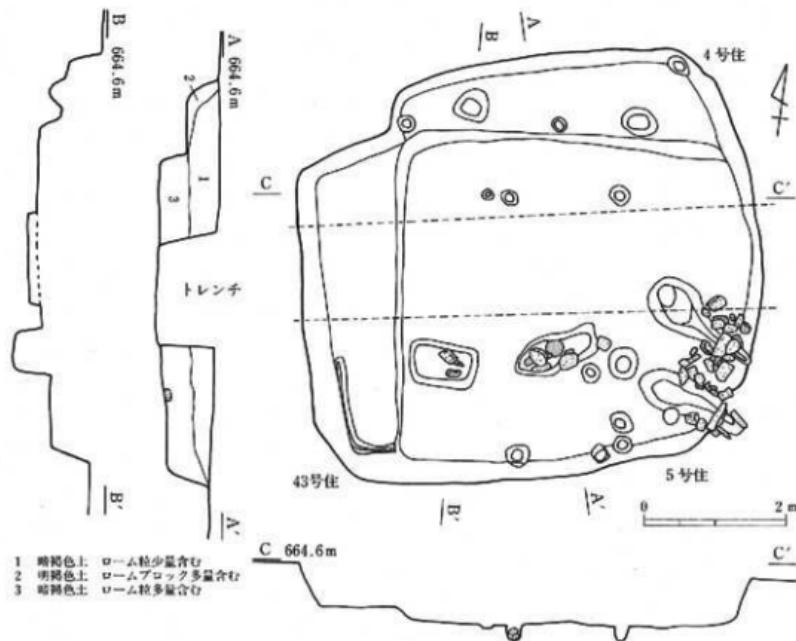
第8図 1号住居址 (1/80)



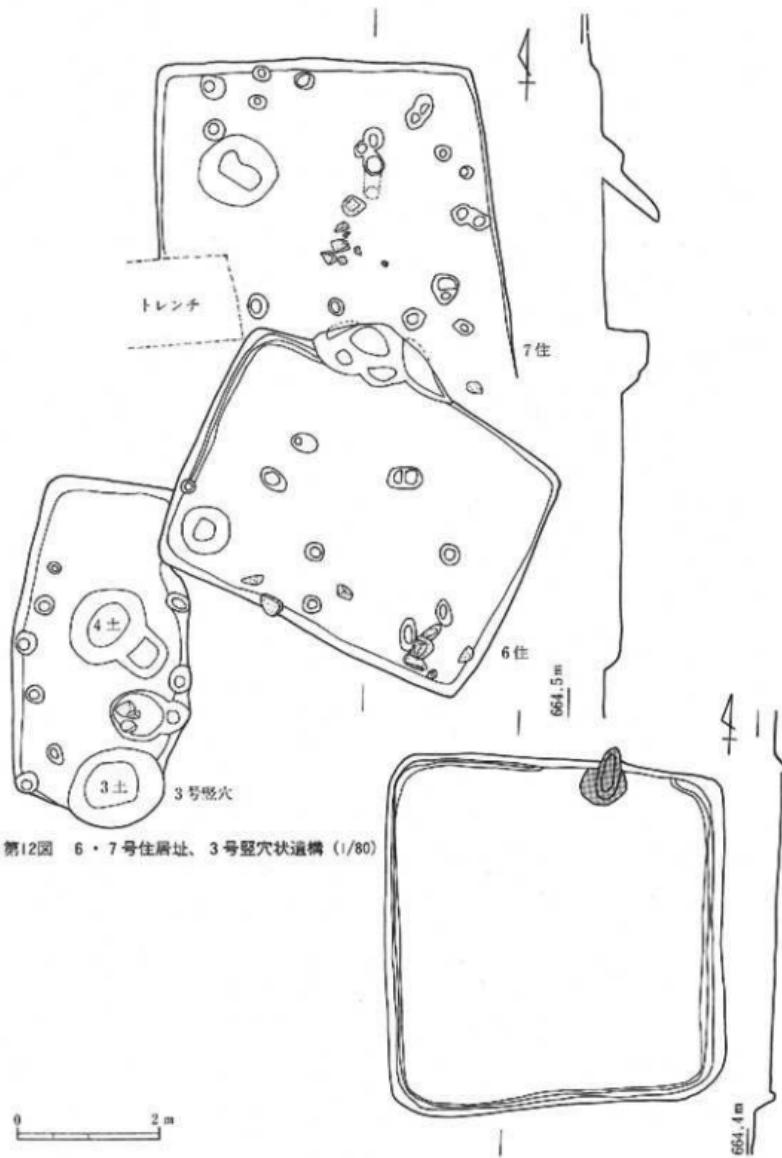
第9図 2号住居址 (1/80)



第10図 3号住居址 (1/80)

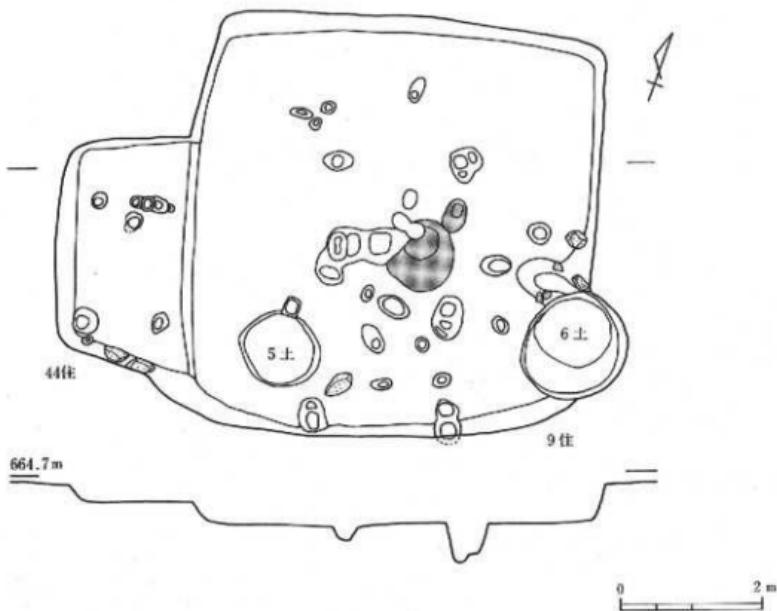


第11図 4・5・43号住居址 (1/80)

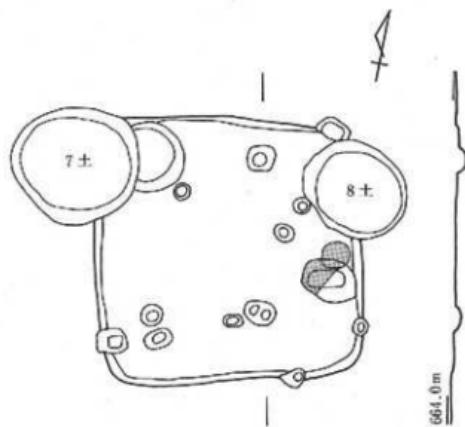


第12図 6・7号住居址、3号竪穴状遺構 (1/80)

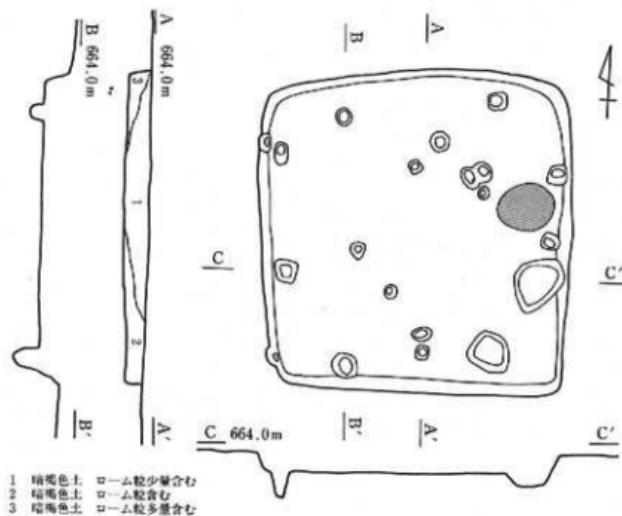
第13図 8号住居址 (1/80)



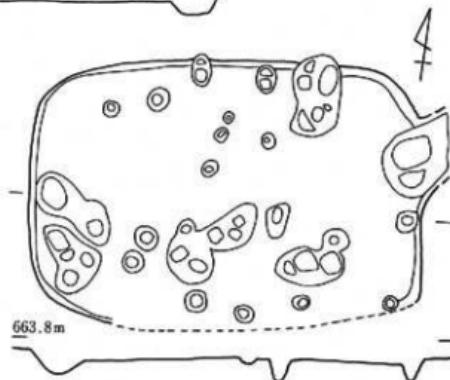
第14圖 9+44號住居址 (1/80)



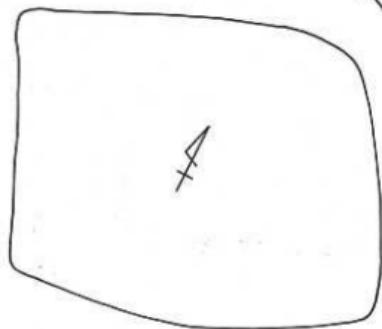
第15圖 10號住居址 (1/80)



第16図 11号住居址 (1/80)

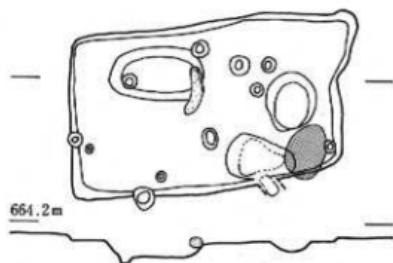


第17図 12号住居址 (1/80)

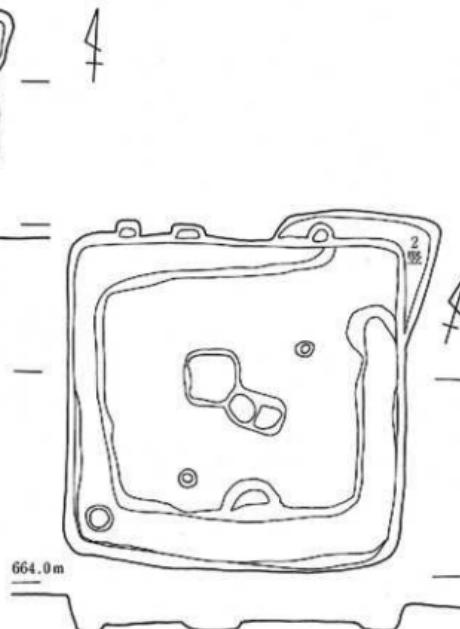


第18図 13号住居址 (1/80)

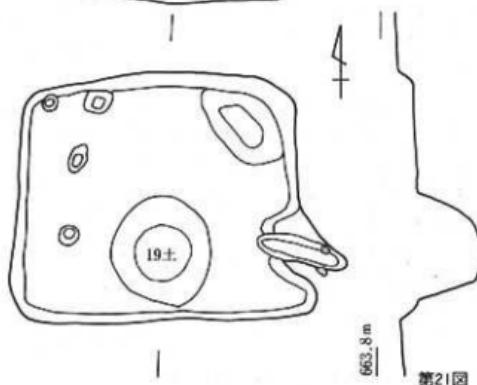
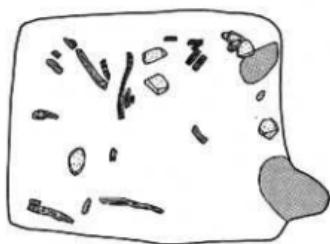
0 2 m



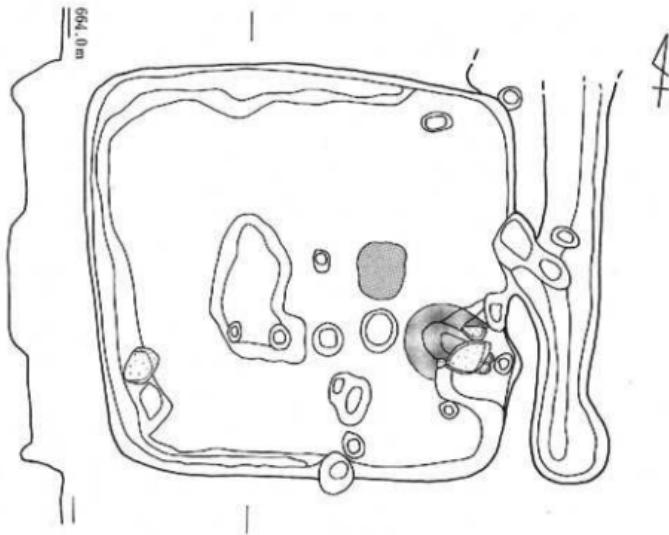
第19図 14号住居址 (1/80)



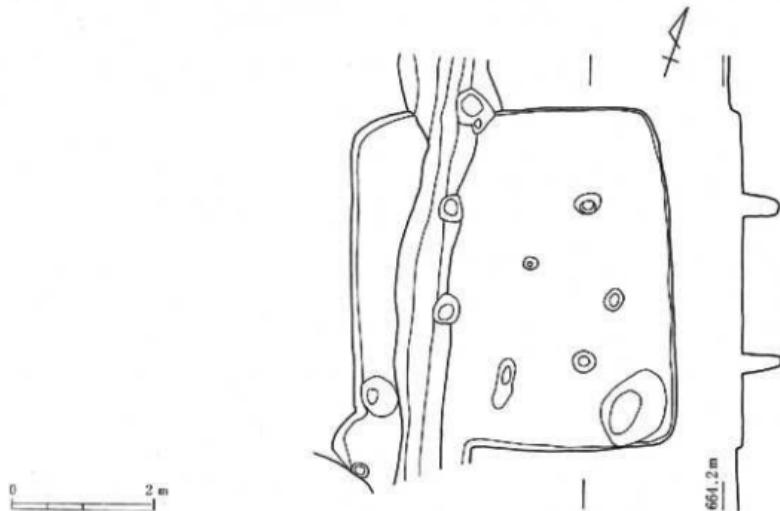
第20図 15号住居址 (1/80)



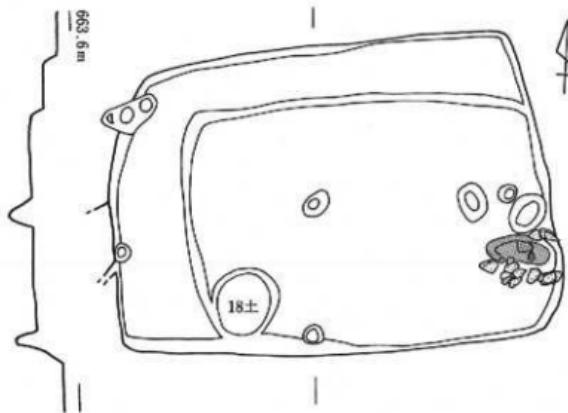
第21図 16号住居址 (1/80)



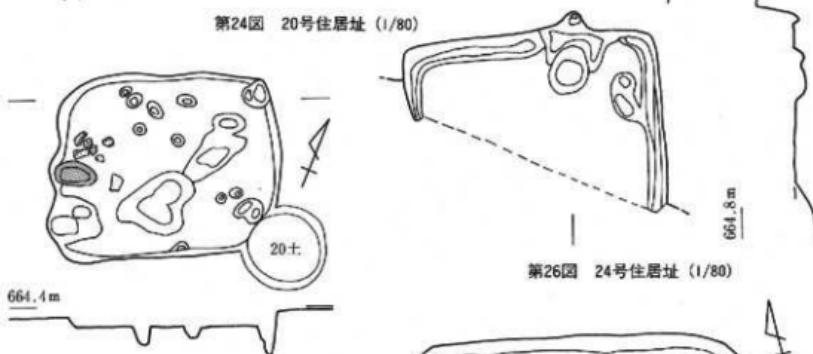
第22図 17号住居址 (1/80)



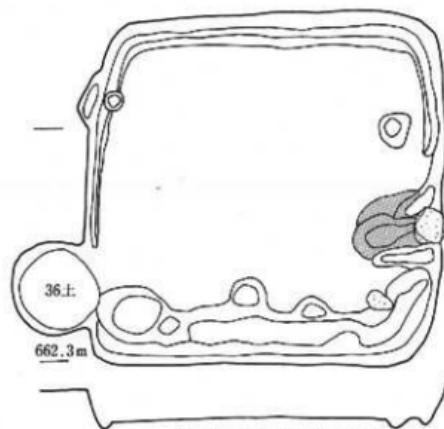
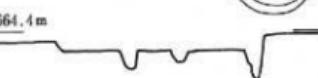
第23図 19号住居址 (1/80)



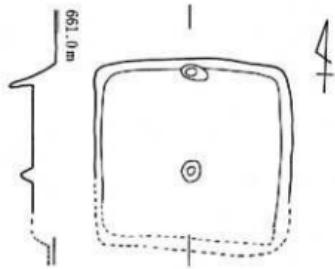
第24図 20号住居址 (1/80)



第25図 23号住居址 (1/80)



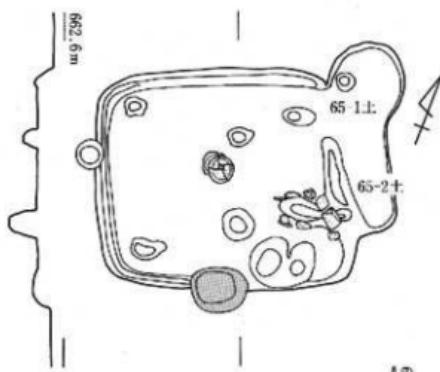
第27図 25号住居址 (1/80)



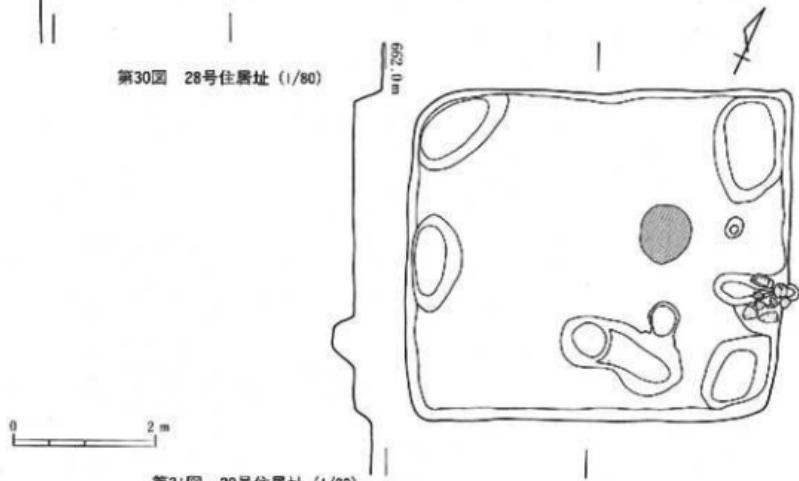
第28図 26号住居址 (1/80)



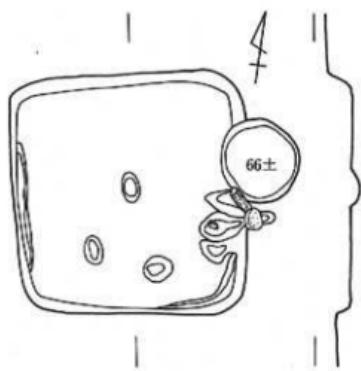
第29図 27号住居址 (1/80)



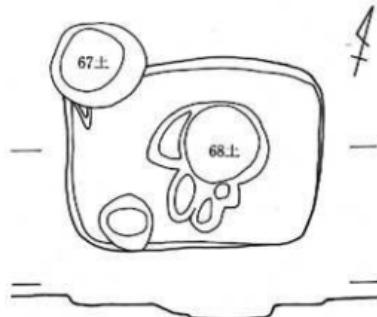
第30図 28号住居址 (1/80)



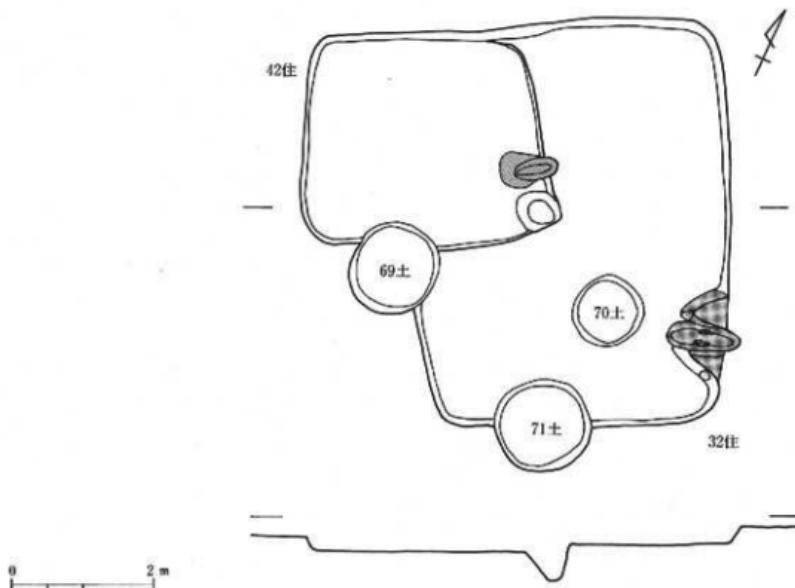
第31図 29号住居址 (1/80)



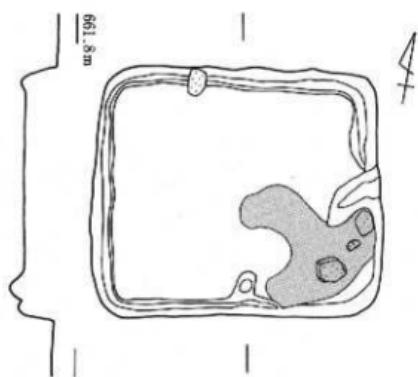
第32図 30号住居址 (1/80)



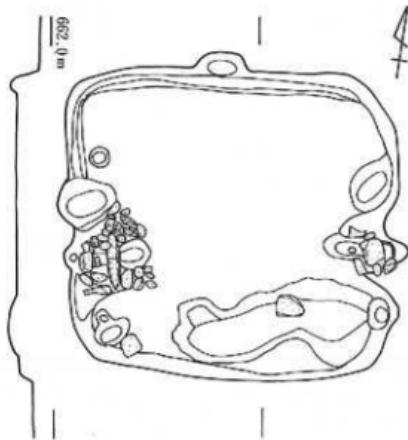
第33図 31号住居址 (1/80)



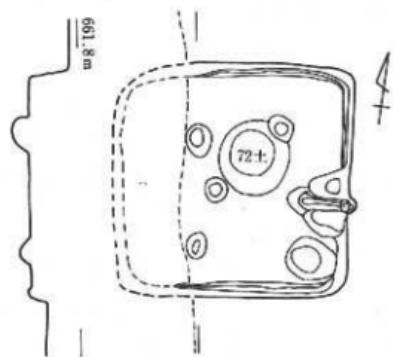
第34図 32・42号住居址 (1/80)



第35図 33号住居址 (1/80)

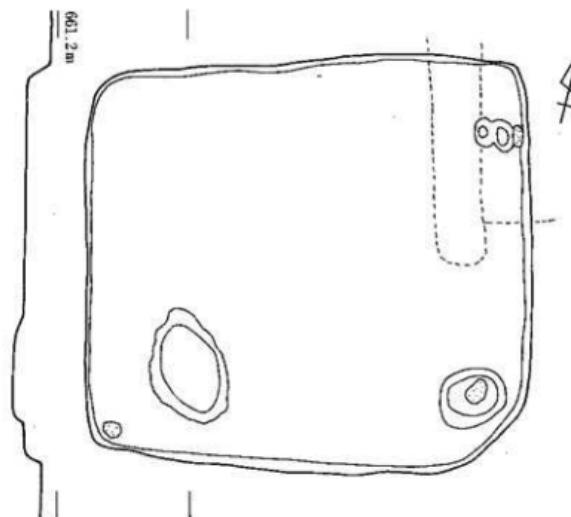


第36図 34号住居址 (1/80)

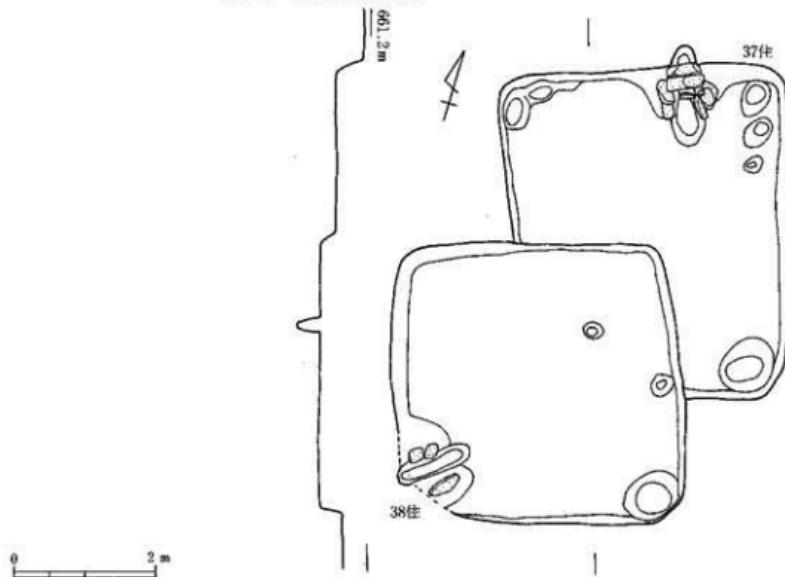


第37図 35号住居址 (1/80)

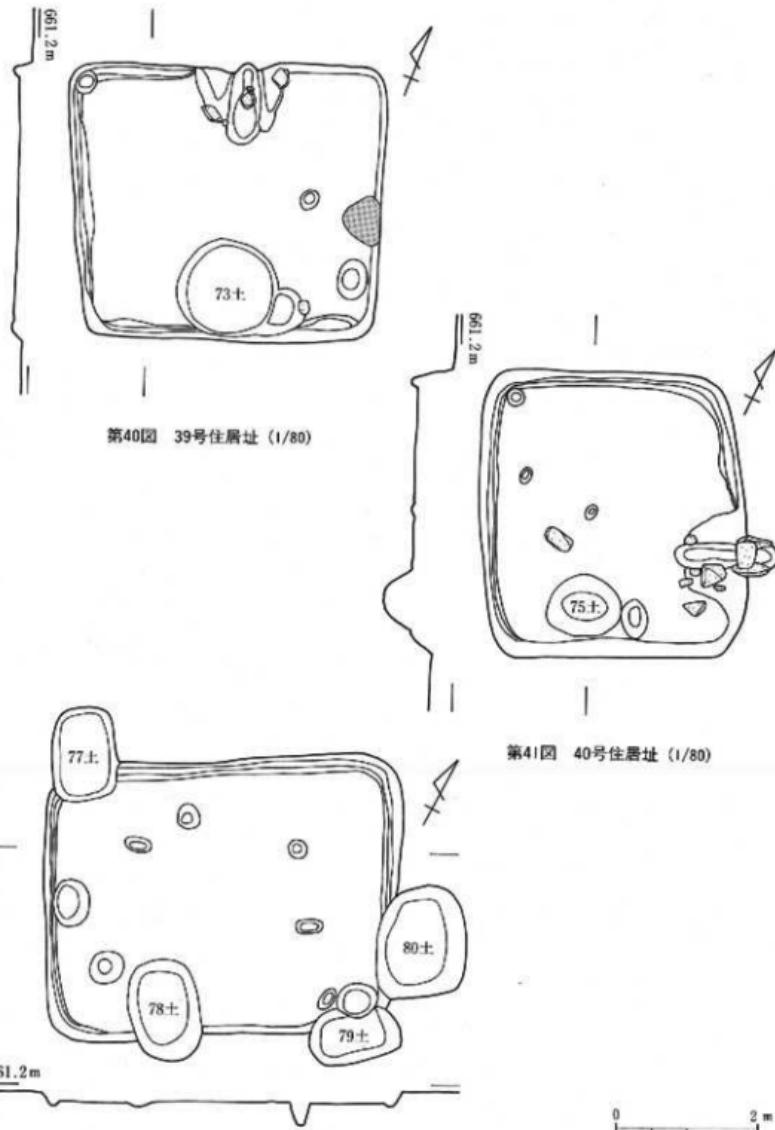
0 2 m



第38図 36号住居址 (1/80)

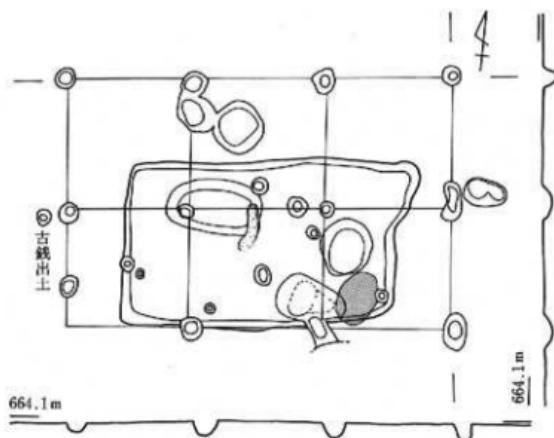


第39図 37・38号住居址 (1/80)



第40図 39号住居址 (1/80)

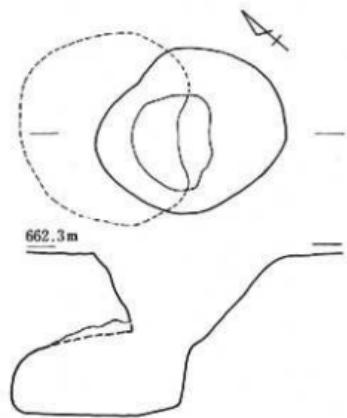
第41図 40号住居址 (1/80)



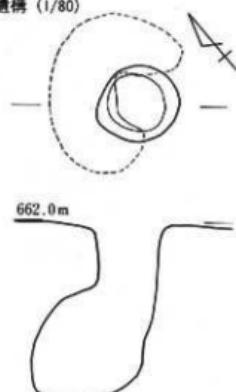
第43図 1号掘立柱建物址 (I/80)



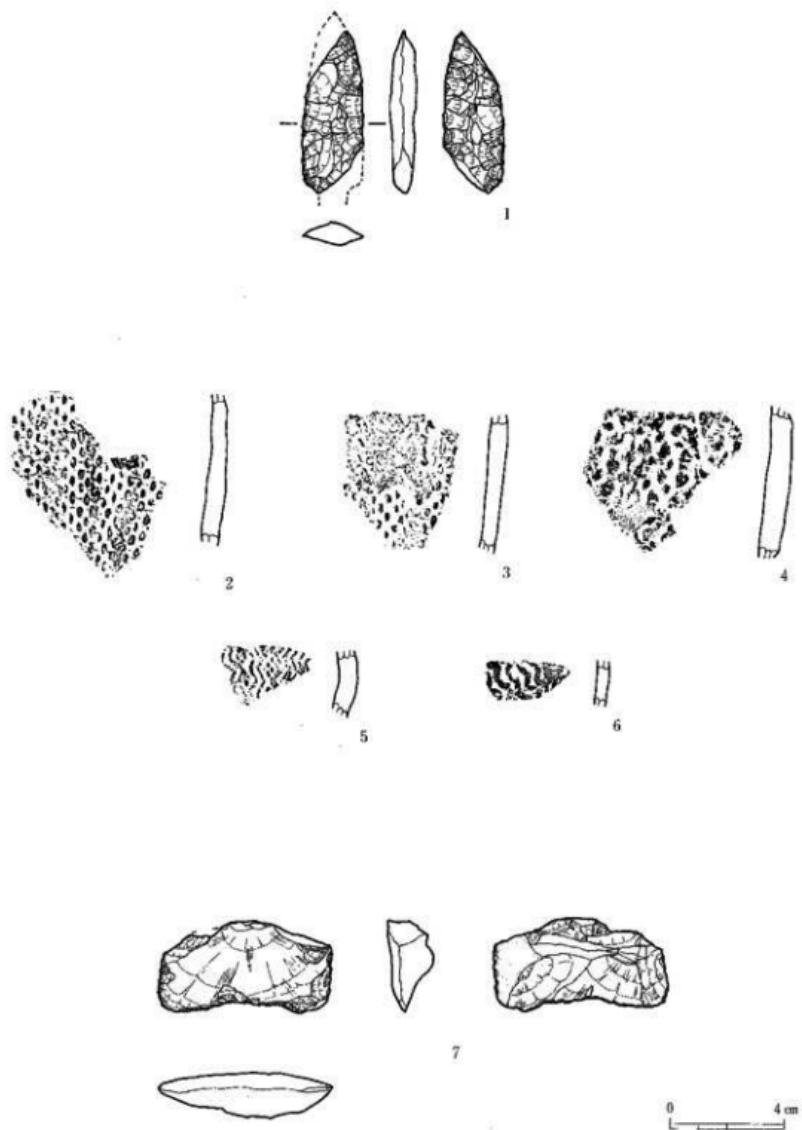
第44図 1・2号竪穴状遺構 (I/80)



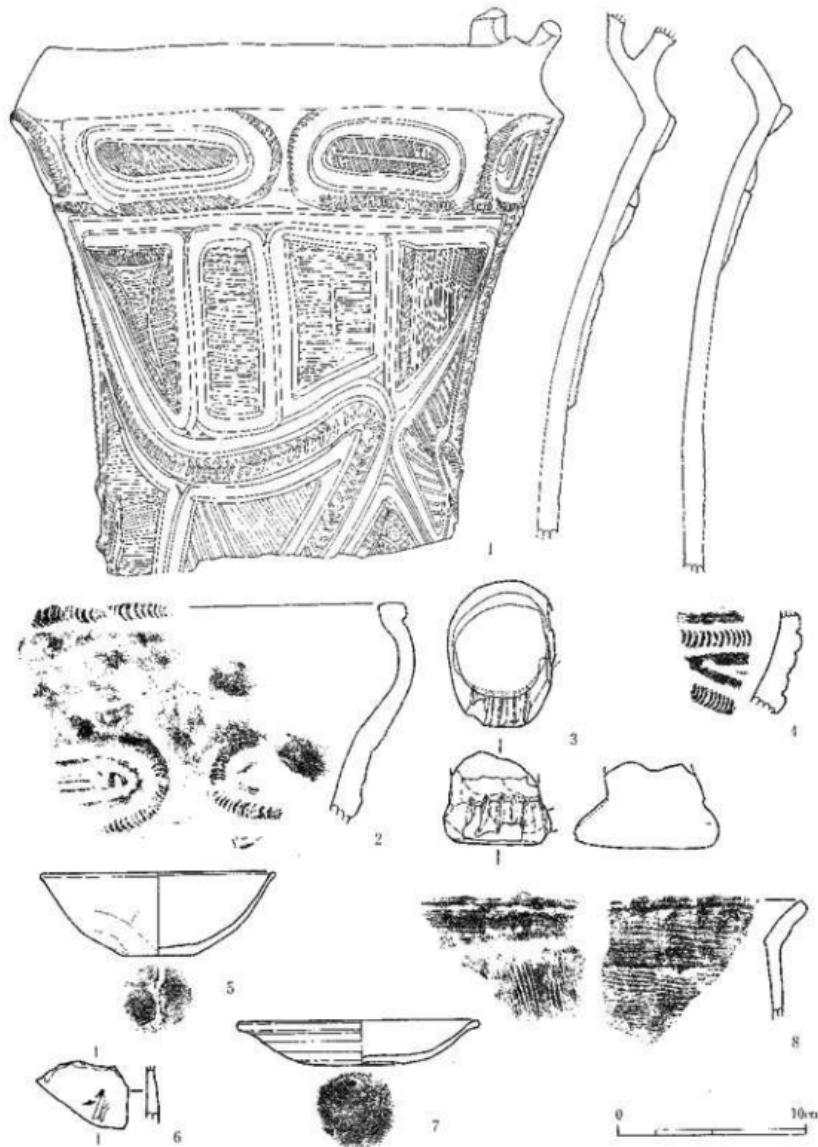
第45図 1号地下式坑 (I/80)



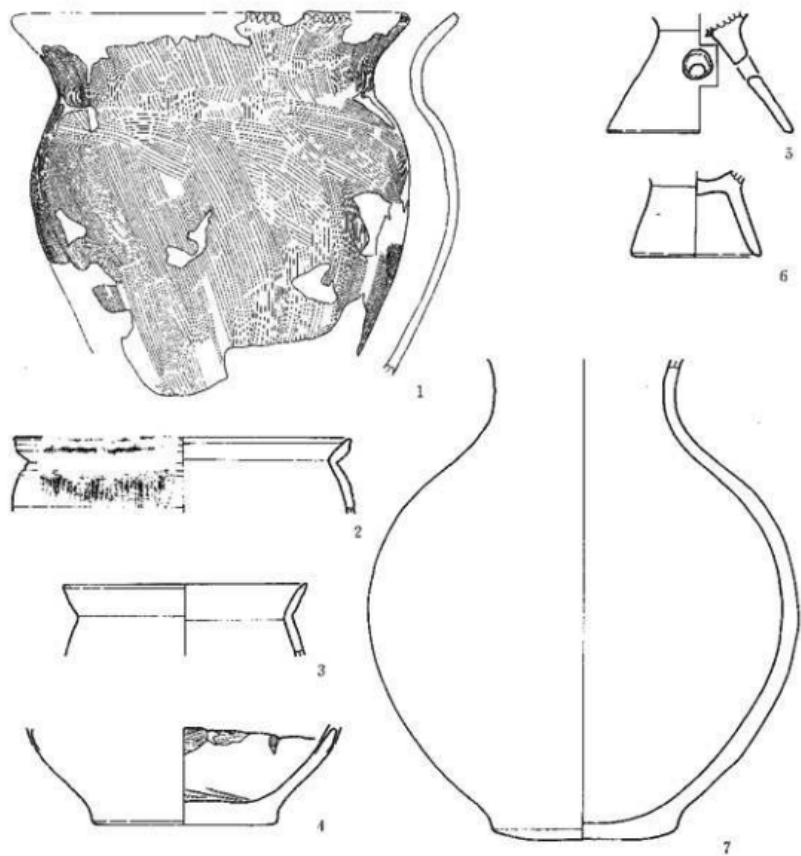
第46図 2号地下式坑 (I/80)



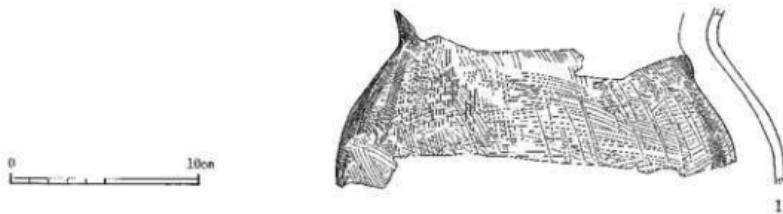
第47図 桶文時代草創期早期の出土遺物 (1/2)



第48図 18号住居出土遺物 (1/3)



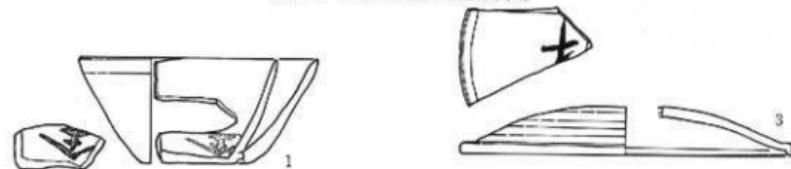
第49圖 21號住居址出土遺物 (1/3)



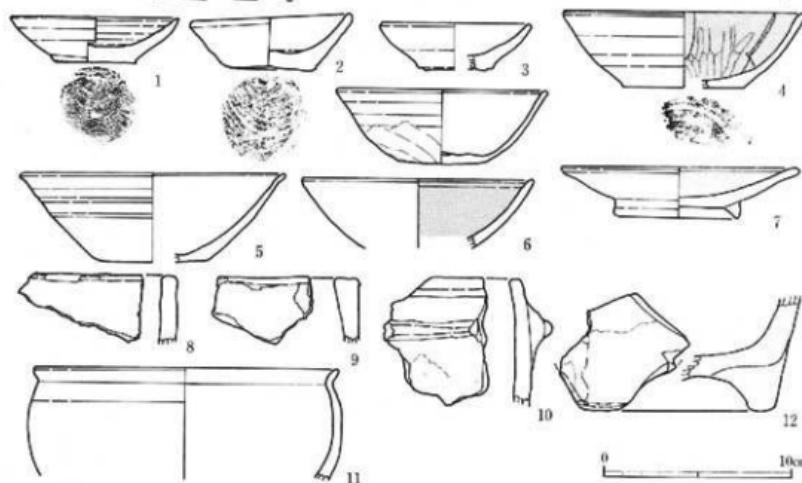
第50圖 22號住居址出土遺物 (1/3)



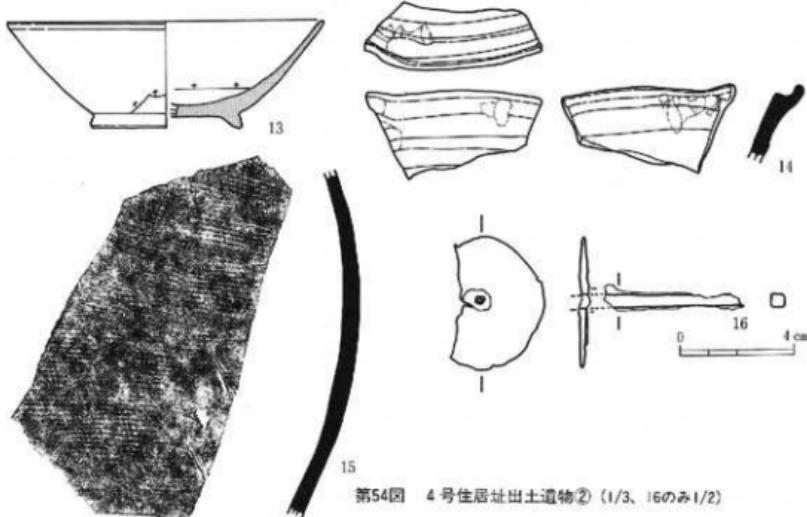
第51図 2号住居址出土遺物(1/3)



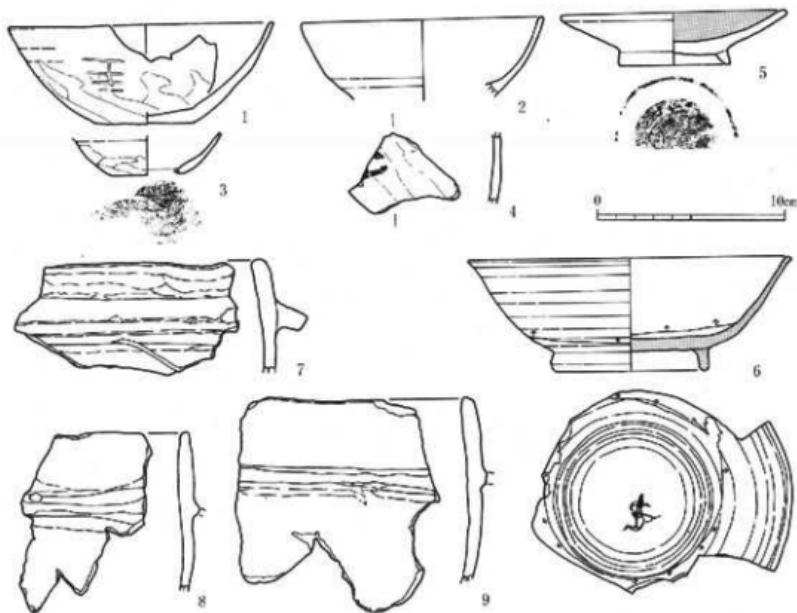
第52図 3号住居址出土遺物(1/3)



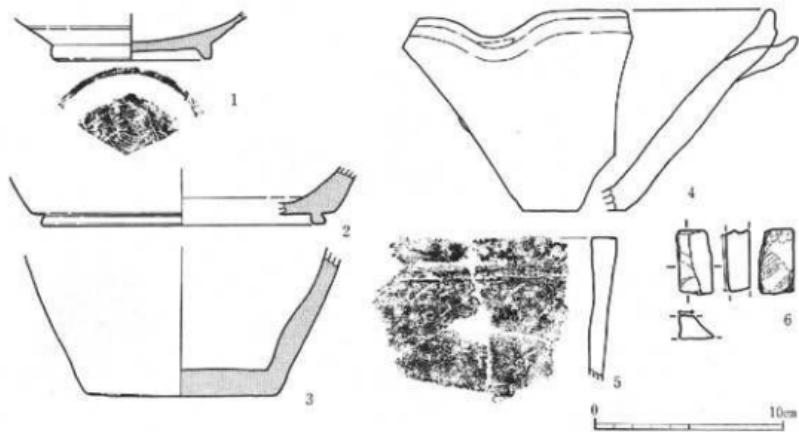
第53図 4号住居址出土遺物①(1/3)



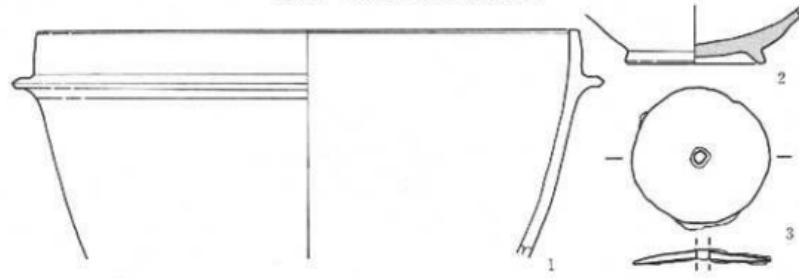
第54図 4号住居址出土遺物② (1/3, 16のみ1/2)



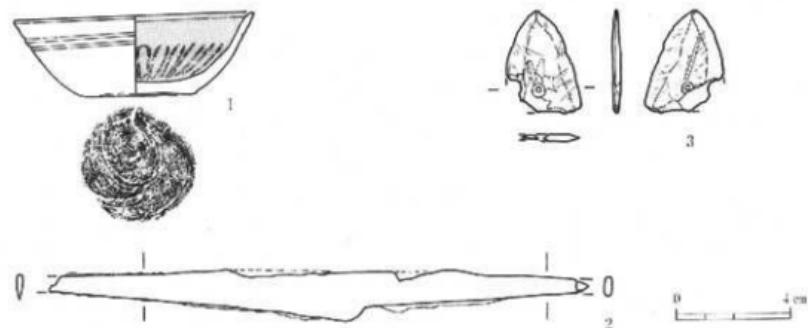
第55図 5号住居址出土遺物 (1/3)



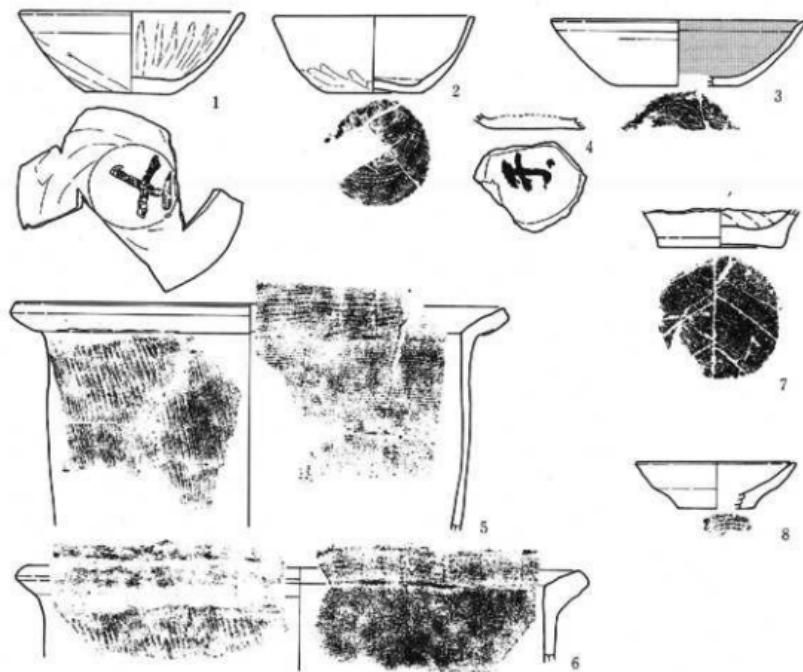
第56図 6号住居址出土遺物 (1/3)



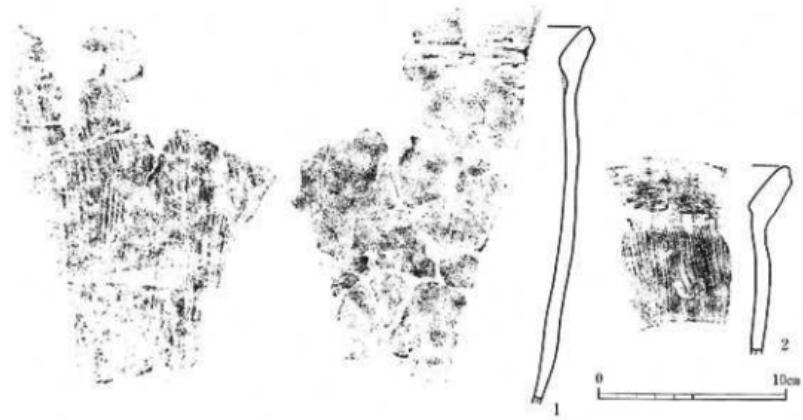
第57図 7号住居址出土遺物 (1/3、3のみ1/2)



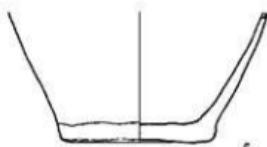
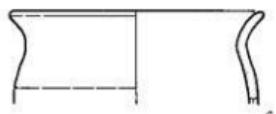
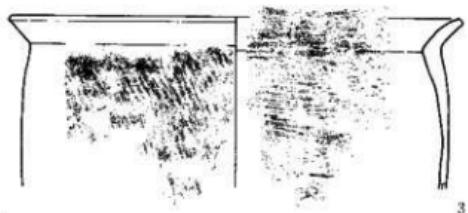
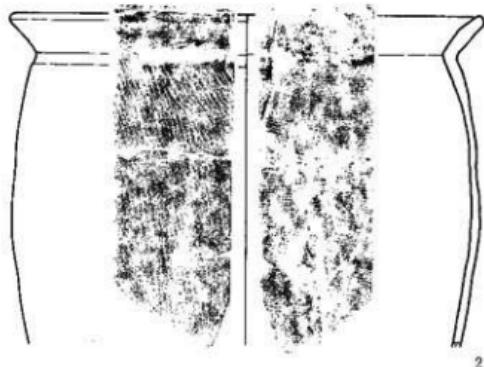
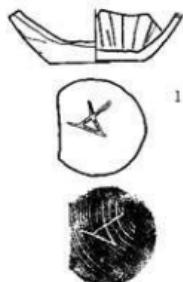
第58図 8号住居址出土遺物 (1/2、1のみ1/3)



第59図 9・44号住居址出土遺物 (1/3、8のみ44住)

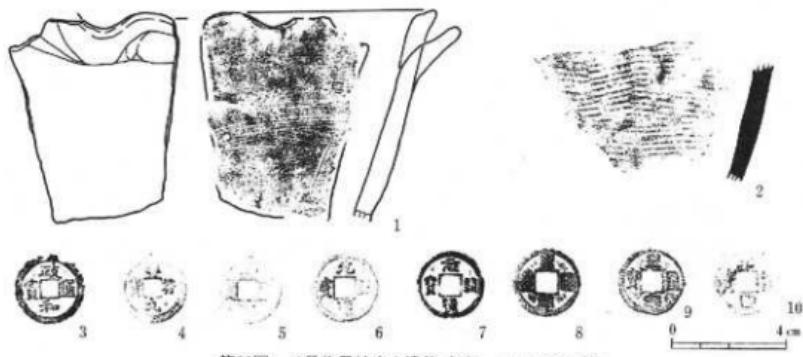


第60図 10号住居址出土遺物 (1/3)

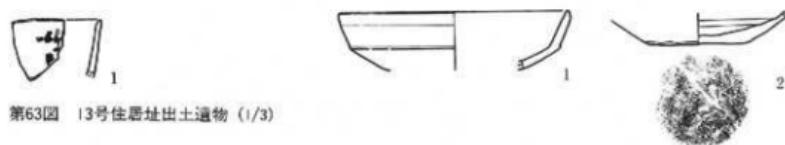


0 10cm

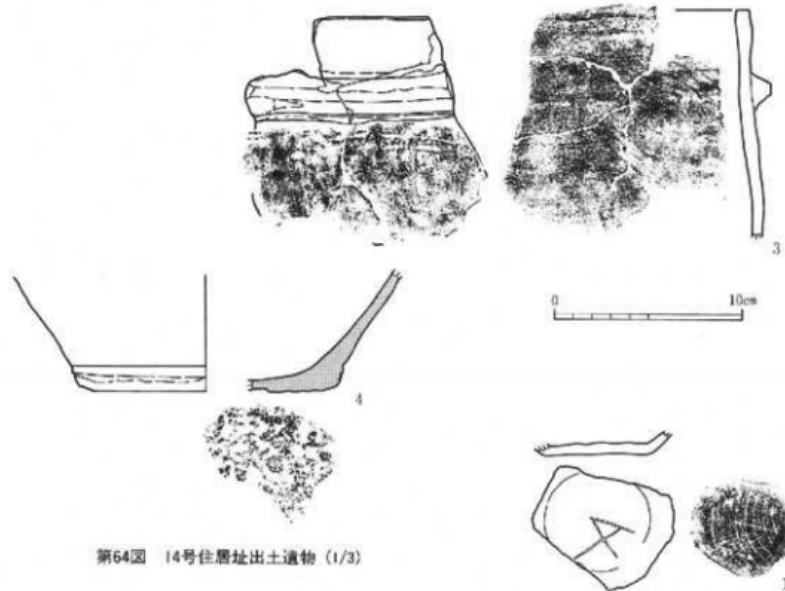
第61図 11号住居址出土遺物 (1/3)



第62図 12号住居址出土遺物 (1/2、1・2のみ1/3)

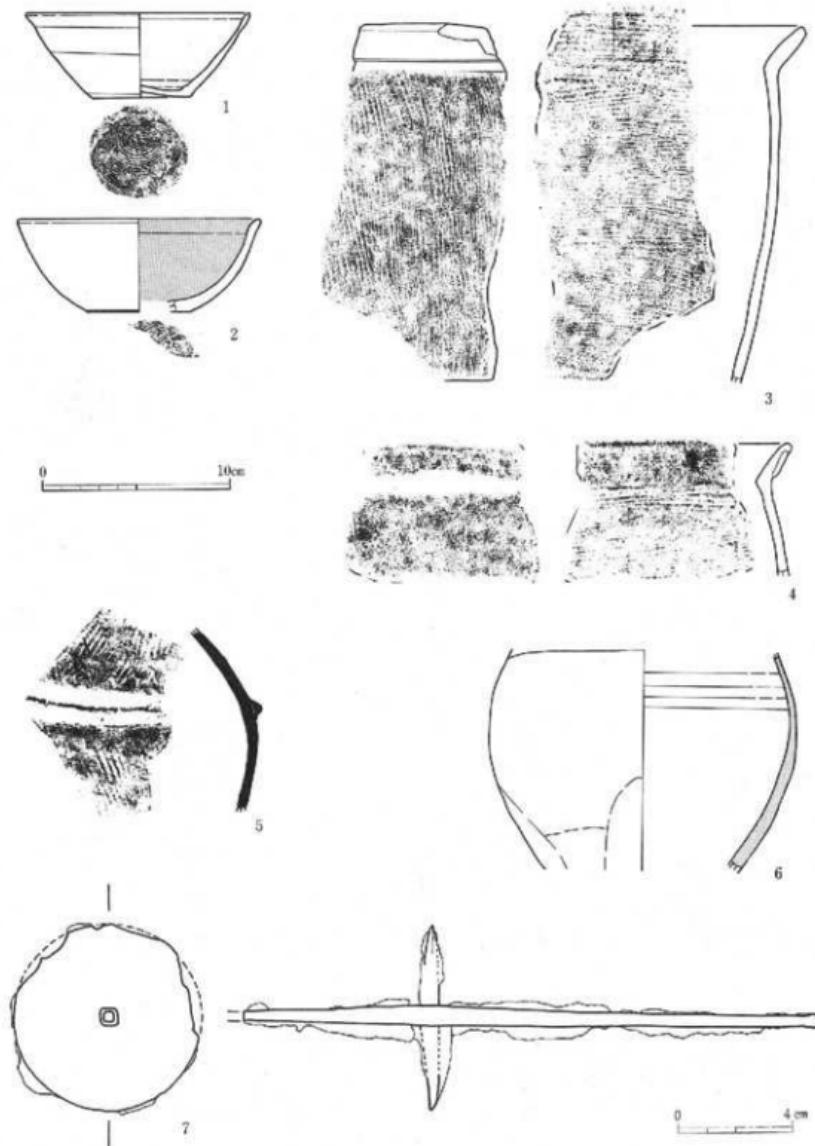


第63図 13号住居址出土遺物 (1/3)

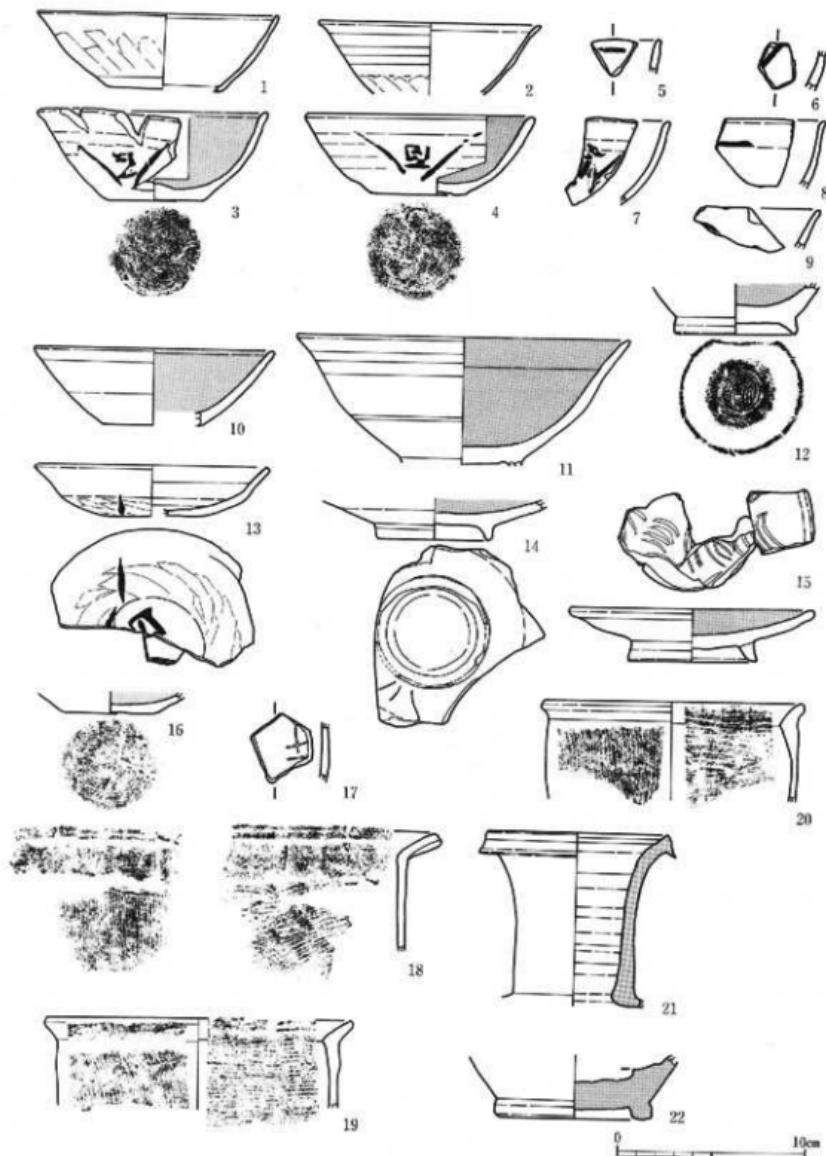


第64図 14号住居址出土遺物 (1/3)

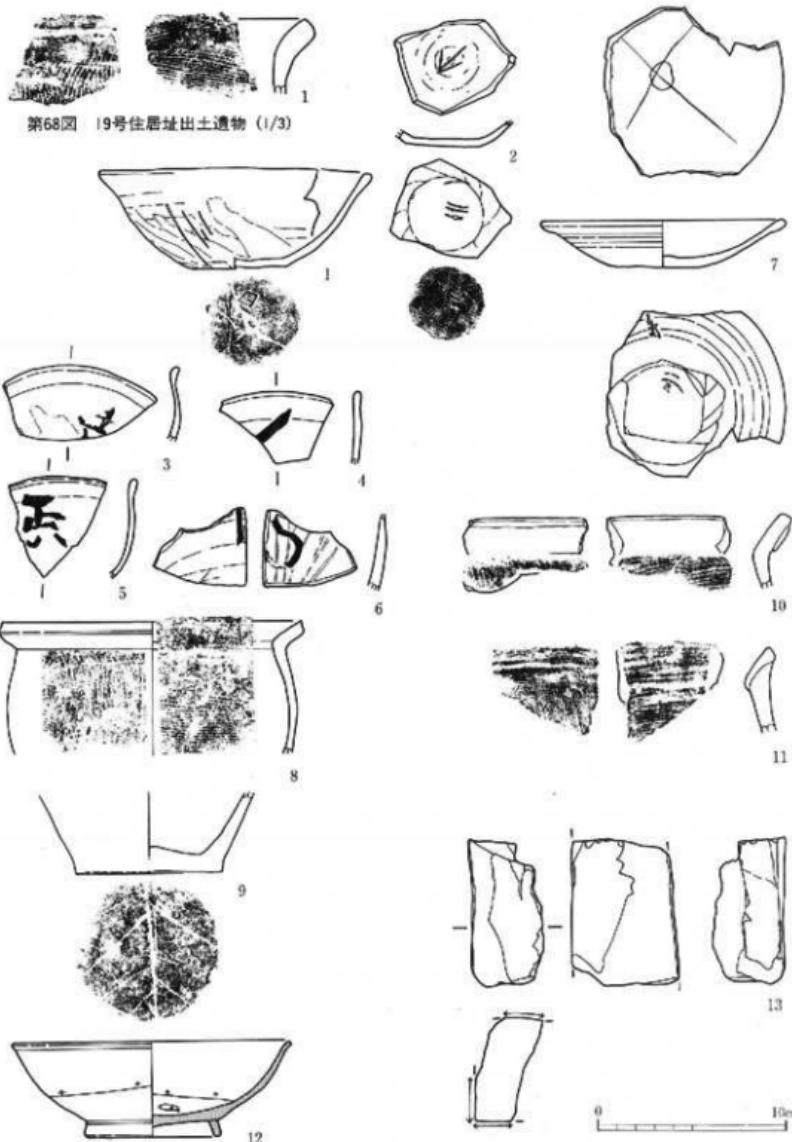
第65図 15号住居址出土遺物 (1/3)



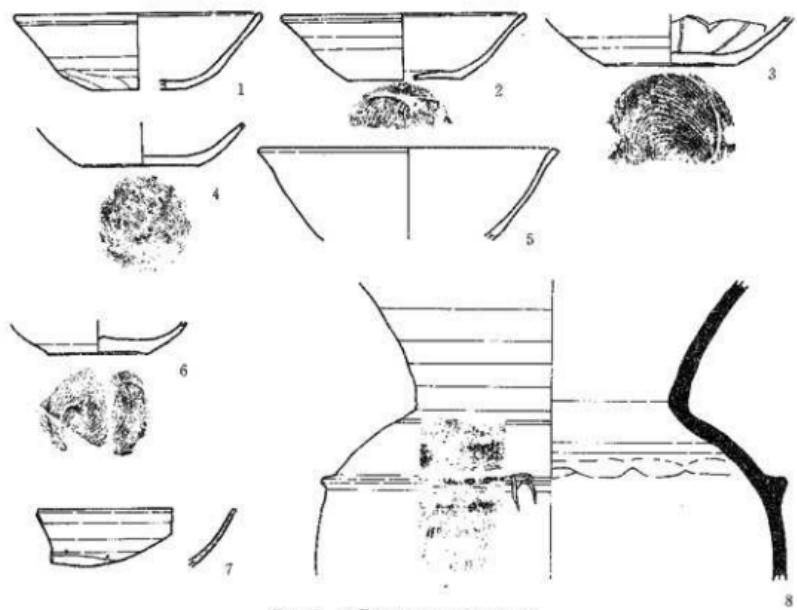
第66図 16号住居址出土遺物 (1/3、7のみ1/2)



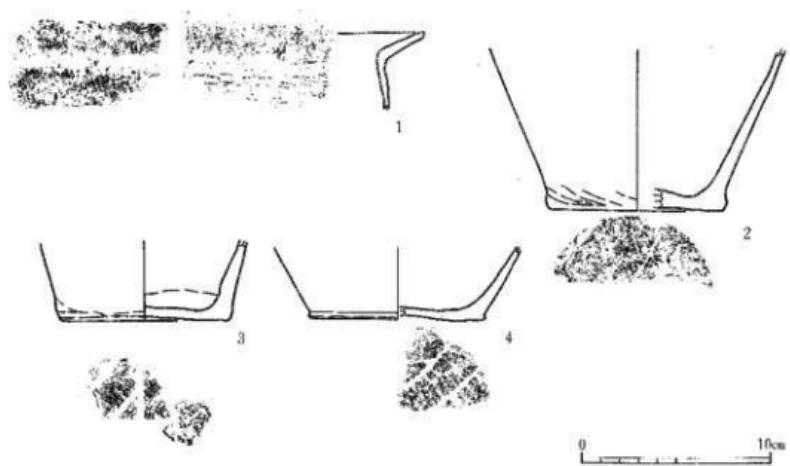
第67図 17号住居址出土遺物 (1/3)



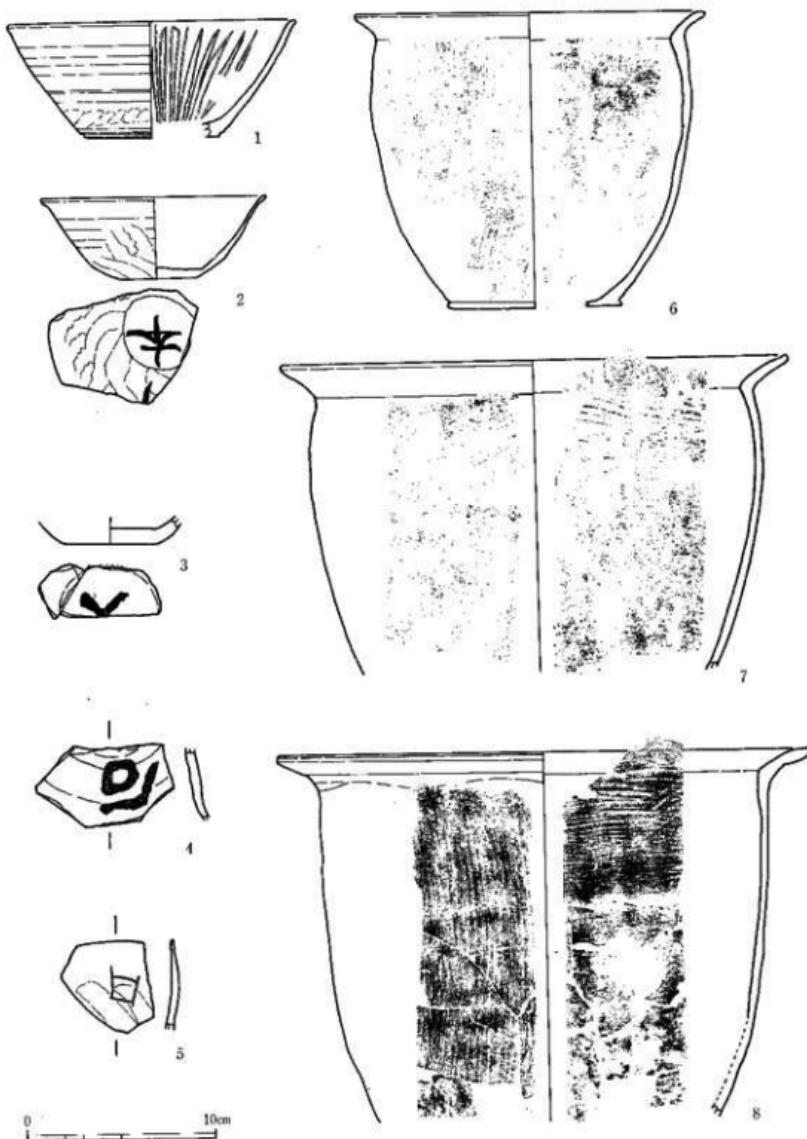
第68図 19号住居址出土遺物 (1/3)



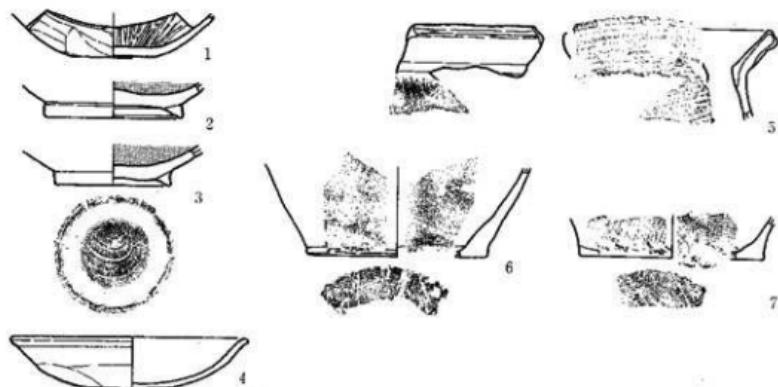
第70図 23号住居址出土遺物 (1/3)



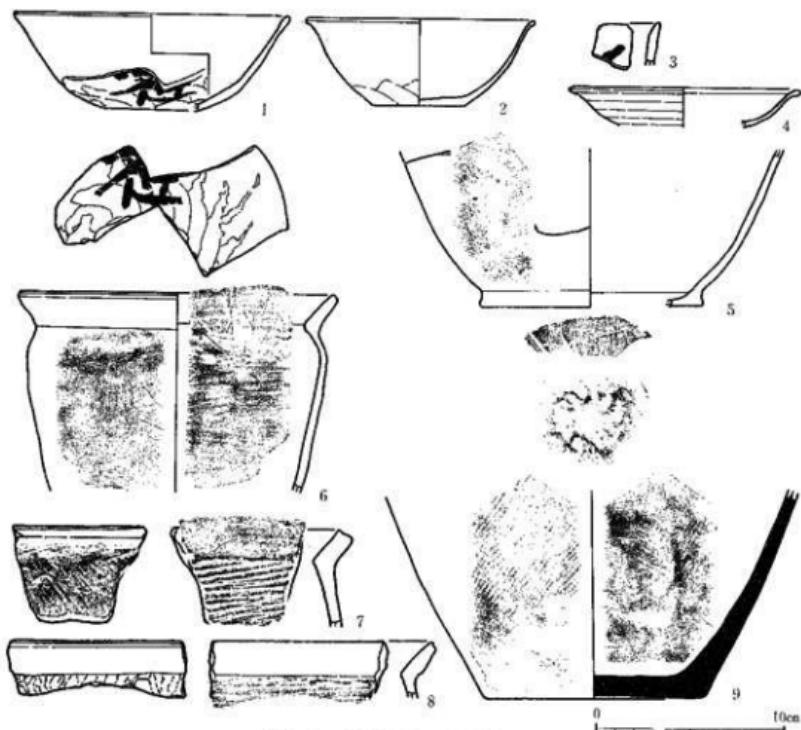
第71図 24号住居址出土遺物



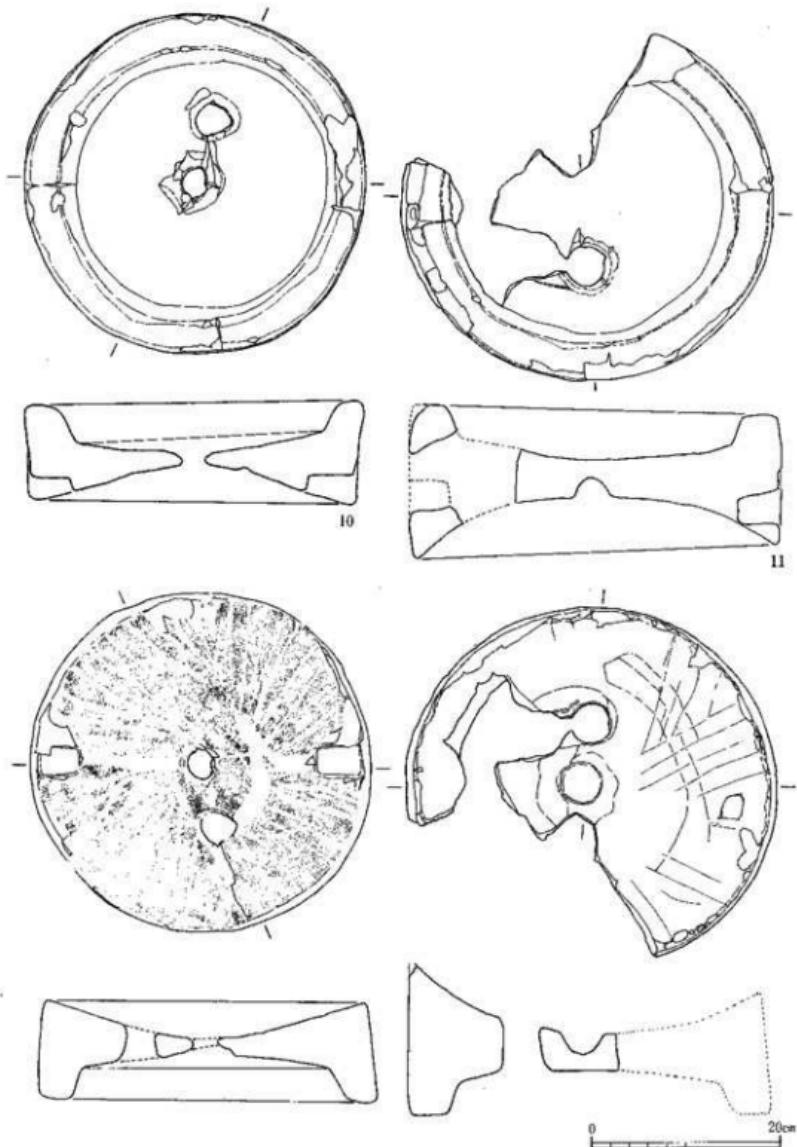
第72图 25号住居址出土遗物 (1/3)



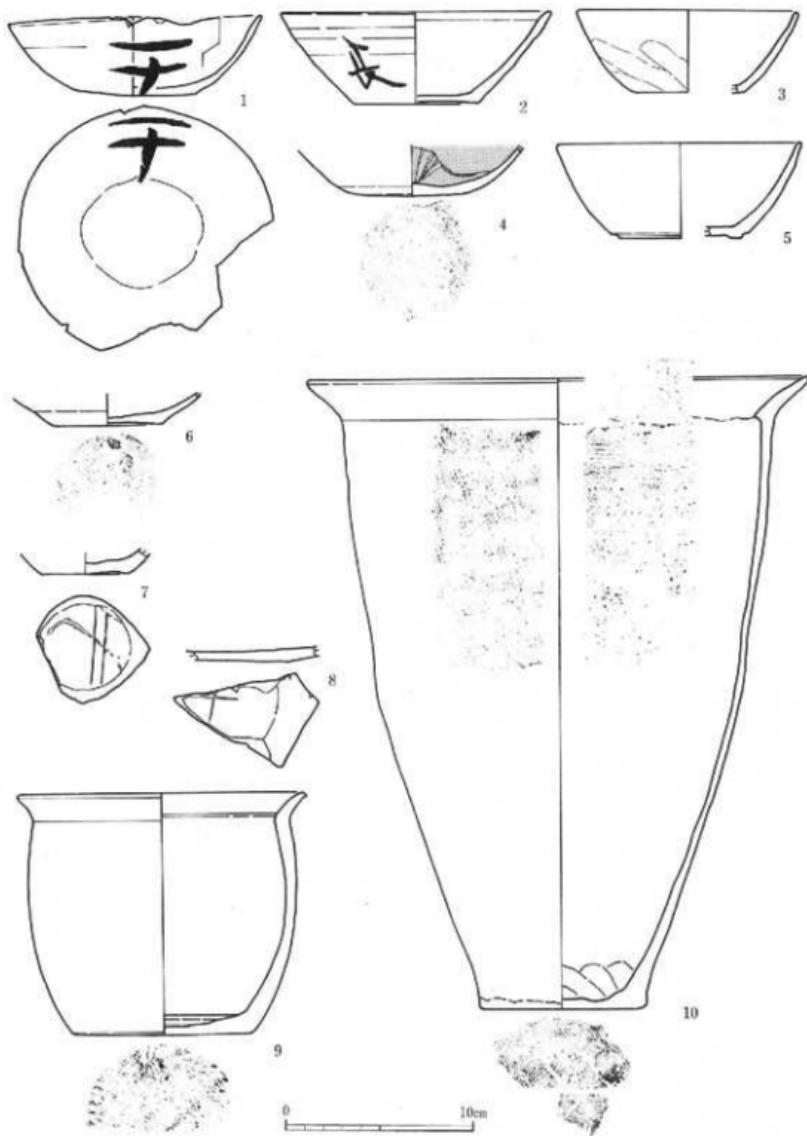
第73图 27号住居址出土遗物 (1/3)



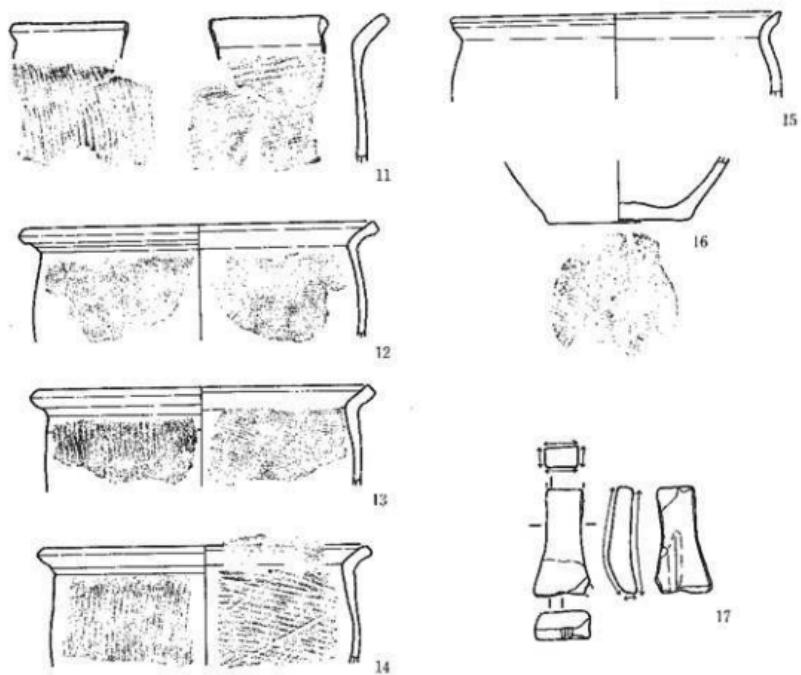
第74图 28号住居址出土遗物① (1/3)



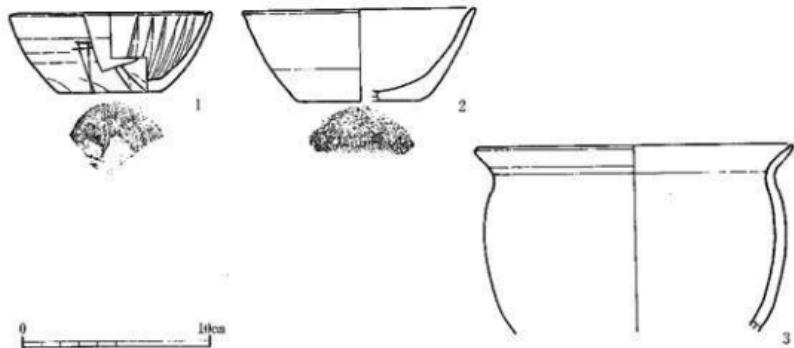
第75圖 28號住居址出土遺物② (1/6)



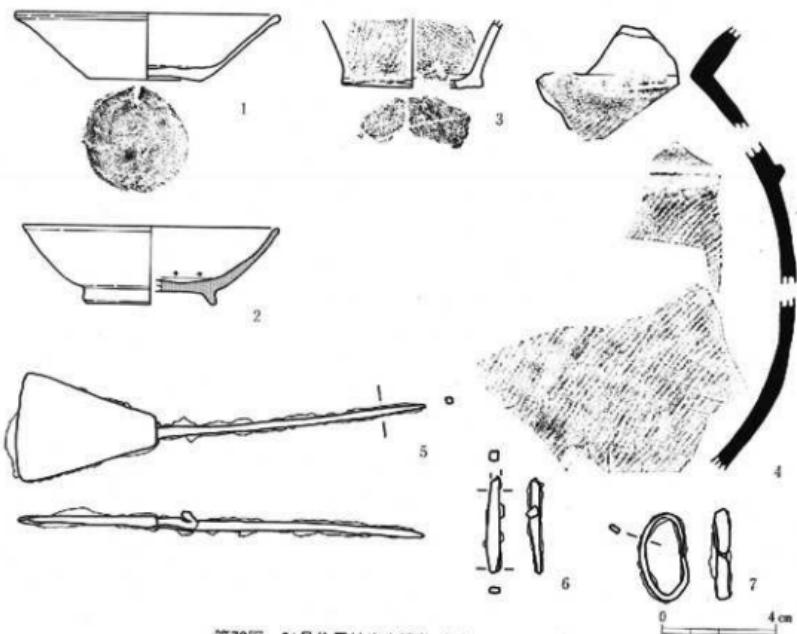
第76圖 29號住居址出土遺物① (1/3)



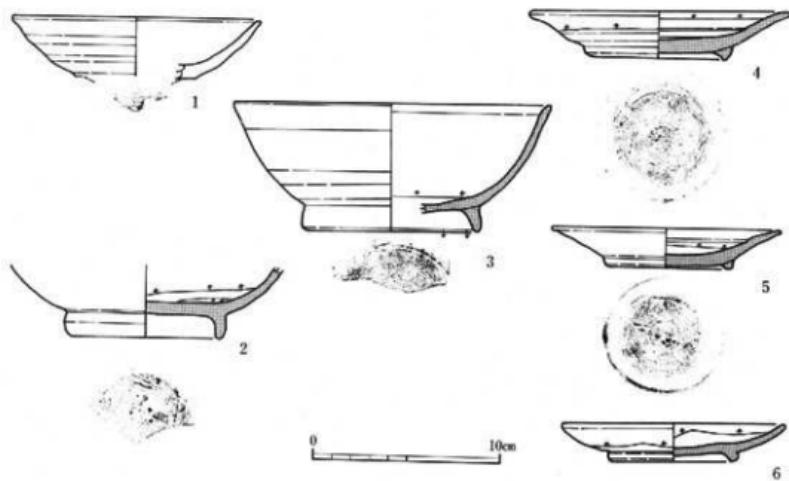
第77圖 29號住居址出土遺物② (1/3)



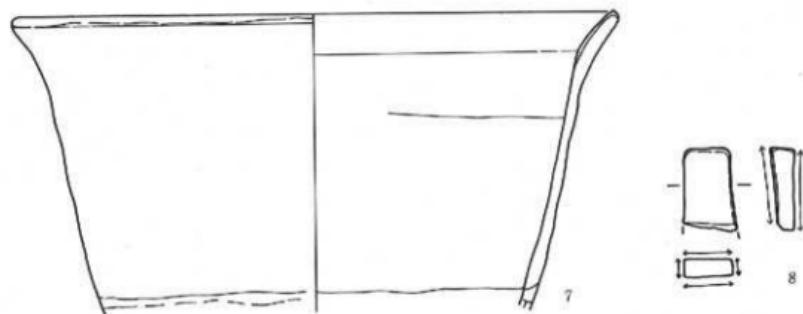
第78圖 30號住居址出土遺物 (1/3)



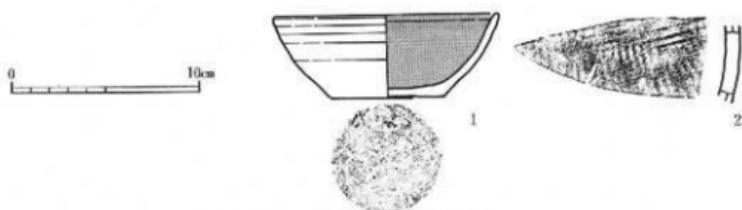
第79図 31号住居址出土遺物 (1/3、5～7は1/2)



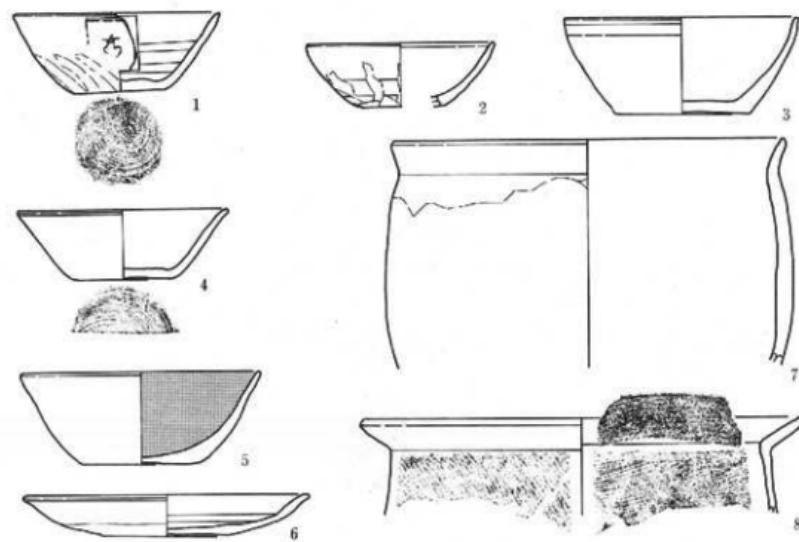
第80図 32号住居址出土遺物① (1/3)



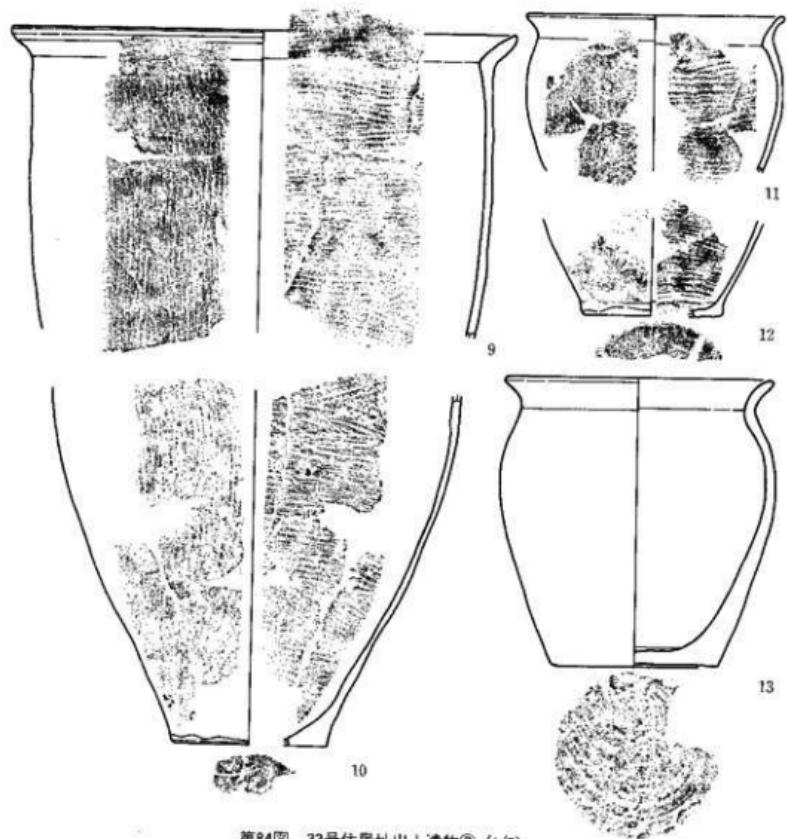
第81図 32号住居址出土遺物② (1/3)



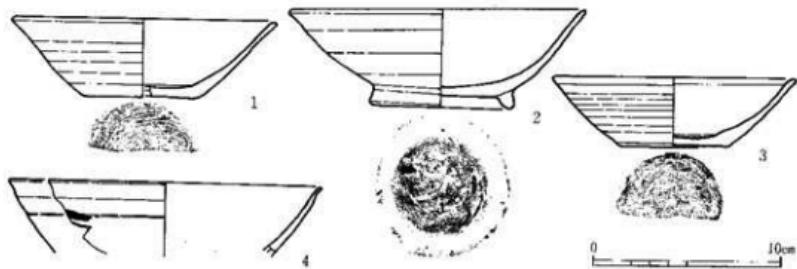
第82図 42号住居址出土遺物 (1/3)



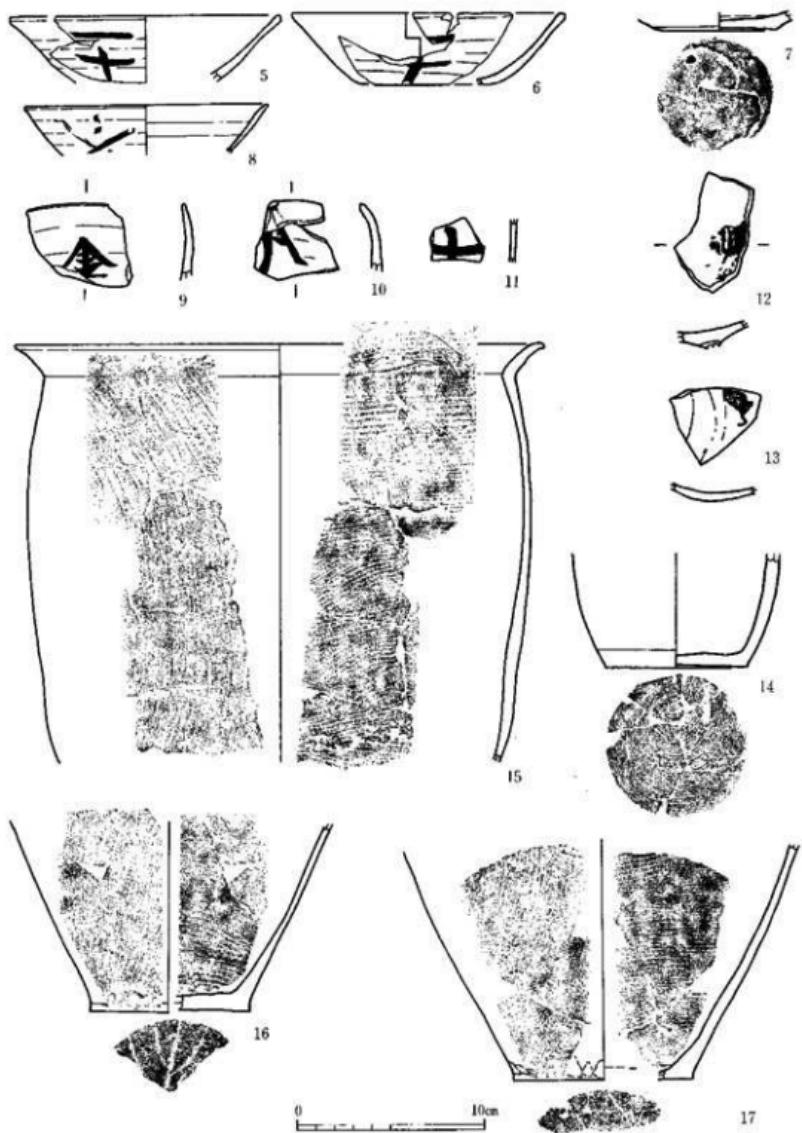
第83図 33号住居址出土遺物① (1/3)



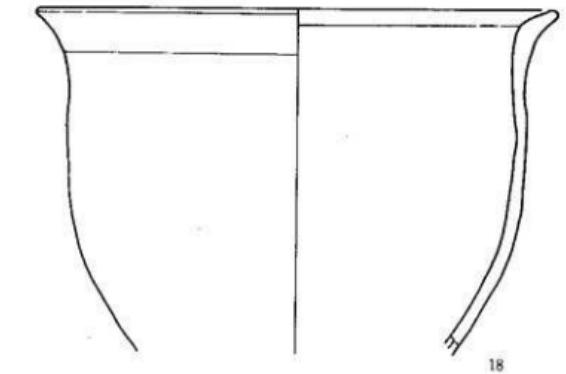
第84図 33号住居址出土遺物② (1/3)



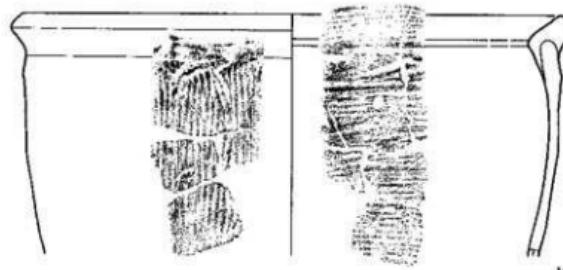
第85図 34号住居址出土遺物① (1/3)



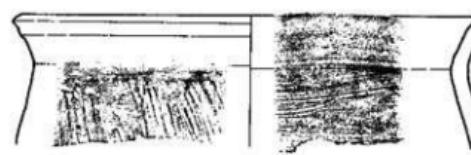
第86圖 34號住居址出土遺物② (1/3)



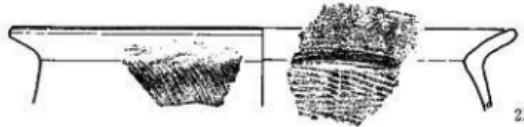
18



19



20



21

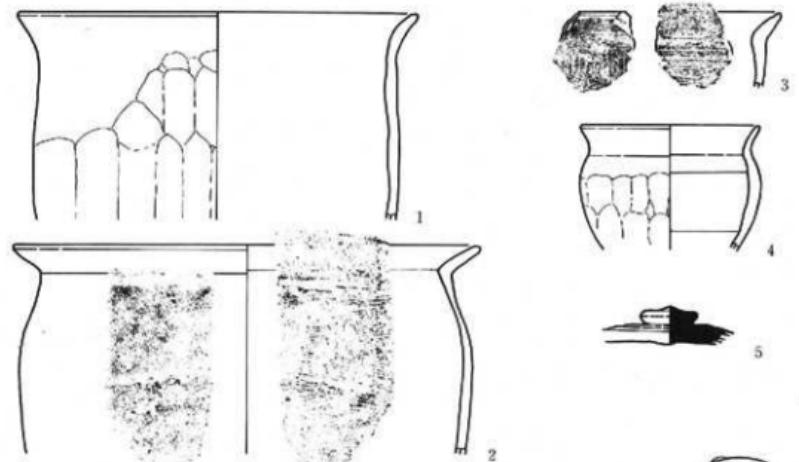


0 10cm 22

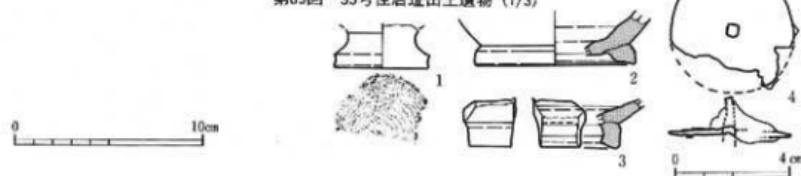
第87圖 34號住居址出土遺物③ (1/3)



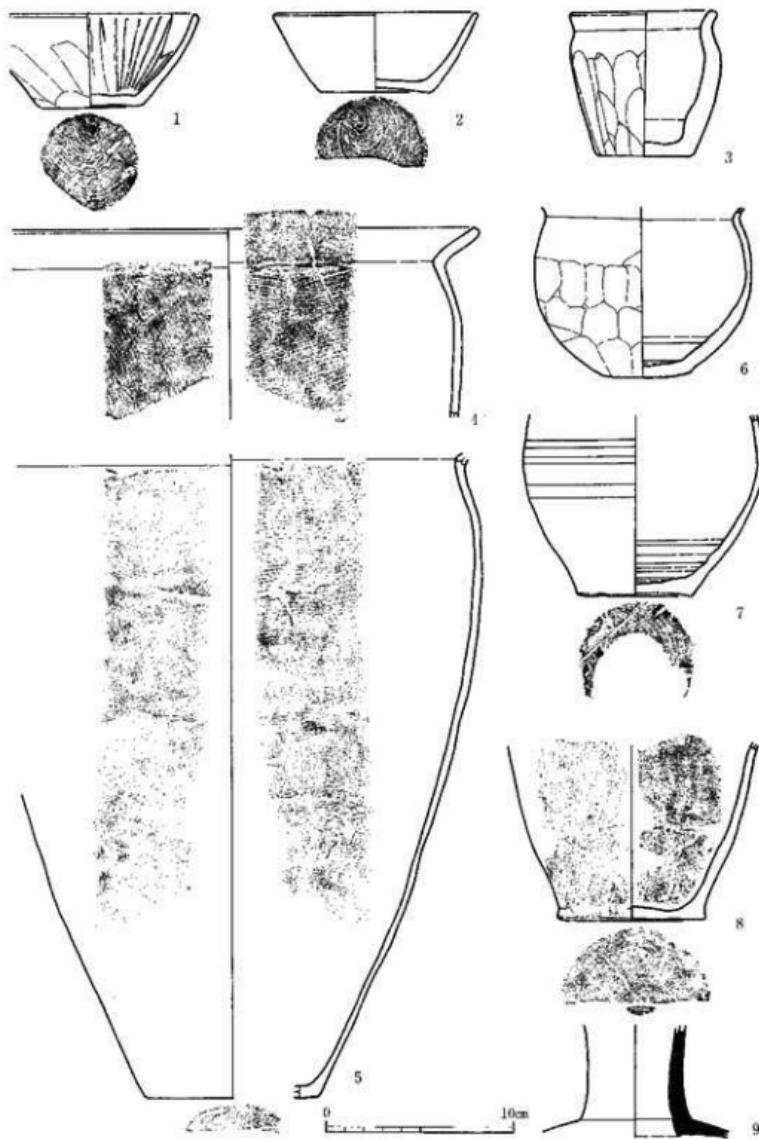
第88図 34号住居址出土遺物④ (1/3)



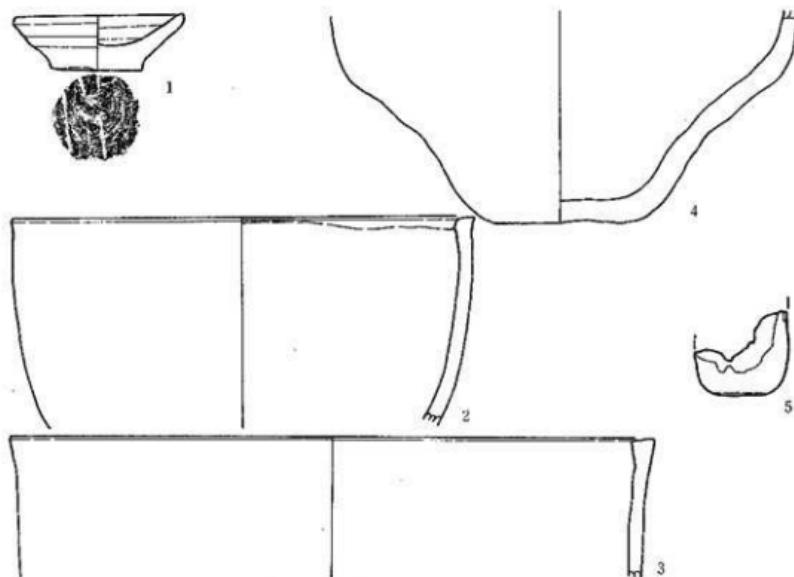
第89図 35号住居址出土遺物 (1/3)



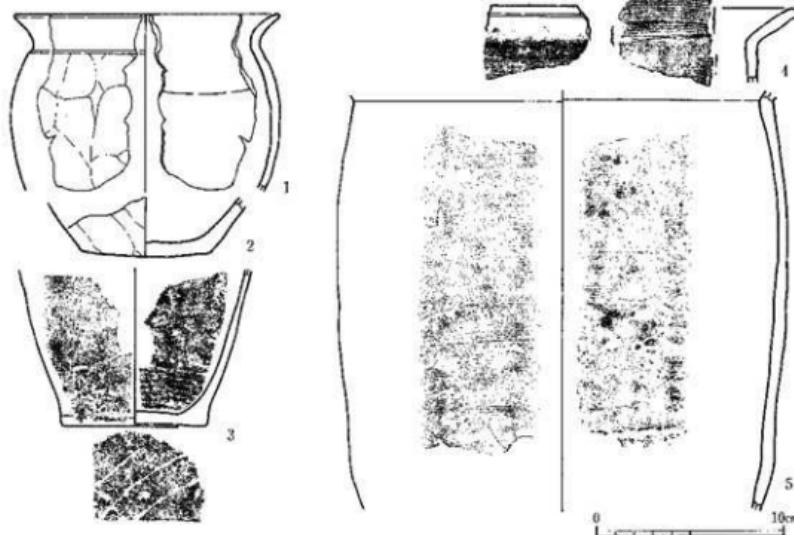
第90図 36号住居址出土遺物 (1/3, 4は1/2)



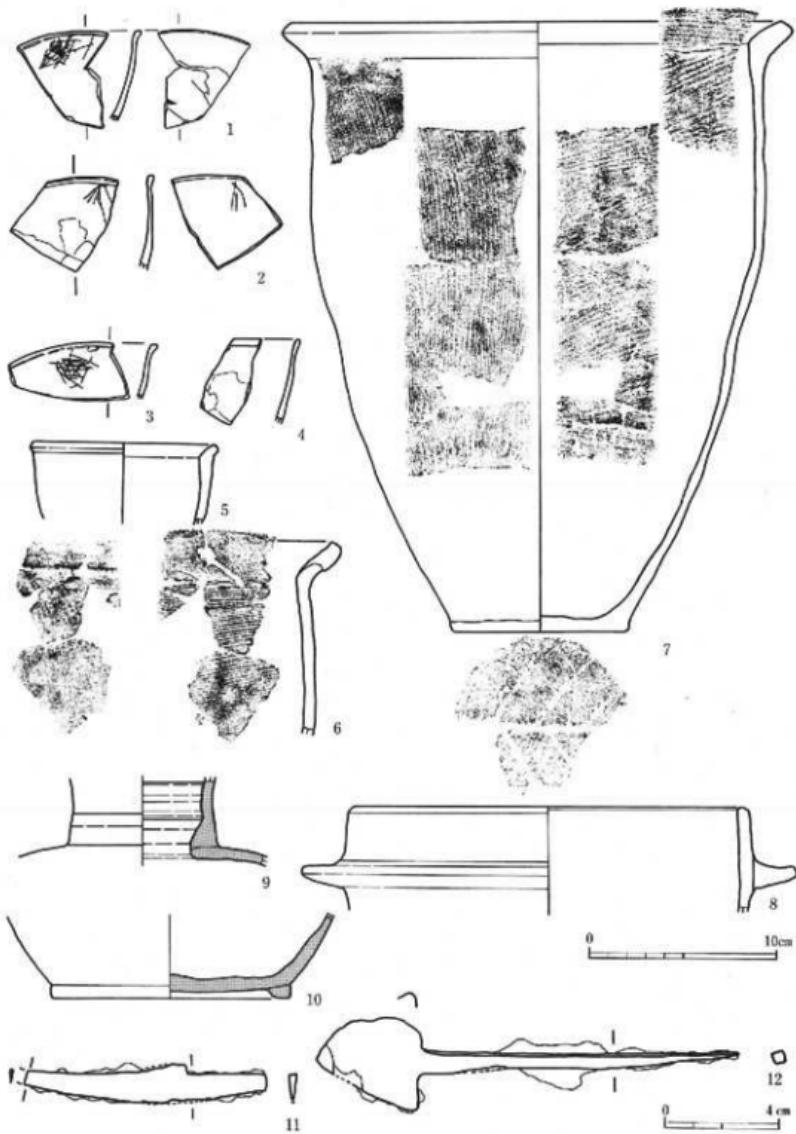
第91図 37号住居址出土遺物 (1/3)



第92図 38号住居址出土遺物 (1/3)



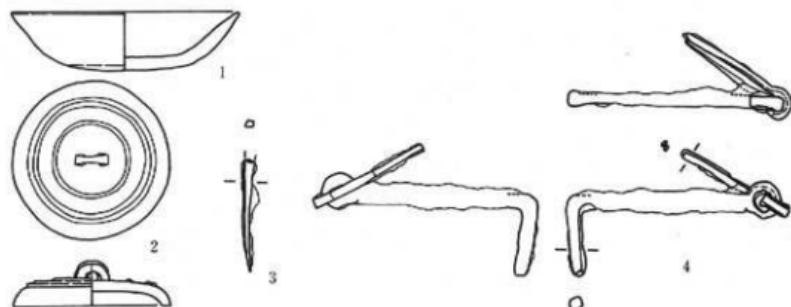
第93図 39号住居址出土遺物 (1/3)



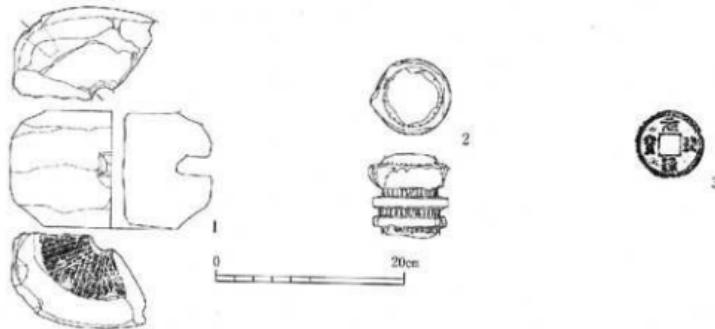
第94図 40号住居址出土遺物 (1/3、11・12は1/2)



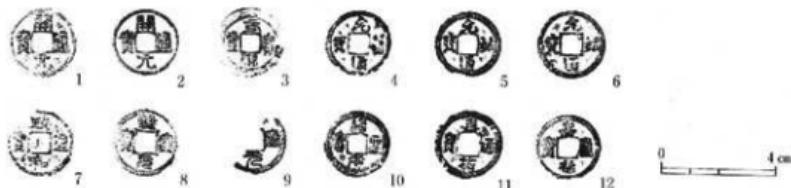
第95圖 41號住居址出土遺物 (1/3)



第96図 3号竪穴状遺構出土遺物 (1/2, 1は1/3)



第97図 2号地下式坑出土遺物 (1/6、3は1/2)



第98図 I - 6 区ピット内出土遺物 (1/2)

図 版



全景（空撮）

図版 2



全景、西から



全景、中央から東へ

図版 3

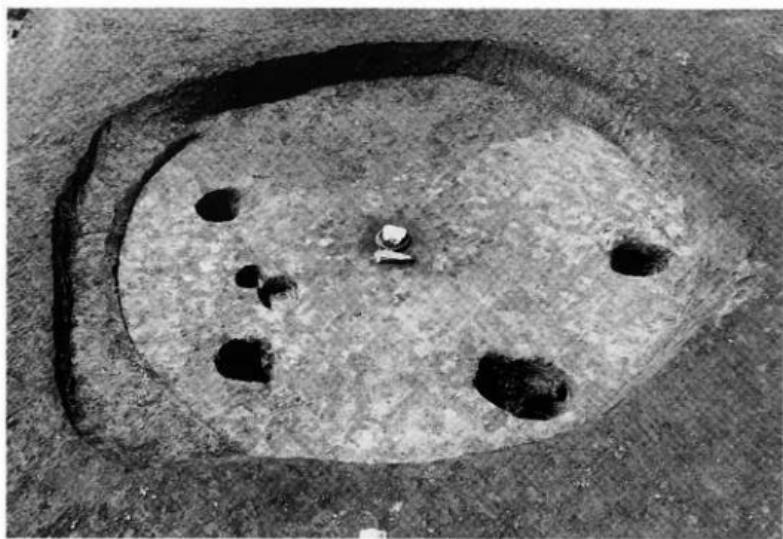


全景、東から



全景、北から

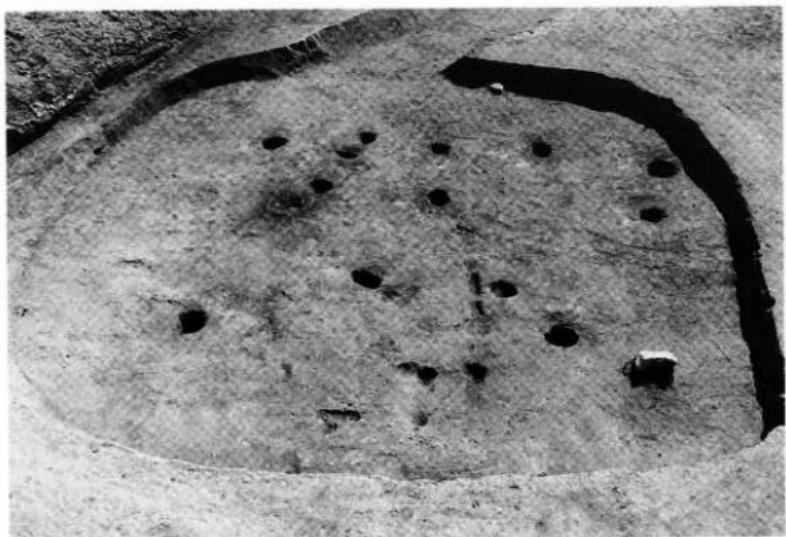
图版 4



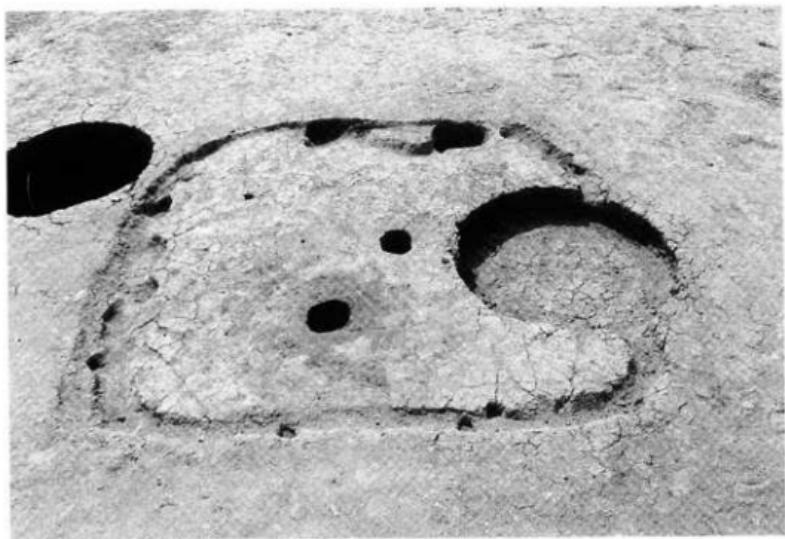
18号住居址



18号住居址炉址

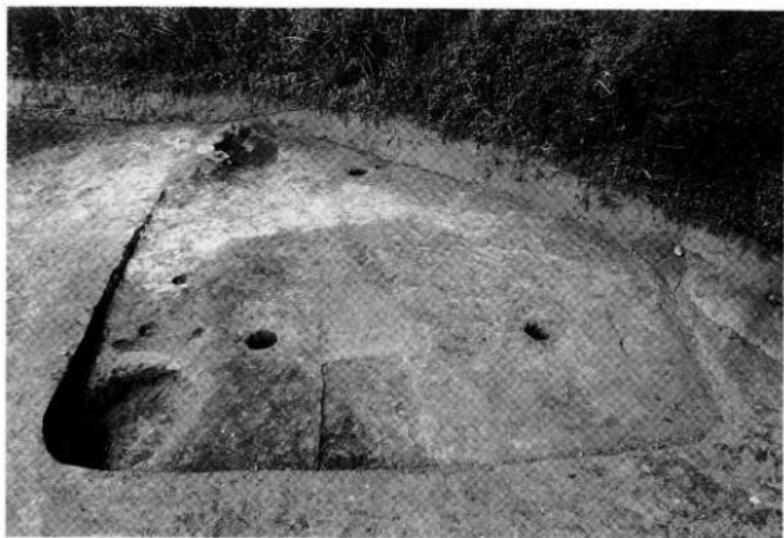


21号住居址

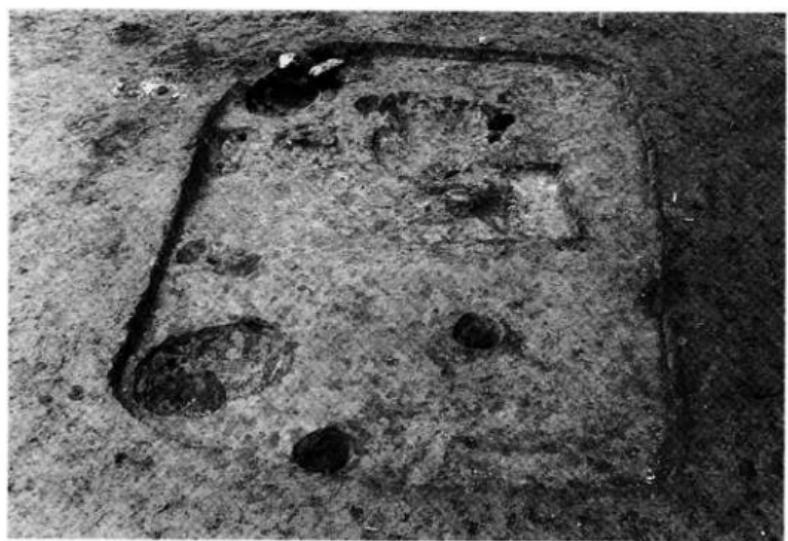


22号住居址

図版 6



1号住居址



2号住居址



3号住居址



4・5・43号住居址

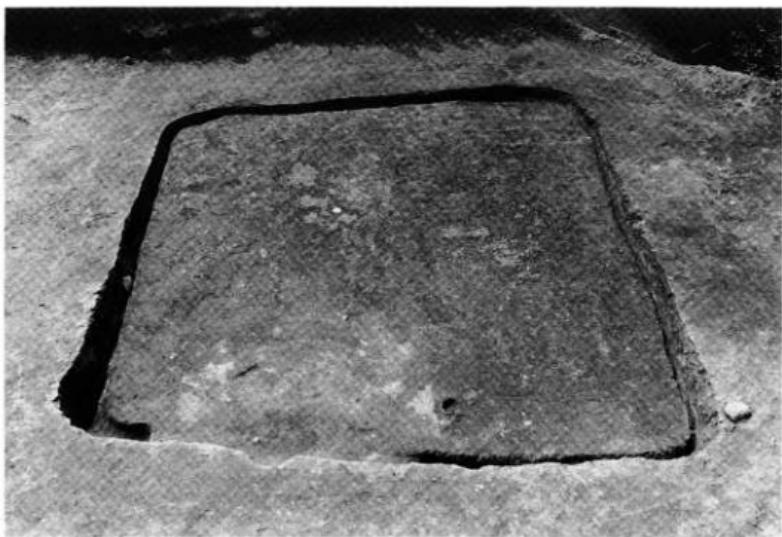
図版 8



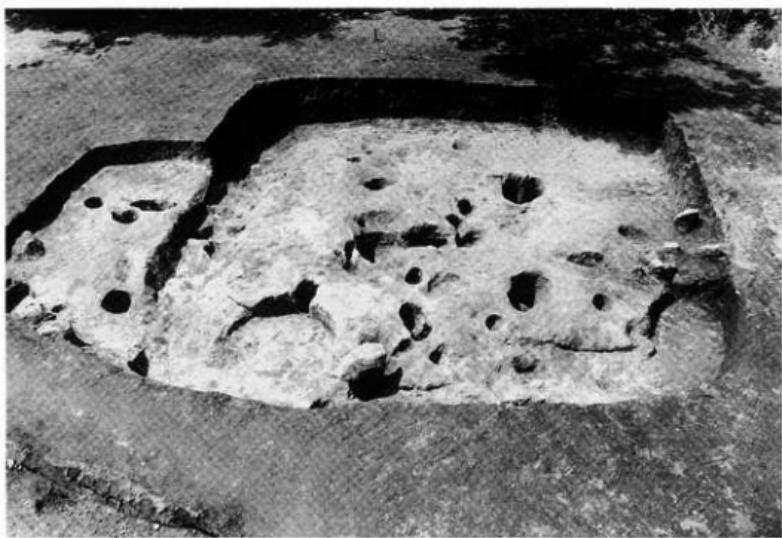
6号住居址・3号竪穴状遺構



6・7号住居址



8号住居址



9・44号住居址

図版10



10号住居址



11号住居址



12・20号住居址

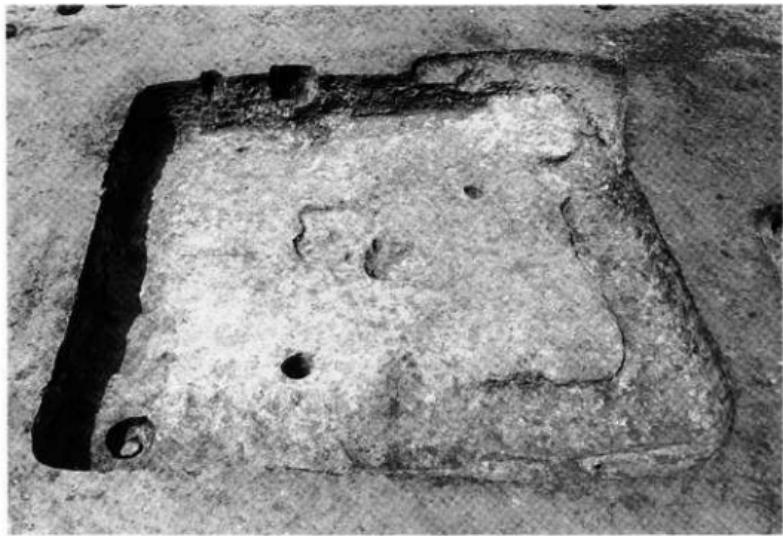


12号住居址古钱出土状態

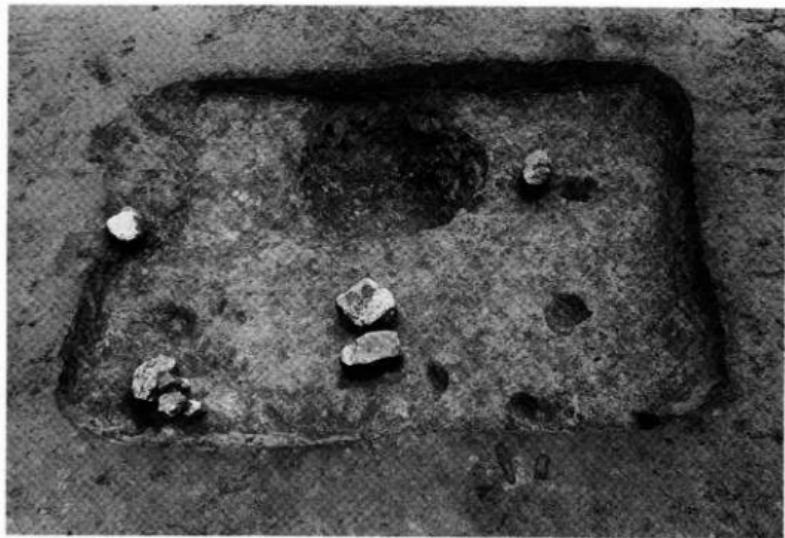
図版12



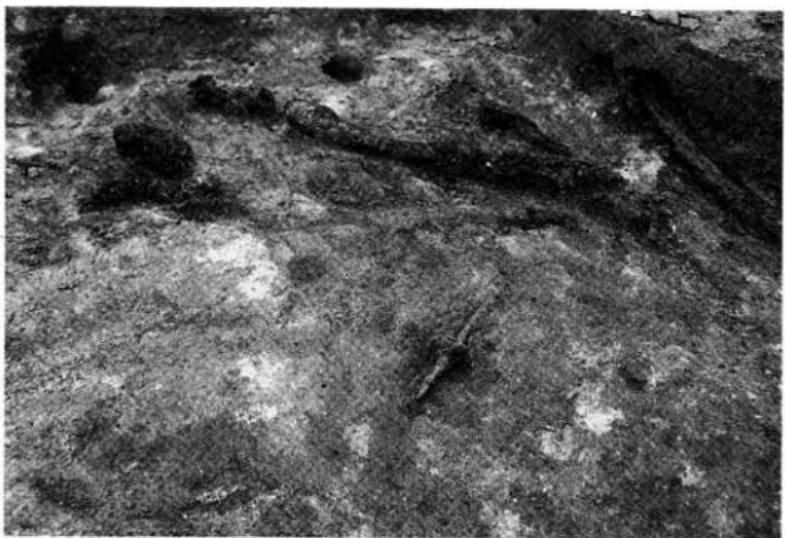
13・14号住居址、1号掘立柱建物址



15号住居址



16号住居址



16号住居址炭化材・紡錘車出土状態

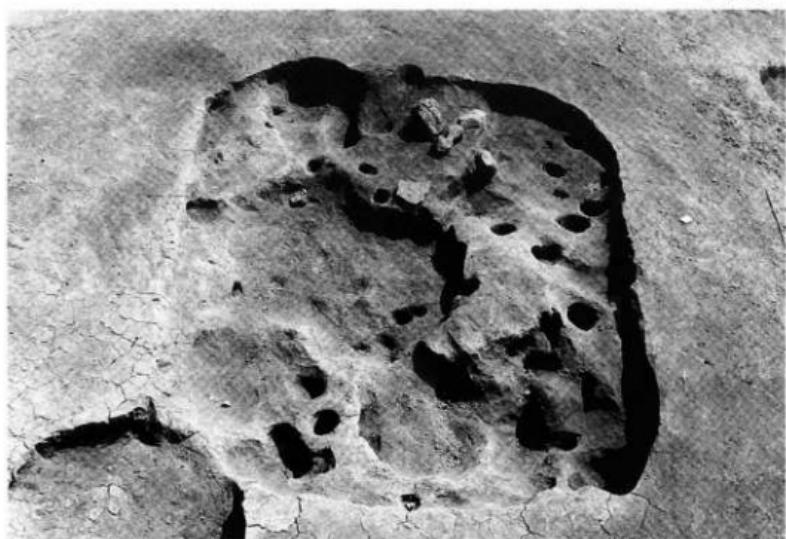
図版14



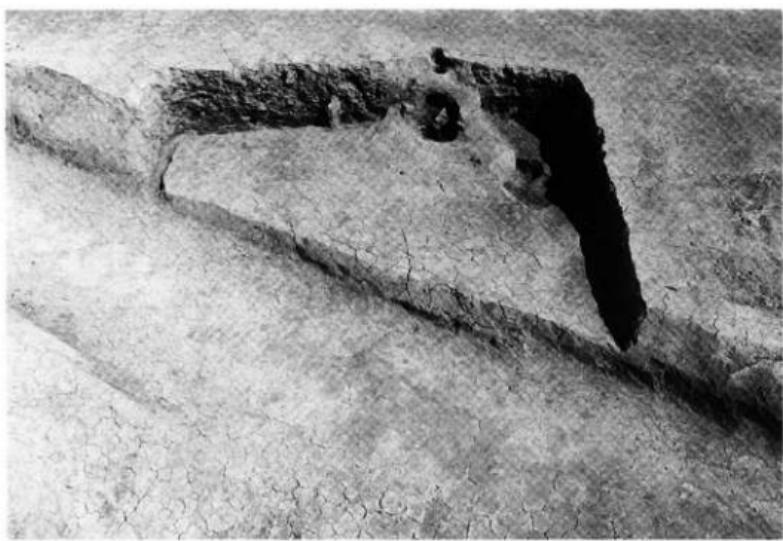
17号住居址



19号住居址



23号住居址



24号住居址

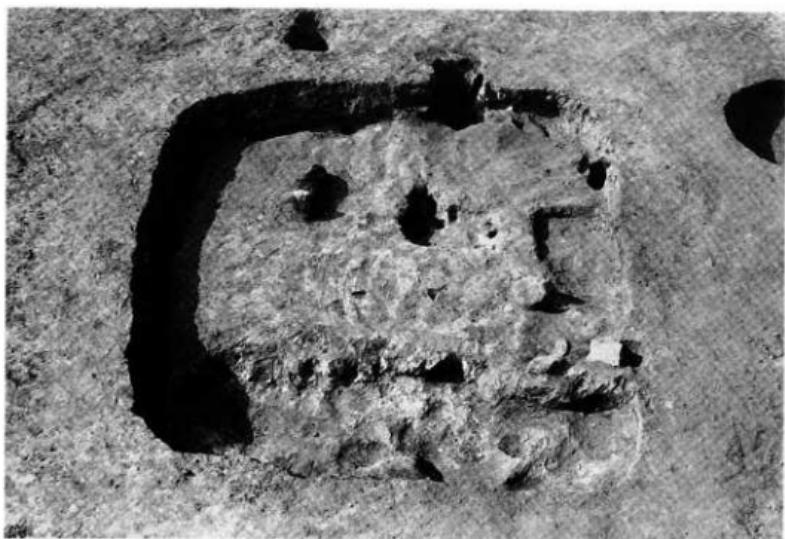
図版16



25号住居址



26号住居址

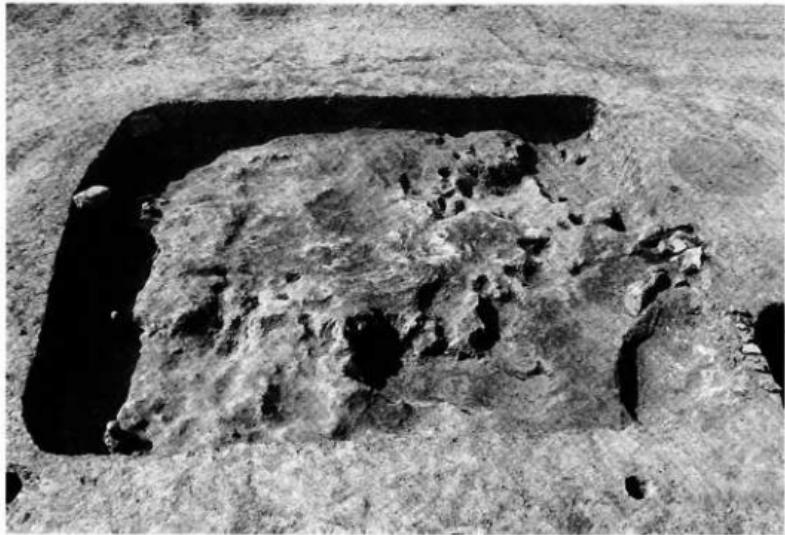


27号住居址



28号住居址

図版18



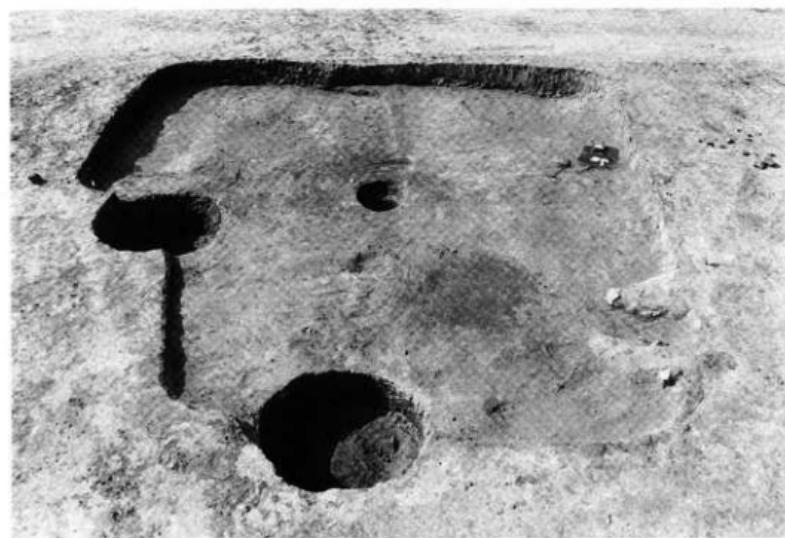
29号住居址



30号住居址

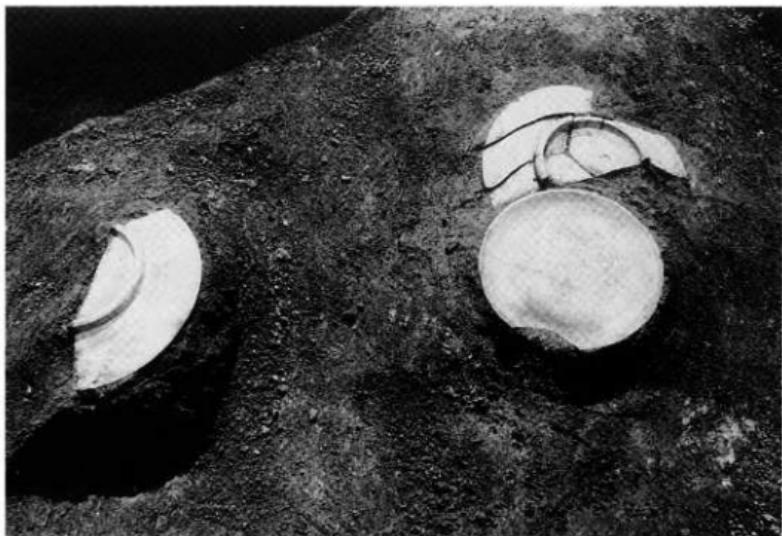


31号住居址

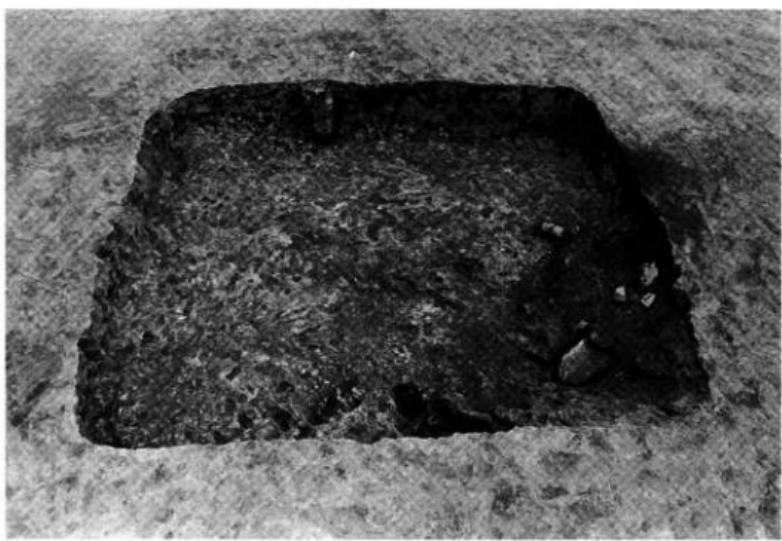


32・42号住居址

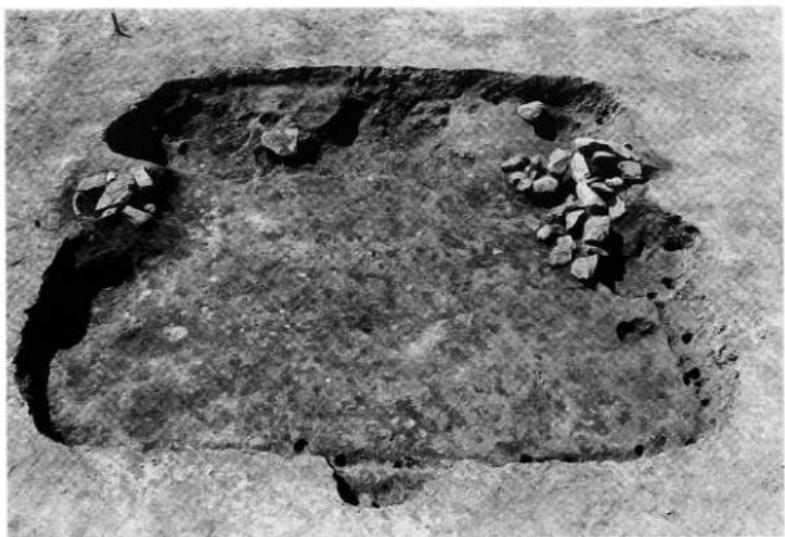
図版20



32号住居址灰釉陶器出土状態



33号住居址

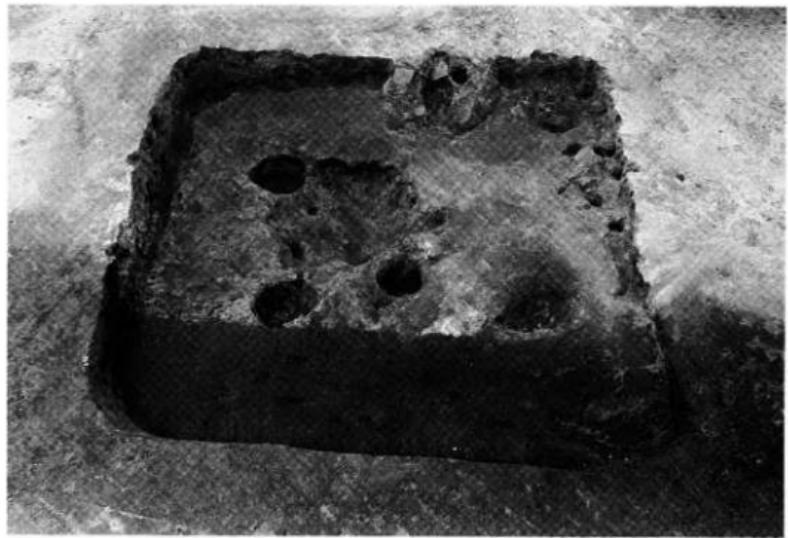


34号住居址



34号住居址カマド（東側）

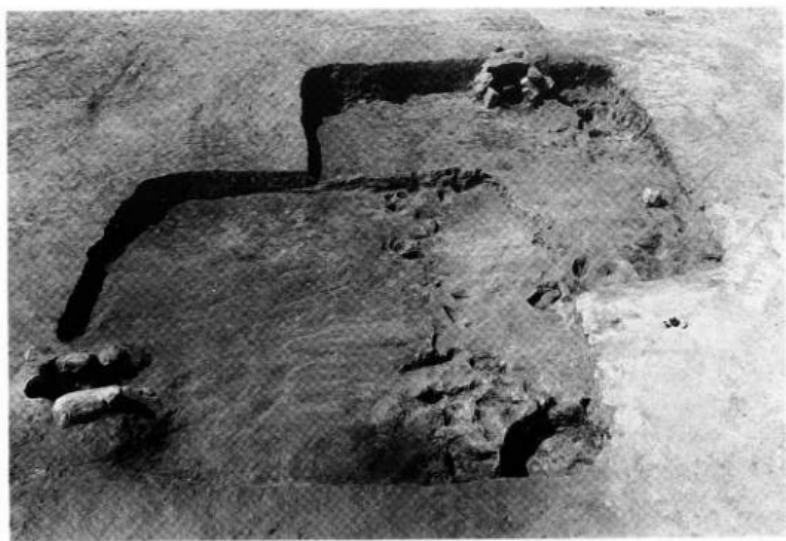
図版22



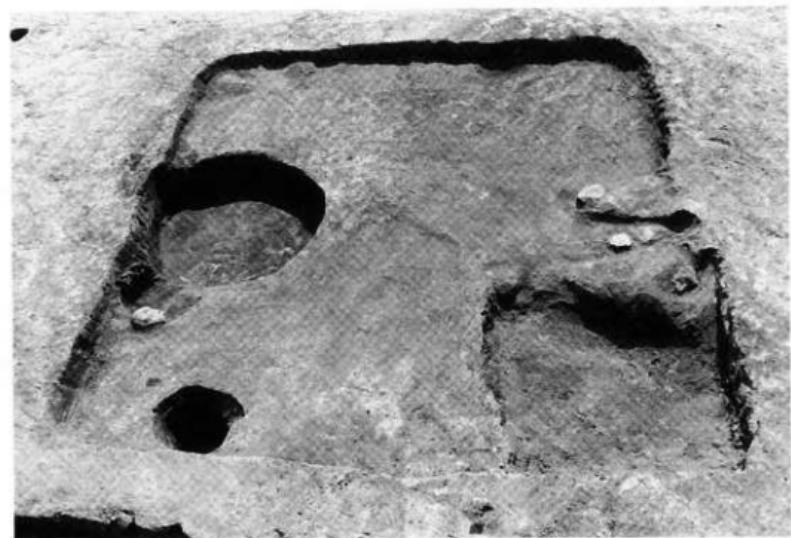
35号住居址



36号住居址

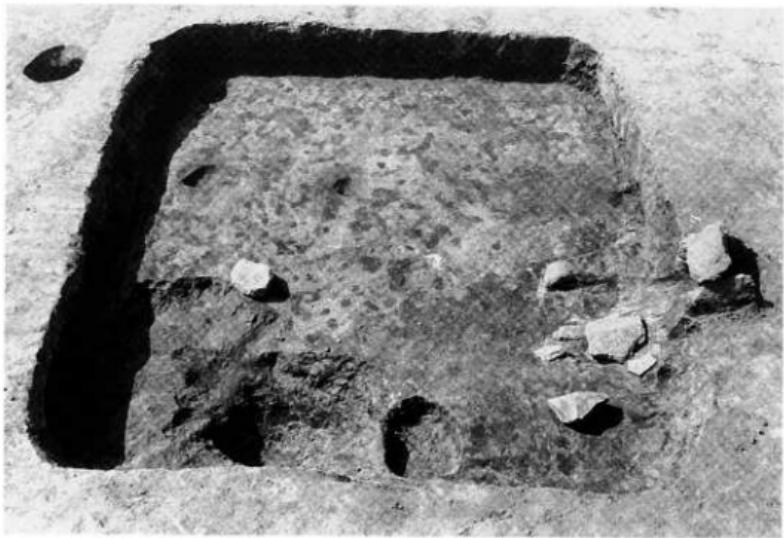


37・38号住居址



39号住居址

図版24



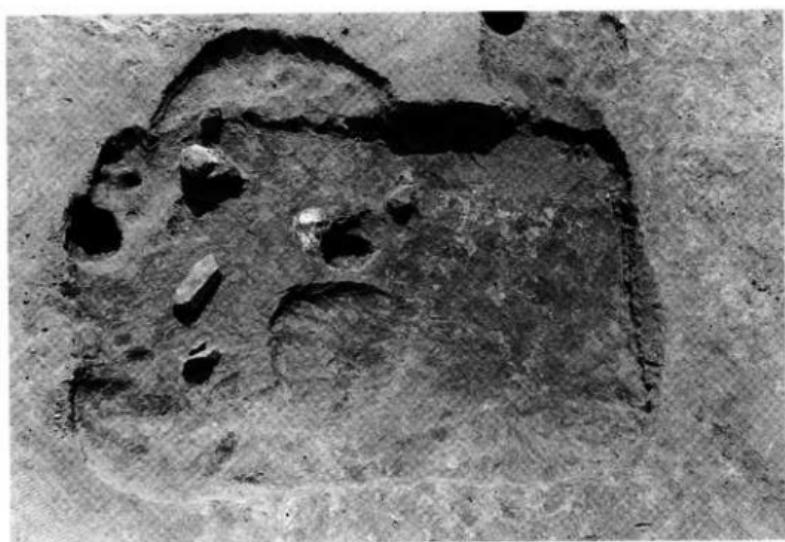
40号住居址



41号住居址



1·2号竖穴状遗構



4号竖穴状遗構

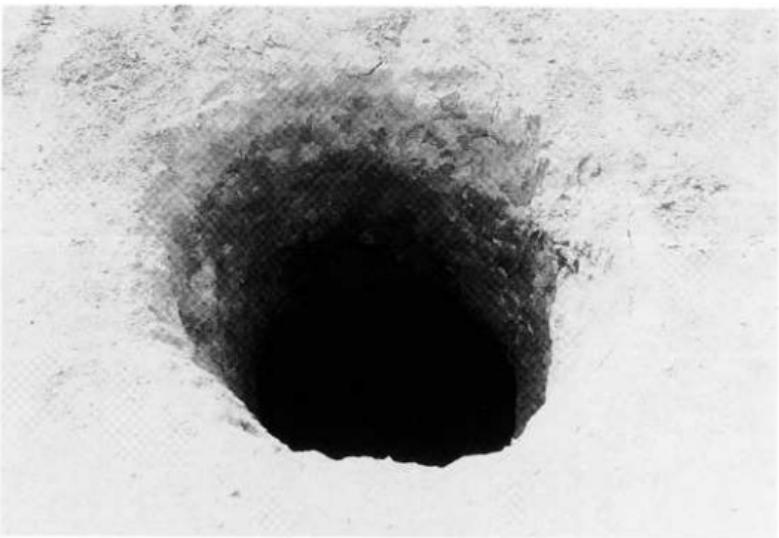
図版26



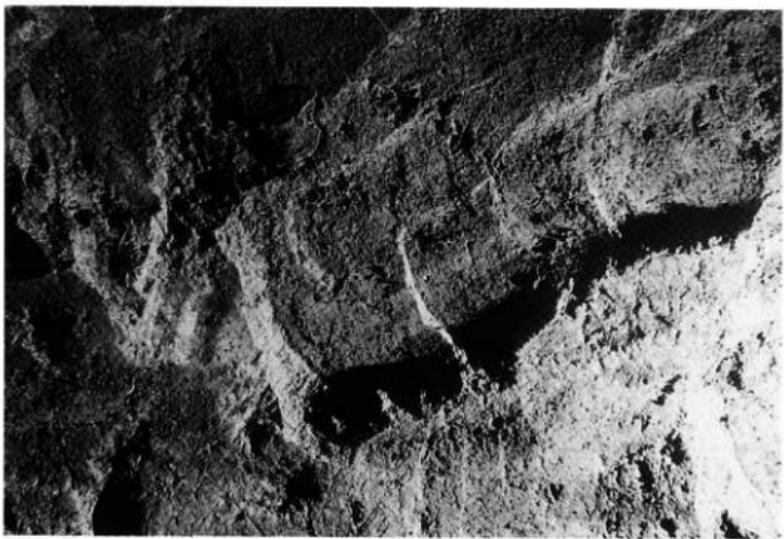
1号地下式坑



1号地下式坑豊坑



2号地下式坑



2号地下式坑工具痕

图版28



1号溝状遺構



2号溝状遺構

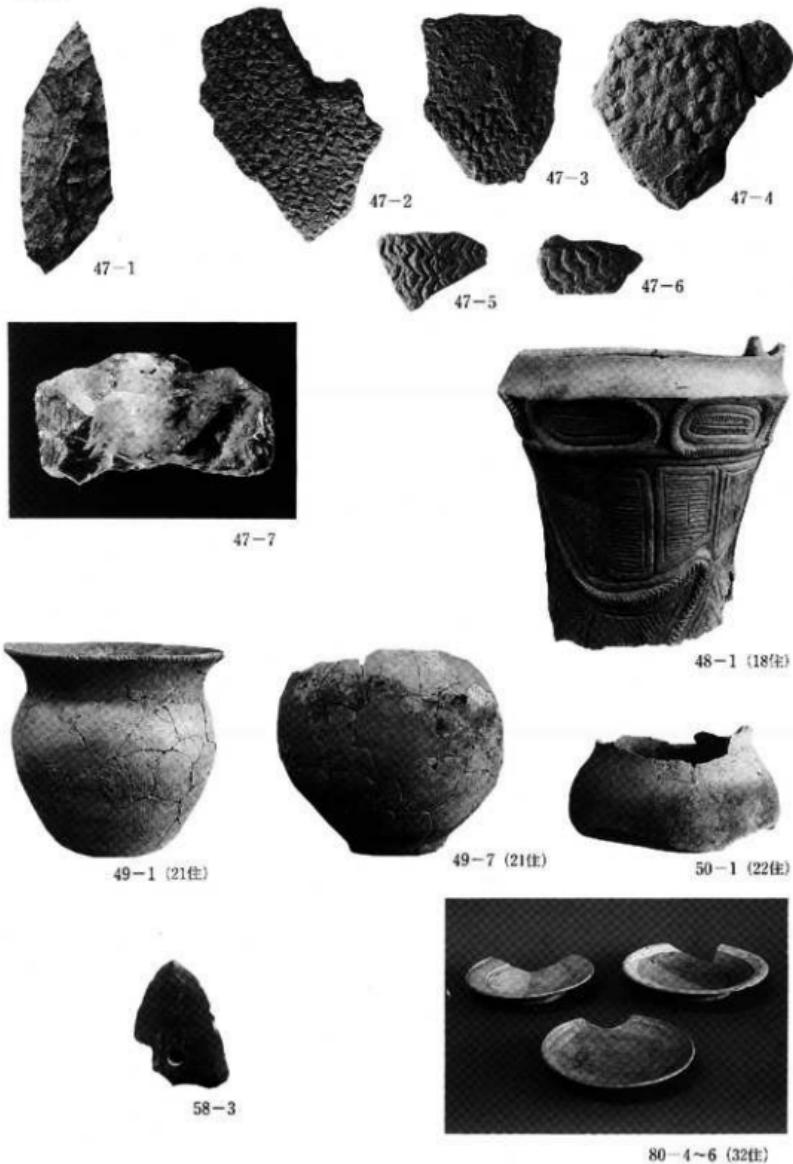


4号溝状遺構



2・5号溝状遺構

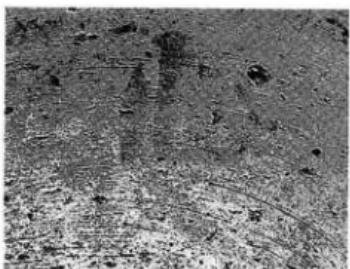
図版30



80-4~6 (32住)



51-3 (3住)



76-2 (29住)



67-3 (17住)



76-1 (29住)



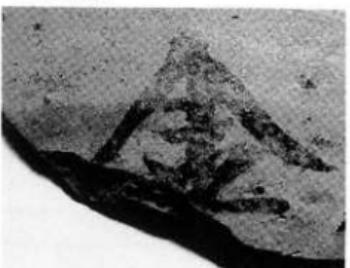
67-4 (17住)



86-5 (34住)



72-2 (25住)



86-9 (34住)

報告書抄録

ふりがな	ふるごしょひがしいせき						
書名	古御所東遺跡						
副書名							
シリーズ名							
シリーズ番号							
編著者名	杉本 充						
編集機関	白州町教育委員会						
所在地	〒408-0315 山梨県北巨摩郡白州町白須312 TEL 0551-35-2800						
発行年月日	1999年3月20日						
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所取遺跡名	所在地	市町村					
よるごしょひがしいせき 古御所東遺跡	山梨県北巨摩郡 白州町 横手字古御所 2,061他	194085	35° 47' 23"	138° 19' 33"	19920616 19920904	6,800	県営開場整備事業
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
古御所東遺跡	集落址	绳文草創期	_____	尖頭器			
		早期	_____	押彫文土器			
		中期中	竪穴住居址 1軒	土器・土偶			
		古墳時代	竪穴住居址 2軒	土師器			
		平安時代	竪穴住居址 42軒	土師器・鉄器			
中世	地下式坑 2基 土坑 123基 竪穴状遺構 4基 掘立柱建物址 1軒 溝状遺構 5条 ピット群	石臼					

古御所東遺跡発掘調査報告書

1999年3月10日 印刷

1999年3月20日 発行

発行　白州町教育委員会
山梨県北巨摩郡白州町白須312
電話 (0551) 35 2800

印刷　ほおづき書籍株式会社
長野市柳原2133-5
電話 (026) 244-0235
